



事業報告書
平成24年度
(2012年度)



学校法人の概要

建学の精神・理念	2
[1] 建学の精神・理念	2
[2] 学園の中長期計画	2
沿革	4
役員及び教職員に関する情報	5
[1] 役員の概要	5
[2] 理事・監事一覧	5
[3] 評議員一覧	5
[4] 教職員の概要	5
設置学校等	6

事業の概要

当該年度の主な事業の概要	8
[1] 主な事業の目的・計画	8
[2] 進捗状況	10
教育研究の概要	22
[1] 教育研究上の基本となる組織に関する情報	22
[2] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報	22
[3] 学生に関する情報	23
[4] 教育課程に関する情報	30
[5] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	37
[6] 学習環境に関する情報	38
[7] 学生等納付金に関する情報	45
[8] 学生等支援と奨学金に関する情報	50
管理運営の概要	54
[1] 学園	54
[2] 大学	55

財務の概要

学校法人会計・勘定科目の概要	56
当該年度の財務状況	57
[1] 財産目録	57
[2] 収支計算書	58
① 資金収支計算書	58
② 消費収支計算書	59
③ 貸借対照表	60
経年比較	61
[1] 収支計算書の推移	61
① 資金収支計算書	61
② 消費収支計算書	62
③ 貸借対照表	63
[2] 財務比率の推移	64
① 消費収支計算書の比率	64
② 貸借対照表の比率	65
監事の監査報告書	66

“教育力トップ”の 学園を目指して

文教大学学園 理事長 渡辺 孝



平成24年度の学園の事業報告書を供覧致します。

本報告書は、文教大学学園が平成24年度に実施いたしました諸事業について関係各位に広くご理解頂くために取り纏めて報告申し上げるものでございます。

文教大学学園は昭和2(1927)年の創立以来、八十有余年の歴史を刻んで参りました。現在では文教大学を中核として、附属幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学院等を擁し、園児・児童・生徒・学生等の総数は1万人を超える総合学園として、揺るぎない地位を確立しております。こうした学園の発展は、関係各位のご支援の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

しかしながら、教育機関を巡る環境は大きく変化しております。まず、先進国経済へのキャッチアップの終焉や経済のグローバル化に伴う海外諸国との競争激化等によって、わが国経済の成長率は著しく低下しており、これらを打開していくためには、今後の将来を見据えた優れた人材の養成が極めて重要となっております。また、18歳人口の急減と大学・学部の新増設等によって大学や学校間の競争は激化しております。これらの面から、教育の質向上や経営基盤強化が教育機関の大きな課題となっております。

こうした問題意識の下、学園は平成21年度から「学

園経営戦略(第一次中期経営計画—2009～2012—)」を実施しております。これは、「教育リーディング・ユニバーシティ文教～教育力トップを目指す～」をビジョンフレーズとし、校舎の耐震化・リニューアル等を積極的に行いつつ、大学・付属校の教育を一段と競争力のあるものにしていくことを目的としており、経営・教学合計50余りの戦略項目から構成されています。これまで学園は経営と教学との緊密な連携の下、項目ごとに定められた担当理事・部署を中心に、精力的にこれを推進してまいりましたが、計画の最終年度である平成24年度末には、理事会・常勤理事連絡会において、全戦略項目について総括を実施し、項目ごとに「第一次中期経営計画における判断」、「全体としての評価」、「第二次中期経営計画における継続の可否について」等を審議決定いたしました。平成25年度は、第一次中期経営計画の継続項目や学園を取り巻く環境の変化に応じた新規項目を含めた「第二次中期経営計画—2013～2016—」を策定し、教職員が一体となってこれを実行に移していく予定です。

今後、学園としては、建学の理念である「人間愛」をベースとしつつ、「教育力トップ」の学園の実現を目指して、最大限の努力を傾注して参ります。皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

[1] 建学の精神・理念

文教大学学園の建学の精神は「人間愛」です。人間愛とは、「人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むこと」です。

学園は、昭和2年に「立正精神」を教育理念・建学の精神として設立され、今日では幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学6学部、教育専攻科、大学院5研究科、外国人留学生別科を擁する総合学園に発展して参りました。学園設立当初の教育理念「立正精神」は日蓮聖人によって体得せられた法華經の精神で、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、理想社会の実現を期するところのもので、これは生命の尊厳を基盤とする「人間愛」を前提とするところのものであります。

「人間愛」の精神は、何よりも「生命(いのち)を大切にす心」の上に成り立っています。私たち一人一人の生命(いのち)

は、それが誰の生命であっても、かけがえのないもので、何ものにも換え難く大切なものです。「人間愛」の精神は、人と人とが認め合い、尊敬し合い、許しあい、思いやる、そういう社会が必ず実現することを望み、確信する心です。

本学園では、園児・児童・生徒・学生等の学習者が知識や技能・技術を学修するに当たって、「人間愛」の精神(こころ)を人格の中核として形成することを大切に考えています。本来、教育の本旨は人格の形成にあるからです。

「人間愛」の教育の実践は、「園児・児童・生徒・学生の喜ぶ顔が見たい。子どもたちに悲しい思いをさせない。悲しむ顔は見たくない。」と教職員一同が心から思うところにあります。現在、本学園では、教職員と子ども、子どもと子ども、教職員と教職員などの中で「人間愛」の精神が醸成され、各学校の教育の柱として展開されています。

[2] 学園の中長期計画

文教大学学園は、平成22年1月、学園の抱える諸課題に対応するため、学園としては初めて、「学園経営戦略(第一次中期経営計画-2009~2012-)」を決定し、実行を開始いたしました。具体的には、平成25年3月末までの3年余りの間、ハード(校舎リニューアル等)・ソフト(教育力充実、組織・制度改革等)両面にわたる各種の施策を推進してまいりました。

学園が中長期的に目指すべき姿として、学習者に対する極めて高い付加価値の付与を意味する「教育リーディング・ユニバーシティ文教~教育力トップを目指す~」を掲げ、経営と教学との緊密な連携の下、実践していくべき4年間の目標と課題を掲げました。

このうち、まず経営においては、「総合学園の維持・発展」を目標に、取り組むべき課題として、「競争力を持った教育環境の整備」、「強固な財政基盤の確立」、「変化対応力のある組織力の確立」、「学園ブランドの確立」の4つを掲げ、また、教学では、「質の高い・特色ある教育課程の実践と活気・魅力に溢れたキャンパスの構築」を目標とし、取り組むべき課題として「入試戦略」、「教育改革」、「学生支援」、「キャリア支援」、「国際交流・

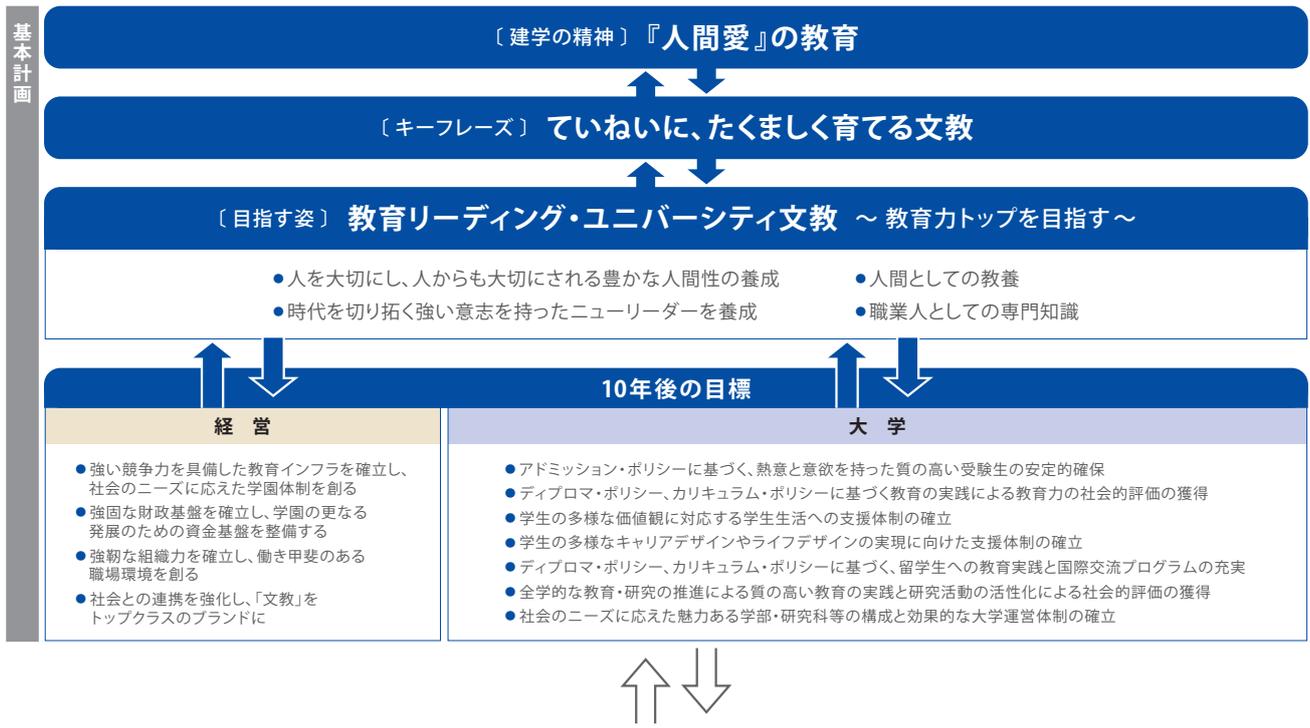
留学生」、「教育・研究支援」、「改組」の7つを掲げ、経営・教学合計50余りの施策を推進してきました。

毎年4月と9月には、理事会・常勤理事連絡会において、各項目の進捗状況を確認、問題点や課題等をチェックし、所要の対策を講じました。また、毎年度末等には、第一次中期経営計画の学園の現状等についての理解促進のため専任教職員全員を対象に各キャンパスにおいて進捗説明会を開催し、その開催回数は過去4年余りの間で延べ20数回に及びました。

第一次中期経営計画の最終年度である平成24年度末には、理事会・常勤理事連絡会において、各戦略項目について、総括を実施し、項目ごとに「第一次中期経営計画における判断」、「全体としての評価」、「第二次中期経営計画における継続の可否について」等を審議決定いたしました。

平成25年度は、第一次中期経営計画の総括を踏まえつつ、学園を取り巻く環境の変化に応じた新たな課題に対応していくための、「第二次中期経営計画-2013~2016-」を策定し、これを実行に移していく予定です。

学園経営戦略(第一次中期経営計画－2009～2012－)ビジョン・マップ



経営	大学
<p>4年間の目標 総合学園の維持・発展</p> <p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育研究費比率(教育研究費/消費支出)を私大平均並みに(30%確保) ●学習者1万人確保 ●所属収入を120億円以上確保 <p>① 競争力を持った教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■石川台校舎のリニューアル着手 ■小学校の2クラス化着手 ■旗の台校舎のリニューアル着手 ■中高など付属校の競争力強化 ■越谷校舎再開発(第3期計画)着手 ■大学2キャンパスの教育環境整備 ■通信教育学部の設置着手 ■保育園の設置・社会福祉法人格取得の着手 ■学習者のケア体制の拡充 ■学生寮設置の検討 ■奨学金制度の拡充 ■教員評価制度の研究 ■留学生受入ポリシーの検討 <p>② 強固な財政基礎の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■本格的寄付金事業の着手 ■補助金獲得体制の強化 ■新規事業の採算性チェックと具体的実施計画の検討 ■予算・決算制度改革の着手 <p>③ 変化対応力のある組織力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■職員人事給与評価制度改革の促進 ■教員人事制度改革の検討 ■事務局体制整備・人員配置計画策定と実施 ■ガバナンス体制の検討 ■情報システムの整備 ■リスク管理対応体制の強化 <p>④ 学園ブランドの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■校友会の設立着手 ■学園の知名度向上 ■地域拠点の設置着手 ■学生募集広報強化 	<p>4年間の目標 質の高い・特色ある教育課程の実践と活気・魅力に溢れたキャンパスの構築</p> <p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ■安定した受験者数の確保 ■明確な3つのポリシーに基づく関連事業を展開 ■大学満足度の向上 <p>入試戦略</p> <p>安定した受験者数の確保と、質の高い学生及びアドミッション・ポリシー(入学受け入れの方針)に基づいた学生の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■入試制度改革の推進 ■学生募集広報強化 ■学部と研究科の連携による進路指導の充実 ■効率的な教員系・事務系入試組織の整備・強化 <p>教育改革</p> <p>ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)の明確化と、そのポリシーに基づき創意工夫・系統化された教育課程の提供と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各学部・研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの明確化 ■ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程の検討 ■学部、研究科及び校舎間の全学的な相互連携を強化 <p>学生支援</p> <p>学生の学生生活満足度向上のために必要な支援、サービス、教育環境の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学生相談体制(要支援学生早期発見とケア体制含む)の強化と組織の検討 ■地域との連携活動等、学生の社会参加を支援・促進 ■ふれあい、コミュニケーションを促進するキャンパス環境の整備 ■奨学金制度の見直しと充実の検討 ■校友会活動(クラブ・サークル活動等)の支援強化 <p>キャリア支援</p> <p>学生の多様な進路、就職先への支援強化と就職満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就職難易度の高い有名(上場)企業、公務員上級職などを希望する学生への就職支援の強化 ■自身にとって適切な進路を見出すためのキャリア教育の充実と支援の強化 ■卒業生(留学生含む)情報の追跡調査の着手 ■大学と卒業生のネットワーク構築・連携の強化 <p>国際交流・留学生</p> <p>留学生の受け入れ、送り出し方針、教育方針の明確化と入学から卒業までの組織的なトータルケア体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各学部・研究科における留学生受け入れ、送り出し方針、教育方針等の明確化 ■国際交流プログラムの充実と拡充 ■留学生の相談、支援体制の強化と組織の検討 <p>教育・研究支援</p> <p>教育力(教育の質)の向上、研究成果の増加を図るための全学的体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■教育研究推進センター(仮称)設置の検討 ■授業方法の開発研究とそれに基づく改善の推進 ■FD(ファカルティ・ディベロップメント)の全学的体制の整備 ■研究環境・研修制度の整備 ■外部研究費申請のための事務局支援体制の整備 <p>改組</p> <p>社会のニーズに応え、各学部・研究科の特色を生かした改組の検討と効果的な大学運営のための組織体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■入学定員及び学部・学科等構成の適正な配置の継続的検討 ■センター、委員会の概念・条件の明確化とそれに基づく整備 ■意思決定に関わる会議体制及び組織の見直しと整備 ■学生支援、教育支援を強化するための事務体制の整備

学園経営戦略 第一次中期経営計画－2009～2012－の総括状況について

<p>経営</p> <p>①第一次中期経営計画において実施目的が達成された項目・【終了】:5項目</p> <p>②第二次中期経営計画において継続する項目・【継続予定】:18項目</p> <p>③第一次中期経営計画において諸事業により実施を中止若しくは一旦中断した項目・【中止・一時中断】:5項目</p> <p>全28項目</p>	<p>大学(教学)</p> <p>①第一次中期経営計画において実施目的が達成された項目・【終了】:5項目</p> <p>②第二次中期経営計画において継続する項目・【継続予定】:18項目</p> <p>③第一次中期経営計画において内容を見直し変更する項目・【項目変更予定】:5項目</p> <p>全28項目</p>
---	---

和暦	西暦	沿革
昭和2年	1927年	▶馬田行啓、小野光洋によって荏原郡大崎町(現品川区東大崎)に立正幼稚園、立正裁縫女学校創立
昭和3年	1928年	▶財団法人立正学園設立、立正女子職業学校設立
昭和4年	1929年	▶立正女子職業学校を立正学園女学校と校名変更、荏原郡荏原町(現品川区旗の台)に移転
昭和7年	1932年	▶立正学園高等女学校設立
昭和22年	1947年	▶学制改革により立正学園中学校設立
昭和23年	1948年	▶学制改革により立正学園女子高等学校設立
昭和26年	1951年	▶財団法人立正学園を学校法人立正学園と法人組織変更 ▶立正学園小学校設立
昭和28年	1953年	▶立正学園女子短期大学設立、家政科設置
昭和37年	1962年	▶短期大学に英語英文科、児童科設置
昭和38年	1963年	▶短期大学に文芸科、栄養科設置
昭和41年	1966年	▶埼玉県越谷市に立正女子大学設立、家政学部家政学科設置
昭和43年	1968年	▶家政学部に児童学科増設 ▶立正学園女子短期大学を立正女子大学短期大学部と校名変更
昭和44年	1969年	▶立正女子大学に教育学部初等教育課程、中等教育課程設置
昭和51年	1976年	▶立正女子大学に人間科学部人間科学科設置 ▶立正女子大学を文教大学と、短期大学部を文教大学女子短期大学部と校名変更
昭和52年	1977年	▶文教大学を男女共学とする
昭和55年	1980年	▶文教大学に情報学部広報学科、経営情報学科設置
昭和58年	1983年	▶学校法人立正学園を学校法人文教大学学園と法人名称変更
昭和60年	1985年	▶情報学部及び女子短期大学部を神奈川県茅ヶ崎市に移転 ▶品川区旗の台に文教大学経営情報専門学校設立
昭和61年	1986年	▶情報学部の情報システム学科増設
昭和62年	1987年	▶文教大学に文学部日本語日本文学科、英米語英米文学科、中国語中国文学科設置
平成2年	1990年	▶文教大学に国際学部国際学科設置
平成4年	1992年	▶文教大学に専攻科教育専攻科教育学専攻設置
平成5年	1993年	▶文教大学に大学院設置、人間科学研究科修士課程設置 ▶文教大学に外国人留学生別科設置
平成10年	1998年	▶人間科学部に臨床心理学科増設 ▶教育学部の初等教育課程を学校教育課程と名称変更
平成11年	1999年	▶大学院に言語文化研究科修士課程設置
平成12年	2000年	▶大学院人間科学研究科に博士(後期)課程増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科、国際関係学科増設 ▶女子短期大学部の文芸科を現代文化学科、英語英文科を英語コミュニケーション学科、栄養科を健康栄養学科、家政科をライフデザイン学科に名称変更
平成15年	2003年	▶教育学部に心理教育課程増設 ▶女子短期大学部を単科の健康栄養学科と組織変更
平成17年	2005年	▶大学院に情報学研究科修士課程・国際協力学研究科修士課程設置 ▶大学院人間科学研究科に人間科学専攻修士課程増設 ▶学校法人文教大学学園幼稚園を文教大学付属幼稚園と名称変更
平成19年	2007年	▶大学院に教育学研究科修士課程設置
平成20年	2008年	▶人間科学部に心理学科増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科を国際理解学科、国際関係学科を国際観光学科と名称変更
平成22年	2010年	▶文教大学に健康栄養学部管理栄養学科設置
平成24年	2012年	▶大学院言語文化研究科に博士(後期)課程増設

[1] 役員概要

役職名	定員数	現員数
理事	12~16	15
監事	2	2
評議員	38~54	46

[2] 理事・監事一覧

役職名	氏名(所属・選出)	担当名
理事長	渡辺 孝	総括・経営企画
常務理事	宮原 辰夫(国際学部教授)	新規事業/危機管理対策支部:湘南キャンパス/総括・経営企画/大学(教育改革/改組)
理事	大橋 ゆか子(文科大学学長)	大学(総括/入試戦略/教育改革/学生支援/キャリア支援/研究支援・出版事業/改組)
理事	西 義一(教育学部教授)	付属学校/危機管理対策支部:越谷キャンパス/新規事業/大学(入試戦略)
理事	藤森 進(人間科学部教授)	地域・社会・国際貢献/学園校友会/大学(キャリア支援)
理事	坪井 順一(情報学部教授)	学園情報システム/新規事業/学園校友会/地域・社会・国際貢献/大学(改組)
理事	星野 喜代美(付属中学校・高等学校長)	付属学校/労務/教育環境整備
理事	新熊 基(法人事務局長)	財務/労務/教育環境整備/危機管理対策支部:旗の台キャンパス・石川台キャンパス/ 総括・経営企画/人事制度改革/付属学校/学園情報システム
理事	俣野 照近(大学事務局長)	大学(総括/学生支援)/学園校友会
理事/非常勤	石田 恒好(学園功労者) [学園長]	—
理事	石原 俊一(人間科学部教授)	人事制度改革/労務
理事	中島 滋(健康栄養学部教授)	付属学校/教育環境整備/大学(研究支援・出版事業/改組)
理事/非常勤	浜脇 麻起子(学識経験者)	—
理事/非常勤	前田 久明(学識経験者)	—
理事/非常勤	横内 清光(学識経験者)	広報戦略/学園校友会/地域・社会・国際貢献
監事/非常勤	佐藤 善吉	
監事/非常勤	寺田 祥三	

[3] 評議員一覧

役職名	氏名
評議員(学外)	安岡 紀子
評議員(学外)	杉田 知佳子
評議員(学外)	西之園 芳憲
評議員(学外)	飯島 浩光
評議員(学外)	海谷 隆彦
評議員(学外)	ホルトハウス 房子
評議員(学外)	小泉 満子
評議員(学内)	平澤 茂
評議員(学内)	神田 信彦
評議員(学内)	蔣 垂東
評議員(学内)	根本 俊男
評議員(学内)	藤井 美文
評議員(学内)	西 義一
評議員(学内)	野島 正也
評議員(学内)	磯山 甚一
評議員(学内)	竹田 仁
評議員(学内)	山口 一美
評議員(学内)	中島 滋
評議員(学内)	星野 喜代美
評議員(学内)	小宮山 郁子
評議員(学内)	須原 洋
評議員(学内)	新熊 基
評議員(学内)	羽田 宏壽
評議員(学内)	俣野 照近

役職名	氏名
評議員(学内)	鈴木 祐司
評議員(学内)	高島 修
評議員(学内)	長谷川 明
評議員(学内)	柳田 孝義
評議員(学内)	藤森 進
評議員(学内)	紙 宏行
評議員(学内)	今井 陽子
評議員(学内)	坪井 順一
評議員(学内)	宮原 辰夫
評議員(学内)	太田 信宏
評議員(学内)	宮越 昭彦
評議員(学内)	菅沼 すみ子
評議員(学内)	室賀 さち子
評議員(学内)	斎藤 正
評議員(学内)	大橋 ゆか子
評議員(学内)	石田 恒好
評議員(学内)	石原 俊一
評議員(学内)	中島 滋*1
評議員(学内)	浜脇 麻起子
評議員(学内)	前田 久明
評議員(学内)	横内 清光
評議員(学内)	渡辺 孝

*1) 役職兼任者

[4] 教職員の概要

区分(本務のみ)	教員	職員	計
学校法人	—	19	19
文教大学	242	140	382
文教大学付属高等学校	34	5	39
文教大学付属中学校	21	3	24
文教大学付属小学校	11	1	12
文教大学付属幼稚園	9	1	10
合計	317	169	486

*文教大学教員数には、学長1名及び教育研究所教員1名を含む。

各キャンパス

文教大学

越谷キャンパス

埼玉県越谷市南荻島3337

教育学部／人間科学部／文学部
教育学研究科／人間科学研究科／言語文化研究科
専攻科／外国人留学生別科



湘南キャンパス

神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

情報学部／国際学部／健康栄養学部
情報学研究科／国際協力学研究科



文教大学附属中学校・高等学校
文教大学附属幼稚園

旗の台キャンパス

東京都品川区旗の台3-2-17



文教大学附属小学校

石川台キャンパス

東京都大田区東雪谷2-3-12



学校長



大学 学長
大橋 ゆか子



中学校・高等学校 校長
星野 喜代美



小学校 校長
小宮山 郁子



幼稚園 園長
須原 洋

キャンパスリニューアル計画

旗の台キャンパスのリニューアル

5か年計画による付属中学・高等学校・幼稚園の新校舎の建設が進行中。平成24年度は、中学・高等学校の建物に着工。耐震性能の確保により生徒の安全に配慮したうえで、最新鋭の教育設備による教育の充実を図ります。



中学・高等学校



幼稚園

幼稚園

建物概要：鉄筋コンクリート造、地下1階・地上5階建、延べ床面積約14,689㎡
平成26年2月 1期工事終了予定 / 平成27年7月 2期工事終了予定 / 平成28年6月 3期工事終了予定

石川台キャンパスのリニューアル

現在、付属小学校の新校舎を建設中（平成26年3月全体完成予定）。施設の安全性・耐震性の確保、高度化・多様化する教育内容の変化にも柔軟に対応できる機能的な設備の拡充を図ります。



建物概要：鉄筋コンクリート造、地下1階・地上4階建（4階は設備置場）、延べ床面積約3,305㎡
平成25年4月 第二運動場使用開始 / 平成25年9月 新校舎使用開始予定 / 平成26年3月 全体完成予定（運動場・外構等含む） / 旧校舎解体工事は平成25年12月終了予定

[1] 主な事業の目的・計画

学園経営戦略

学園経営戦略(経営)に関する事業

- ① 石川台キャンパス附属小学校耐震改築等整備工事
- ② 石川台キャンパス附属小学校グラウンド整備工事
- ③ 旗の台キャンパス耐震改築等整備工事
- ④ 附属学校競争力強化事業
- ⑤ 大学2キャンパス(越谷キャンパス・湘南キャンパス)の教育環境整備事業
- ⑥ 本格的寄付金事業の着手
- ⑦ リスク管理対応体制の強化
- ⑧ 学園芸術祭の開催
- ⑨ 東日本大震災被災学生等に対する経済的支援事業
- ⑩ 学園省エネルギー中長期整備改善事業
- ⑪ 学園の知名度向上・学生募集広報強化

各校の学園経営戦略(教学)に関する事業

大学が学園経営戦略に基づき実施する事業

- ① 入試戦略に関する事業
- ② 教育改革に関する事業
- ③ 学生支援に関する事業
- ④ キャリア支援に関する事業
- ⑤ 国際交流・留学生受入れに関する事業
- ⑥ 教育・研究支援に関する事業
- ⑦ 改組の検討及び組織体制の整備

文教大学

当該年度の教育目標

- ① 人間愛の精神に基づく教育を実施・充実させ、豊かな人間性と確かな能力を身に付けた人材を社会に送り出します。人間愛とは、人間性の絶対的尊厳とその無限の発展性を確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むことです。文教大学は、人間愛の教育を実践します。
- ② 初年次教育を充実させ、また、学部によりリメディアル教育を実施し、入学した学生が大学において確実に学修できるよう支援を強化します。
- ③ 少人数の基礎クラスによる必修授業を設定する等、カリキュラム上の配慮を含めて、全ての学生に目の届き目の細かい教育を行います。
- ④ 厳しい就職環境の中、学生が卒業後、社会で活躍する場を獲得できるよう、キャリア支援や就業力養成の取り組みを実施します。

主な事業計画

当該年度の教育活動計画

- ① 新カリキュラムの展開

- ② カリキュラムの改訂
- ③ リメディアル教育への取り組み
- ④ 大学院で学位にふさわしい力をつけるための取り組み
- ⑤ キャリア支援強化
- ⑥ 遠隔授業システムの活用による教育資源交流
- ⑦ 教職課程運営体制の整備
- ⑧ 各学部等における特色ある取り組み

当該年度の研究活動・支援計画

- ① 外部研究費獲得に向けての支援強化
- ② 公的研究費執行体制の整備
- ③ 学長調整金(学内の競争的資金)による研究等の支援
- ④ 博士論文を始めとした専任教員の学術図書刊行支援
- ⑤ 在外研究の支援

当該年度の学習者支援事業

- ① 学生支援室設置による学生サポート体制の整備
- ② 震災被災学生への支援の継続
- ③ 国際交流体制検討ワーキンググループ設置による体制整備
- ④ 生涯学習センターの取り組み

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ① ホームカミングデーの実施
- ② 地域連携シンポジウムの開催
- ③ 高大連携の強化

校舎施設設備の改善

- ① 越谷キャンパス非常放送設備の整備
- ② 越谷図書館の施設整備
- ③ 湘南キャンパス机イスの更新
- ④ 湘南キャンパストイレ改修
- ⑤ 湘南キャンパス外壁工事

入試制度、募集強化の取り組み

- ① 志願者増加を目指した募集力強化
- ② 併願及び併願割引制度の導入

その他

- ① 学生の国際交流活動の充実
- ② ラーニングスクエアの運営及び支援
- ③ わかりやすい情報公表への取り組み
- ④ 認証評価改善報告書の作成

文教大学附属中学校・高等学校

当該年度の教育目標

教育目標として掲げる「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の3つの育成を目指すとともに、「進学の高専校へ」となるべく学校改革のフェーズⅡの初年度として、教育力と進学実績の向上を推進します。

主な事業計画

当該年度の教育活動計画

- ① 学習サポート体制の構築

当該年度の研究活動計画

- ① 教員の教育力向上を図る
- ② デジタル教材の研究と活用
- ③ 外部研修会への参加

当該年度の学習者支援事業

- ① 百科事典データベースの導入
- ② 中学生向け進路指導資料の整備

校舎施設設備の改善

- ① 高等学校教室環境の整備

募集強化の取り組み

- ① 入試広報媒体の体系化

文教大学附属小学校

当該年度の教育目標

- ① 児童に確かな学力を保证するためのシステムの構築
- ② 教員指導力の強化
- ③ ボランティア活動の充実

主な事業計画

当該年度の教育活動計画

- ① カリキュラムの再編とシラバスの作成
- ② 複数教員による指導の実践
- ③ 基礎学力を定着するための教育の実践
- ④ 広報活動の充実

当該年度の研究活動計画

- ① 校内研修の強化
- ② 外部研修会への積極的な参加

当該年度の児童支援事業

- ① 進路指導体制の構築

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ① 同窓会等との地域連携強化

文教大学附属幼稚園

当該年度の教育目標

幼稚園創立以来の伝統である「素直で明るい元気な子」をもとに、次の3点を目標とします。

- ① 感性・意欲を育てる。
- ② 慈愛・感謝の心を育てる。
- ③ 規則正しい生活習慣を身に付ける。

こうした教育目標を掲げ、建学の精神「人間愛」の教育を行い、「伸び伸び活動できる幼稚園」を目指します。また、附属小学校を含む私立小学校への進学を視野に入れ、知育に重きを置きます。

主な事業計画

当該年度の教育活動計画

- ① プレスクールの充実
- ② 知育、徳育、体育のバランスの良い教育の充実
- ③ 入園審査方法や日程の検討

当該年度の研究活動計画

- ① 品川区私立幼稚園協会の研究・研修事業への参加
- ② 幼児教育諸団体の夏季研修会への参加
- ③ 他園の知育強化カリキュラムを学び、本園導入策の検討

当該年度の学習者支援事業

- ① 附属小学校進学希望者の対応
- ② 他の私立小学校、国立小学校進学希望者の対応
- ③ 品川区立小学校進学希望者の対応

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ① 父母の会、品川区家庭教育学級への取り組み
- ② 品川区私立幼稚園協会への参加

[2] 進捗状況

※【】内の数字は決算額。ただし1万円未満は切り上げ。

学園経営戦略

学園経営戦略に関する事業

石川台キャンパス付属小学校

耐震改築等整備工事【4億8,908万円】

平成26年3月の竣工を目指し、耐震性に優れた校舎への耐震改築等整備工事を開始しました。24年度末までに、新校舎の3階立ち上がりまで建築工事が進みました。本工事は、児童及び教職員の安全性確保を始め、高度化・多様化する教育内容の変化にも柔軟に対応し得る機能的な施設・設備の整備充実を目指しています。

石川台キャンパス付属小学校グラウンド整備工事【9,190万円】

付属小学校の北東側土地において、児童の運動及び遊びの場としての活用を目指し、グラウンド整備工事を平成24年8月に着工し、25年4月に使用を開始します。本グラウンドは、ゴムチップウレタン舗装、1周72mトラックを備えた「第二運動場」として、児童の運動能力向上のために利用されます。

旗の台キャンパス耐震改築等整備工事【3億3,938万円】

平成28年6月の竣工を目指して、耐震性に優れた校舎への耐震改築等整備工事（Ⅰ期～Ⅲ期）を24年9月から着工しました。Ⅰ期工事として、26年2月末までに、西棟（旧本館跡地）及び東棟Ⅰ期（旧内庭中央付近）の2棟の竣工を目指しています。これにより、生徒及び教職員の安全性確保を始め、高度化・多様化する教育内容の変化にも柔軟に対応し得る機能的な施設・設備の整備充実を目指します。

付属学校競争力強化事業

各付属学校の項目に記載しています。

大学2キャンパス（越谷キャンパス・湘南キャンパス）の教育環境整備事業

◆越谷キャンパス 追尾型TV装置の設置【388万円】

12号館12201教室（ビジネスコミュニケーション実習室）のAV設備に自動追尾カメラ制御器及び録画用BD/DVD/HDDレコーダを設置しました。収録用のBDレコーダに授業を録画することで一度受講しただけでは理解できない場合等、繰り返し内容を見ることで理解度の向上を図っています。

◆湘南キャンパス 4・6号館1階の休憩空間の整備計画【1,411万円】

学生が憩える場所を増やすため、既存の憩いの空間（4・6号館1階）をより快適な空間に作り替え、併せて手作りパンの販売を通して食事環境を改善し、学生サービスの向上を図りました。

本格的寄付金事業の着手【1,009万円】

平成24年9月1日から、学園創立90周年に伴う建物の改築を主な用途とする「学園創立90周年記念事業募金」を開始しました。24年度は、教職員及び一部の保護者を対象として募金を依頼し、今後、全学園保護者、卒業生、企業と順次募集対象を拡大していき、募金目標額11億円（総事業費110億円の10%）の達成を目指すとともに、強固な寄付金募集体制を確立していきます。

リスク管理対応体制の強化【2,983万円】

大規模地震発生時の危機管理対応能力の強化のために、以下の施策を実施しました。

①避難所の安全性チェック

学園の避難所に指定されている建物の非構造部材の調査を行い、避難場所の安全性を確認しました。

②危機管理対応訓練の実施

大規模地震初動対応マニュアルの完成を受けて、判断・指示する立場である本部員・支部員を対象に、マニュアルの周知及び実効性の検証のために訓練を実施しました。25年度以降に、教職員に対する周知・訓練を実施する予定です。

③災害備蓄品の整備・拡充

想定残留者5,050人（越谷1,900、湘南1,300、旗の台1,500、石川台350）が3日間滞在するために必要な災害備蓄品を整備する「備蓄品整備計画（5カ年計画）」を作成し、実行に移しました。平成25年度は、前述の計画に基づき、災害備蓄品及び備蓄品を購入します。

④衛生材料の購入

災害発生時に救護所運営を円滑に行うため、衛生材料を購入し備蓄しました。

学園芸術祭の開催【322万円】

1つの会場に幼稚園から大学までが一同に介して、バラエティ豊かな演目や展示を行う「学園芸術祭」を実施しました。各校同士の交流の機会を提供することで、在校生同士や保護者とのつながり、教職員とのつながり等、様々なつながりを目に見える形で実現できたと考えています。開催後のアンケートでは、園児・児童・生徒・学生・保護者の方々に、学園としての総合的なつながりを感じたとの評価をいただきました。

東日本大震災被災学生等に対する経済的支援事業

大学の項目に記載しています。

学園省エネルギー中長期整備改善事業【4,457万円】

平成22年に経済産業省から特定事業者の指定を受け、中長期的にみて年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目標に実施しています。24年度は湘南キャンパス6号館の既存ガス冷温水発生機を最新の機器に更新するとともに、更なる省エネ化を進めるため自動制御機器（インバータ）を設置しました。このほか、5号館5501教室の空調器具を集中型空調方式から個別空調方式に変更する工事を実施しました。

学園の知名度向上・学生募集広報強化

◆学園の知名度向上

毎年度、「文教大学広告イメージ調査」という調査で学園知名度を測定しています。この調査における目標は2つあり、平成25年6月調査時における学園知名度50%の達成・「文教大学を全く知らない」という回答を10%未満にするという目標を目指しています。24年度6月の調査結果では、学園知名度40.4%となりました。また、「文教大学を全く知らない」という回答結果は、17.6%となりました。学園知名度向上策の1つとして、大学がある越谷・湘南地区の映画館2館においてシネアドと呼ばれる本編上映前に放映されるCMを4月から10月にかけて実施しました。期間中、全スクリーンの全回において放映しました。

◆ 学生募集広報強化

文教大学

毎年度、大学入学志願者 18,000 人の確保に向けた活動を実施しています。平成24年度は、都道府県別・学部別志願者増のために、大学への志願者の多い東日本エリアを中心として、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・屋外看板広告や広報活動を行いました。様々な取り組みが功を奏して、25年度入試では18,000人以上の志願者を確保することができました。

新聞は、8月に中央紙で前頁カラー広告を東日本エリアに掲出しました。また、大学の志願者の多い、東日本エリアに中央紙や地方紙を用いて、入試情報等を広報してきました。

テレビ媒体では、中央キー局や地方局でのCM等の放送をし、ラジオ媒体では、中高生に人気の番組に協賛をしました。また、湘南地区の地元FM局において学生・教職員が出演して、大学の「生の声」を放送を通じて、伝える取り組みをいたしました。屋外看板では、駅看板や大型デジタルビジョン等への広告を掲出し、関東圏だけでなく、地方においても広報しました。

文教大学付属中学校・高等学校

◇ ポスティングの実施

学力の定着を図るプログラムの紹介と学校説明会実施の案内、新校舎に変わるといった内容のチラシを作成し、下記4エリアに住む、中学受験を検討している保護者に対して、広くPRしました。多摩川以北重点、東急田園都市線沿線、東急東横線・JR京浜東北線・横須賀線沿線、墨田区

◇ 広報ツールの作成

学校案内の補足資料として、競争力強化プログラムで行っている取り組みに特化した冊子を作成しました。受験生やその保護者、受験関係者に、改革内容を広く周知するとともに、説明会時に、改革内容を説明する際にも使用しました。



文教大学付属小学校

◇ 私立小学校情報フェア(川崎会場、玉川高島屋会場)への出展・参加
私立小学校受験を考えている保護者の方々に、本学の存在や教育内容等をPRしました。

◇ 広報ツールの作成

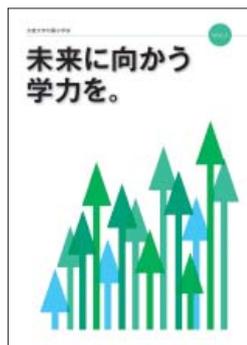
学校案内の補足資料として、入学してから6年後の“確かな学力”を養うために、小学校でどのような取り組みを行っているのかを冊子にまとめました。保護者や受験関係者(幼児塾・幼児教室)の方々に、広くPRしました。

◇ 外部受験サイトへの登録

新入生保護者アンケートから、小学校を最初に知ったきっかけの3分の1が、付属小学校のホームページであることが分かりました。外部受験サイトに、付属小学校ホームページへのリンクを作成することにより、付属小学校ホームページへのアクセス数が増加しました。

◇ 小学校受験データサポートのメール配信サービスの登録

小学校受験データのメール配信サービスを開始しました。付属小学校に関心を持った方に、直接、情報やお知らせをメールで連絡できるようにしました。



文教大学

当該年度の教育活動に関する事業

新カリキュラムの展開

情報学部、国際学部及び文学部において、新入生から平成23年度に改訂した新しいカリキュラムによる教育を始めました。

カリキュラムの改訂

平成23年度の情報学部、国際学部及び文学部に引き続き、人間科学部でカリキュラム改訂を行いました。今回の改訂は、学部教養科目及び学部共通専門科目の見直しによる初年次の科目の充実と、専門教育科目の見直しによる学修の体系的向上をねらいとしたものです。1年生の選択必修科目として「生命科学」「死生学」等、今日的な問題に直結する科目を設置しました。

図書館司書課程の設置

文学部を中心に検討していた図書館司書養成課程について、大学審議会で設置を決定し、理事会の承認を得て文部科学省に設置届出を行いました。平成25年度から設置します。

リメディアル教育への取り組み

学習者支援強化事業の項目に記載しています。

大学院教育の取り組み

学習者支援強化事業の項目に記載しています。

キャリア支援強化

厳しい就職状況の中で、学生が社会への第一歩を確実に踏み出せるよう、就職活動支援の取り組みを更に強化しました。越谷キャンパスにおいては、教員、幼稚園教諭・保育士、公務員、企業等の4分野にそれぞれ担当者を置き、学生の志望に対する各種対策講座、ガイダンス、ゼミナール、講演会、模擬試験等によるキャリア支援を継続して行いました。また、湘南キャンパスにおいては、大学生基礎力調査を全新生に実施し、自らの現状を認識させるとともに、補習学習、成長のための各種講座を開設し、目指す進路に進む力をつけさせる援助を行いました。その結果、平成24年度卒業生の就職決定率(就職希望者中の就職率)は89%となり、23年度に比して6ポイントアップしました。

◆ 越谷キャンパス就職支援の取り組み

教員就職希望者への支援

- ◇ 教採対策ゼミ(基礎講座～個別ゼミ) 約400人参加
- ◇ 教採合宿ゼミ(2泊3日) 186人参加
- ◇ 学内合宿ゼミ(通学2日間) 98人参加
- ◇ 試験直前ガイダンス 400人参加
- ◇ 試験対策講座(二次試験・実技試験) 4回 251人参加
- ◇ 教採模擬試験 3回 573人参加

その他、願書記入指導や再受験者ガイダンス等を実施しました。

幼稚園教諭・保育士希望者への支援

- ◇ エントリーシート指導、面接指導、論文指導 延べ240人参加
- ◇ 受験対策講座 42人参加
- ◇ 模擬試験 4回 51人参加
- ◇ 保育所長による講演会 83人参加
- ◇ OB・OG懇談会 22人参加

公務員希望者への支援

- ◇ 公務員の仕事入門講座 5回 355人参加
- ◇ 公務員試験対策講座 教養コース 66人参加
教養・専門コース 40人参加
- ◇ 4年生による公務員合格ゼミ 30人参加
- ◇ 学内公務員合宿(通学2日間) 67人参加
- ◇ 数的処理 4回 37人参加
- ◇ 経済原論補強ゼミ 10人参加

その他、公務員試験基礎講座(低学年向け)や再チャレンジガイダンス等を実施しました。

企業就職希望者への支援

- ◇ 学内合同企業研究会・仕事説明会 3回 521人参加
- ◇ エントリーシート対策講座 2回 470人参加
- ◇ 履歴書対策講座(基礎・応用) 432人参加
- ◇ 面接対策講座(学内合宿他、個人・集団等2回) 497人参加
- ◇ 4年生による3年生向け就活ゼミ(リアル・数学) 約250人参加

その他、研修会、講習会2回、シンポジウム2回、活動見直しガイダンス等を実施しました。

◆湘南キャンパス就職支援の取り組み【647万円】(経営戦略経費)**面接・自己PR講座**

就職難易度の高い有名上場企業を狙う学生に対して面接・自己PR講座を実施しました。9月から11月の間に、3年生14人が参加し、専門講師による指導を一人当たり14回受けました。講座受講者の就職率は例年90%前後であり、早期内定者が多いのも特徴です。

面接対策合宿

3年生を対象に1泊2日の面接対策合宿を実施しました(参加者59人)。合宿では8~10人のグループに分かれて企業の人事担当者から基礎マナー、集団・個人面接対策、グループディスカッション対策等を学びました。参加者は事前研修を2回受講したうえで、合宿に臨みました。合宿参加者の就職率は例年80%前後であり、早期内定者が多いのも特徴です。

合同企業セミナー

学内で合同企業セミナーを4回実施しました。毎回約40社の中小優良企業を中心とした企業が集まり、延べ1,300人以上の学生が参加し、業界・業種の視野を広げる良い機会となりました。

SPI試験・講座

3年生を対象に、無料でSPI模擬試験を10月に実施しました(受験率52%)。受験後はフォローアップ講座として上級、中級、基礎の3クラス別に各4回の講座を実施しました。また、就職適性試験で多く用いられる、クレベリン検査、CAB・GAB試験、一般常識試験を各1回実施しました。

面接はじめて講座

3年生を対象に企業の人事採用担当者13人を招いて、面接はじめて講座を3回実施しました(参加者117人)。実践を伴いながらの指導は、学生の就職意識を切り替える良い機会となりました。

キャリアカウンセラーの増員と相談強化

学生からの進路相談、エントリーシート・履歴書添削、模擬面接等への対応強化のために、平成22年度からキャリアカウンセラーを増員しています。年間の相談・指導件数は約600件に上っています。学生自身にとって適切な進路を見出すための支援を強化しています。

◆湘南キャンパス自己発見レポートの実施【267万円】(経営戦略経費)

湘南キャンパスの新入生に対して大学生基礎力調査である自己発見レポート(基礎学力検査・自分を理解する検査)を実施し、99.1%の新入生が受検しました。結果返却時には、フォローアップ講座を実施して、ワークを通して自分を振り返り、大学での目標設定と行動計画の一助としています。湘南キャンパス3学部では、基礎学力検査の成績低位の学生に対し6月に再度基礎学力テストを実施して、正答率8割以下の学生については、秋学期に基礎学力養成講座(計10回)を実施し、学生の基礎学力向上に向けた対策を講じました。

◆湘南キャンパス文教キャリアeye【80万円】(経営戦略経費)

情報学部の学生が優良企業に対して取材を行い、結果をホームページに作り上げて公表することを通じてキャリア意識を形成するという、ユニークな取り組みを実施しました。参加した学生は17人、取材訪問企業は4社でした。

取材結果は、下記のホームページで公開しています。

<http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/cariereye/>

◆冊子「教職への道」の配布【32万円】(経営戦略経費)

教員になるということの意味を再認識させ、教員採用試験に役立つ手助けとなるよう作成した冊子「教職への道」を教員志望の学生に配布しました(450部)。

※2年分1,500部を作成し、平成24年度は、越谷キャンパスで450部、湘南キャンパスで400部を活用しました。

◆卒業3年後調査の実施【243万円】(経営戦略経費)

卒業後3年を経た卒業生に対して現在の進路状況、大学で得たものや大学のキャリア支援に対する評価等を尋ねる卒業3年後アンケートを実施しました。回答者数は639人、回収率は、35.8%でした。本学卒業生の3年離職率は32.8%(卒業直後正規就職者中)で、一般的な大卒の3年離職率とほぼ同じ水準でした。卒業時に選択した進路に対する満足度は、1点(まったく不満)から7点(非常に満足)までの点数評価で、平均5.17点、71.8%が5点から7点(満足)と回答しています。キャリア支援の活動に対する評価、大学や後輩へのアドバイスでは、貴重な回答が得られました。

◆教育学部心理教育課程設立10周年記念事業【86万円】(経営戦略経費)

平成15年度に開設された心理教育課程設立10周年記念事業として、記念講演会(筑波大学附属小学校教諭森田和良氏による講演「子どもの自然探求への根や芽を育てる」)と第6回ホームカミングデーを開催しました。卒業生126人が参加したほか、講演会には、一般の方30人の参加がありました。また、創立10周年記念誌『心の担い手を育てる』を1,000部作成し、関係者に配布しました。

◆人間科学部スペシャル就活ゼミ【199万円】(経営戦略経費)

平成23年度に引き続き、人間科学部の3年生を対象とし、企業就職を希望する学生への就職活動支援を目的として、人間科学部スペシャル就活ゼミを実施しました。24年度は、グループ討議等が重視される採用選考プロセスを踏まえグループワークの強化等、プログラム展開の工夫を重ね、また、メンバー同士のピア・レビュー等を多用しました。これらにより、受講生の満足度や自己効力感が高まりました。

遠隔授業システムの活用

遠隔授業システムを活用し、越谷キャンパス教員による湘南キャンパス学生への授業(共通教育科目:1科目)を行いました。

教職課程運営体制の整備

教員養成課程に関する全学的委員会を設置する規程を制定しました。平成25年度から委員会を設置し、越谷・湘南両キャンパスで行っている教員養成に係る情報交換や全学調整を行います。また、湘南キャンパスについては、教育実習及び教職実践演習の準備を担う委員会を設置しました。

各学部等における特色ある取り組み

- ◆教育学部 ※学習者支援強化事業に掲載
- ◆人間科学部 ※教育活動に関する事業に掲載
- ◆文学部 ※学習者支援強化事業に掲載
- ◆情報学部

平成23年度に本格開始したベトナム研修に加え、新たにモンゴル随一の大学であるモンゴル国立科学技術大学との交流と研修を開催しました。モンゴル異文化理解・共生体験研修のパイロットプログラムを24年8月19日～8月25日に実施しました。参加者数は、学生15人と引率教員2人の計17人で、説明会を含め4回の事前研修を実施しました。情報学部では、ベトナム研修に続いての海外研修プログラムです。
- ◆国際学部 ※学習者支援強化事業に掲載
- ◆健康栄養学部 ※学習者支援強化事業に掲載
- ◆人間科学研究科

大学院生の一層の研究奨励を目指し、「人間科学研究科大学院生及び修士論文コンテスト」、地域貢献及び連携の一環として、「地域連携シンポジウム」を開催しました。また、国際交流の一環として、平成24年11月15日にロンドン大学EPPIセンター長のデイビット・ゴフ(David Gough)教授を講師に迎え、大学院生及び教員を対象に「エビデンスに基づく政策と実践 ～イギリスから学ぶ～」をテーマに特別セミナーを開催しました。

- ◆情報学研究科 ※学習者支援強化事業に掲載

当該年度の研究活動・支援事業

外部研究費獲得に向けての支援強化

教育研究推進センター(研究推進部)を拠点に、説明会の開催を始め、外部研究費獲得支援を強化しました。

公的研究費の執行体制の整備

科学研究費補助金については、文部科学省のガイドラインに基づき、適正かつ効率的に執行できるよう事務体制を整備しました。科学研究費管理システムによる資金管理を行ったほか、事務処理マニュアルを作成し、科学研究費補助金を獲得した教員及び関連する事務担当課へ配布しました。平成24年5月16日・30日、7月18日に科学研究費補助金に関わる教職員を対象に執行方法の説明会を行いました。

学長調整金(学内競争的資金)による研究等の支援【1,824万円】

学長調整金(学内競争的資金)に2種類の金額枠を設けて研究等の支援を行いました。一つは、専任教員の自由な発想に基づく研究及び教育改善の取り組みに対して、1件当たり最大200万円の支援を行うものです。支援を受けた者には、3年以内に成果

論文の発表及び科学研究費への応募(研究支援の場合)、成果レポートの発表(教育改善支援の場合)が義務付けられます。もう一つは、1件当たり最大100万円の範囲で出版以外の形態による研究成果発表及び事業実施を支援するものです。平成24年度は、以下の支援を行いました。

【研究支援・教育改善支援】

学部	教員名	テーマ
教育学部	今田晃一	学生ICT支援員と越谷市教員研修組織との連携によるタブレット型情報端末(iPad)を利用した言語活動充実を目指した指導方略の研究
教育学部	小野理美帆	典型発達乳幼児及びダウン症児におけるコミュニケーション発達と情動調整の関連について
教育学部	成田奈緒子	課題を抱える子どもの体験活動の効果と包括的意義の検討
教育学部	船山智代	実験プログラム「大学の科学実験に用いる生体高分子の教材化の検討と実験プログラム作成」の最適化による科学教育の質の向上の試み
教育学部	山縣朋彦	地球自転実験観察の為に「フーコー振り子」の導入
文学部	糸井江美	Pre-service EFL Teachers' Possible Selves: Constructing Stories of Their Profession (英語科教育実習生の可能自己: 物語られる自己教師像)
情報学部	井徳正吾	教育改善を目的としたカンヌ国際広告祭への研究参加
情報学部	酒井 信	東日本大震災及び福島第一原発事故に関する国際メディア・国連機関の公開情報の分析
情報学部	佐久間聡	ロンドン・オリンピック大会に関するメディア報道への接触が国民イメージの変化に及ぼす影響
情報学部	堀田敬介	文教大学 時間割作成支援に関する研究
国際学部	奥田孝晴	「学術的汎用性の高い国際学教材」開発の試み ー学生参加型の教材開発を通じた「国際学」体系化への学術的実践ー

【研究成果発表支援・事業支援】

学部等	教職員名	テーマ
教育学部	峯村 操	鍵盤音楽の諸相～バロック・古典派・ロマン派のピアノ音楽に見る宗教性
教育学部	柳田孝義	アジア音楽祭2012 オーケストラ作品発表
教育学部	会沢信彦	卒業生校長等によるシンポジウム
教育学部	小倉隆一郎	教育専攻科 20周年記念事業
言語文化研究科	蔭 垂東	大学院言語文化研究科 博士後期課程開設記念事業(講演会開催)
高大連携運営委員会 インターンシップ 合同委員会	新井立夫	第4回インターンシップ・勤労(就業)体験学習成果発表大会
情報学研究科	根本俊男	湘南キャンパスにおける大学院生と学部生の接触による新しい知的空間構築事業
情報学部 国際交流委員会	関 哲朗	国際力養成のための協定校学生招聘事業
国際学部 対外活動委員会 国際教育連携小委員会	奥田孝晴	国際学教育と市民教育のための自主映画上映会開催事業(パート2)
国際学部 国際ボランティア委員会	中村恭一	国際連合アカデミックインパクト 加盟大学としての国連連携強化活動事業
国際学部 対外活動委員会	海津ゆりえ	プラットフォームを活用した湘南観光魅力創造事業
人間科学研究科	土沼雅子	埼玉県三大学院合同事例検討会とワークショップの開催
国際交流委員会	小太刀澄江	「国際交流フェア」における講演会の開催

在外研究の支援【223万円】

2人を在外研修に派遣しました。

学部	教員名	研究テーマ	研修先	区分	期間
人間科学部	小林孝雄	セビ'スト・フォ・カソガ 法の開発およびセビ'ストの共感的理解の検討	学習院大学文学部 心理学科	国内長期	H24.4～H25.3
文学部	山田忠司	清・末民初の北京語に関する研究	北京語言大学	国外長期	H24.4～H25.3

不正行為対策委員会の開催

不正行為対策委員会を開催し、研究費の不正防止計画を検討し策定しました。また実態と乖離している規程の見直し、及び新規運用ルールの取扱い等の検討・確認を行いました。

当該年度の学習者支援強化事業

学生支援室の設置及び体制整備【1,103万円】

平成24年4月に大学事務局・教育支援課を所属部署として、両キャンパスに専任事務職員1人と学生支援コーディネーターとして契約職員1人を配置した学生支援室を設置しました。開設(利用開始)に向け、夏休み中に施設を改修し部屋を設置する等、必要な準備を経て、秋学期(10月)から正式に学生支援室の運用を開始しました。開設後は、学生支援室が中核となり、事務局各課、学部、研究室及び個々の教員とのネットワークのもと、学生が順調な学生生活を送るためのサポートに努めています。



震災被災学生への支援の継続【3,830万円】

東日本大震災で被災した学生に対して、次の支援を行いました。

◆震災被災学生への授業料等の減免措置【1,441万円】

- ①平成23年度から引続き、24年度も在学する学生に対して、授業料の減免を行いました。(対象学生29人)
- ②平成24年度入学生に対し、授業料の減免を行いました。(対象学生10人)

◆平成24年度入学選考における入学検定料の免除【2,087万円】

24年度入学選考において、東日本大震災の被災者で志願時に免除を申請した方に対して入学選考検定料を免除しました。(対象者延べ903人)

◆震災に起因する家計状況急変学生のための奨学金増額【302万円】

震災の影響により家計が急変した学生の支援のため、奨学金原資を増額して支給しました。(対象学生18人)

生涯学習センターの取り組み

生涯学習センターにおいて「市民フォーラム」、「公開講座」等を開催し、地域の人々を始め広く社会に学習の機会を提供し、また、本学学生に資格、スキル取得の機会を提供するために、次の事業を実施しました。

- ◇免許法認定通信教育(文部科学省認定) 受講者75人
- ◇免許法認定講習(文部科学省認定) 受講者46人
- ◇公開講座・特別講演
 - 越谷キャンパス 9講座・講演 1,020人参加
 - 湘南キャンパス 3講座・講演 330人参加
- ◇オープンユニバーシティ
 - 越谷キャンパス 67講座 946人参加
 - 湘南キャンパス 26講座 489人参加

◇資格取得講座

- 越谷キャンパス 8講座 716人参加
- 湘南キャンパス 11講座 202人参加

◇検定試験

- 越谷キャンパス 12検定 434人参加
- 湘南キャンパス 21検定 637人参加

◇県・市・カウンセリング協会との共同主催

- 越谷キャンパス 3講座 224人参加

◇現職教員対象講座

- 越谷キャンパス 2講座 73人参加

バス通学定期購入代金補助事業【2,384万円】

湘南キャンパスの通学問題対策の一つとして、学生のために大学と茅ヶ崎駅及び大学と湘南台駅の2経路を利用できる2Way通学定期券を作成し、割引して提供しました。

◇春学期定期(4/12-8/6)

- 34,380円 → 26,000円(割引額8,380円) 1,687人購入

◇秋学期定期(9/20-12/21)

- 27,270円 → 22,000円(割引額5,270円) 1,541人購入

◇秋学期2期(1月授業期間)

- 9,360円 → 7,500円(割引額1,860円) 693人購入

奨学金制度の見直し・充実の取り組み

奨学金制度見直しワーキンググループで、現行奨学金の予算規模、特徴及び運用上の問題等について整理・検討し、必要な規程の改正と制定及び運用面での見直しを行いました。新制度の運用は平成25年度から開始します。主な内容は、次のとおりです。

◆「文教大学奨学金規程(第1種)」を「文教大学学業成績優秀者奨励金規程」に改正

出願者から受給者を決定するのではなく、前年度成績上位者から決定する運用に改めました。また、留学生も対象者として含めました。

◆「文教大学奨学金規程(第2種)」を「文教大学奨学金規程」に改正

名称を変更し、成績基準や申請書類の簡素化等、運用を見直しました。

◆「文教大学私費外国人留学生の学納金減免に関する規程」の改正

経済的理由で修学が困難な留学生の経済的負担軽減を目的とした制度であること及び、対象者について明確にしました。

◆「文教大学緊急特別奨学金規程」の制定

家計が急変し、学納金の納入が出来なくなった学生に対して、在学中に一度だけ、学納金の一部給付による救済を行う制度として新設しました。

教育学部「外国語活動を体験しよう」講座開設【104万円】(経営戦略経費)

新学習指導要領に対応した外国語活動等のカリキュラムは改訂作業中ですが、現行では科目が設置されていないことから、学生に与える不安感を払拭するため、「外国語活動を体験しよう講座」を開設しました。講座は平成25年2月15日及び16日の2回開催し、134人の学生が受講しました。学生からは受講の意義があった等の良好な反応を得ることが出来ました。

人間科学研究科大学院生及び修士論文コンテスト

大学院生の研究を奨励する目的で、修士課程在学者及び修士後5年以内の修士生を対象に論文コンテストを行いました。厳正な審査の結果、「幼少期の母子関係と青年期の対象関係との関連について—認知的、投影的レベルからの検討—」(臨床心理学専攻2年次 樋口真弓さん)が優秀賞に選ばれました。

文学部「海外留学を促進する語学学習支援」事業

【122万円】(経営戦略経費)

多言語交流室を活用しネイティブ教員や大学院生を含む留学生と少人数で会話のできる機会を作り、留学生チューターとして学習支援や生活支援を通じた留学生との交流を促したほか、短期留学経験者に説明会でプレゼンテーションをしてもらう等、海外への関心を高めて自らも留学をしようとする意欲をもてるように支援しました。多言語交流室が良い意味でのたまり場になりつつあり、海外留学への関心を更に高め、長期留学にチャレンジできる学力がつかうよう指導していきます。

情報学部における学生支援室設置事業【124万円】(経営戦略経費)

情報処理、国語(SPI学習を含む)、数学基礎、数学応用に関する補習授業を実施しました。

◆情報処理

情報処理技術者の試験内容からプログラミングまで幅広く対応し、学生の自律的な学習を支援しました。

◆国語

個別指導を基本として国語力の不足を補う指導を行いました。授業の疑問に限定せず、文章力や日本語力の弱点を知り、課題を認識させることで、幅広い文章表現力や日本語力の向上を目指しました。

◆数学基礎

個別指導を基本として、授業やその応用に向けた学習上の障害をなくすことに努めるとともに、適宜課題を与え学力の向上を図りました。

◆数学応用

講義を柱とし、中学・高等学校数学教諭希望者等への指導を行いました。

大学院情報学研究所における言語表現力向上教育支援事業

【49万円】(経営戦略経費)

大学院生の言語表現力を向上させるために、キャリアイングリッシュ講座受講料のうち57,900円(一人当たり)を補助しました。また、英語及び日本語(留学生向け)のライティング講座を毎週水曜日午後15時から実施しました。いずれも修士1年生(うち1人は留学生)を中心に積極的に参加しました。結果として、CASECポイントの上昇(平均で32点上昇)、英語による研究概要の執筆、日本語概要集の発行等の成果が表れました。また、平成24年6月にはポスターを用いた日本語による研究テーマ報告会を、25年2月には英語による研究テーマ報告会を一般公開の場で開催し、大学院生が発表しました。

国際学部新入生合宿研修【208万円】(経営戦略経費)

全員参加の新入生合宿ゼミを行い、新入生同士の友達づくりを進めるとともに、円滑な大学生活への導入を図りました。また、在学生(3年生希望者)が合宿に参加し、運営の補助及び新入生ゼミ



ナールのサポートを行うことにより、3年生のリーダーシップ育成やプレゼンテーション能力の育成を図りました。

初年度教育の充実(化学の補習)【69万円】(経営戦略経費)

健康栄養学部新入生の高校における化学の履修状況は大きく幅がある一方、入学後に化学を基礎とする専門科目が多くあります。そこで、新入生を対象に化学の補習を行うとともに1年次の化学系専門科目担当教員と学生の化学理解度等に関する情報交換を行うことで、学生・教員双方の溝を埋めて科目理解度を上げることを目的としています。化学補習は原則自由参加ですが、入学時の化学テストの点数に応じて必要と思われる学生には積極的に参加を呼び掛けました。結果として、全体の約7割の学生が化学補習授業に参加しました。

化学補習が必要と思われた学生のうち補習参加率の高い学生(67%以上参加)の成績(平均)は学年全体と同じかやや良い傾向となりました。また、参加した学生の92%が「化学補習が他の授業の理解に役立った」とアンケートに回答しました。

本事業は多様な学生の成績向上に対して効果的なプログラムを提供していると考えられます。この学部専門科目の理解度向上が、4年後の管理栄養士国家試験のための学習の礎となっていくと考えています。

管理栄養士国家試験受験対策【51万円】(経営戦略経費)

国家試験受験対策の教材として利用するため、過去の試験問題をデータベース化しました。過去5年分の問題入力作業を終え、専門分野別教員による問題文修正及び自動問題作成マクロのテストを行いました。また、在学生は自学自習の成果を確認するため栄養士実力試験を受験しました。栄養士実力試験は平成24年12月8日に実施し、受験者100人中A評価60%、B評価33%、C評価7%という結果でした。今後も引き続き、データベース利用による実力試験の実施、受験対策講座の開設及び外部模擬試験を導入し、希望する全ての学生が管理栄養士国家試験に合格できるようサポートしていきます。

授業料減免事業(経済支援強化)【450万円】

家計困窮者に対する第2種奨学金の採用率を35%以上にし、また支給最低額を年間授業料の1/4とすることを目指して、日本私立学校振興・共済事業団からの借入れ金を運用した資金利息収入を原資に奨学金採択及び支給増を図りました。これにより、採用率は越谷キャンパスで44%、湘南キャンパスで42%となりました。

越谷キャンパス/上乗せ支給額 2,295,000円

湘南キャンパス/上乗せ支給額 2,205,000円

授業料減免事業(国際交流関係)【2,282万円】

留学生支援のため、次の授業料減免を行いました。

◆私費外国人留学生授業料3割減免(対象者105人)

◆外国人留学生特待生入学金免除

入試成績第1位の合格者に対して、入学金の免除を行いました。

(対象者1人)

当該年度の保護者又は地域連携事業

ホームカミングデーの実施【230万円】

卒業生の相互交流及び大学と卒業生との連携強化を目的として、平成24年10月13日に、越谷キャンパスで「文教大学ホームカミングデー」を開催しました。卒業後10年、11年、20年、21年、30年、31年目の卒業生を招待し、卒業生209人、退職教職員20人の参加がありました。式典、講演会及び懇親会とも盛会のうちに終了しました。



地域連携シンポジウムの開催【20万円】(経営戦略経費)

地域貢献及び地域連携の一環として、平成25年1月26日、越谷市教育委員会及び三郷市教育委員会との共催で、第3回地域連携フォーラム「子どもたちの健やかな心を育むコミュニティ作り—教育と福祉の連携のあり方を探る—」を開催しました。子どもたちの健やかな心を育てるためのコミュニティの重要性と、そうしたコミュニティを作るためにさまざまな人々の協力が不可欠であることを再確認しました。

高大連携の強化【48万円】

神奈川県内の協定締結校(24校)及び神奈川県立総合教育センターとの連携を継続して実施しました。具体的な事業としては、「インターンシップ・勤労体験学習成果発表大会」、「キャリア教育研究会(高等学校教職員対象)」、「大学体験プログラム(協定校生徒対象)」、「総合教育センター教員による「教職科目教育実地研究(本学学生対象)」等を実施しました。

教員免許状更新講習【455万円】

文部科学省認定の教員免許状更新講習を、次のとおり実施しました。

	開設講習数	受講者
越谷キャンパス	必修科目 2科目	607人
	選択科目 16科目	1,708人
湘南キャンパス	必修科目 1科目	175人
	選択科目 10科目	564人
計	29科目	3,054人

湘南キャンパスキャリアイングリッシュ講座【508万円】

生涯学習センター主催で、情報学部5人、国際学部27人、健康栄養学部5人、情報学研究科4人、計41人の学生(ほかに外部生5人)が、春学期及び秋学期で計100回(1回40分)のネイティブ講師による英会話レッスンを受講しました。アンケートでは受講生から「英会話が楽しくなった」、「学習意欲が高まった」等の回答がありました。

校舎施設整備の改善事業

越谷キャンパス非常放送設備の整備【1,359万円】

非常放送設備は、参道を挟んでキャンパス東側と図書館、9・10号館で系統が分かれていました。今回の改修工事で系統を統一し、災害時の避難誘導指示において的確かつ迅速な指示伝達が可能としました。

越谷図書館の施設整備【1,680万円】

図書館に設置しているエレベーターの入替え工事を実施しました。併せて、図書館設備の経年劣化が著しい以下の改修工事を実施しました。

- ◆西側給水管盛替工事(配管劣化に伴う漏水の可能性)
- ◆屋上消火栓補給水槽及び膨張水槽取り替え工事(水槽内錆びによる劣化)
- ◆東側雨水配管劣化破損に伴う修理工事(配管が錆びによる劣化)
- ◆地下2階排煙設備用冷却水槽交換工事(経年劣化)
- ◆冷暖房熱源チラーユニット用圧縮機整備(定期整備)

湘南キャンパストイレ改修【1,869万円】

キャンパスの生活環境を改善するため、5年計画の5年目の事業として、平成24年度は、2号館2階、4階及び体育館のトイレの改修を実施しました。

湘南キャンパス外壁及び屋根改修工事【1億4,719万円】

キャンパスの耐久性及び安全性を確保するため、4年計画の4年目として、平成24年度は、事務棟(南、西面)、5号館、6号館、体育館の外壁及び屋根について、改修工事を実施しました。24年度の事業をもって全ての号館の外壁及び屋根の補修が完了しました。

越谷キャンパス・湘南キャンパス電子情報資料整備事業【2,520万円】

両キャンパスで共通に利用する電子ジャーナル及びデータベースは、一括して契約し、学生・教職員に提供しています。学術情報の流通状況とユーザの要求を勘案しながら、平成24年度は、学術研究における基本的文献データベースである「Web of Science」の導入等を行いました。リンクリゾルバや統合検索システム等、利用しやすい検索システムも同時に提供しています。

越谷キャンパス教育研究用情報環境整備事業【8,164万円】

パソコン教室をはじめとする教室の情報環境整備及びネットワーク関連の整備を行い、学生・教員の利便性の向上を図りました。(4年計画の1年目)

越谷キャンパス図書館閲覧業務委託事業【1,705万円】

平成24年度は、月～土曜日の開館時間を非授業日も含め「8時45分開館」に拡大し、また6月・11月の日曜開館日を増やす等、学生の利便性を向上させました。

越谷キャンパス情報環境運用管理業務委託事業【1,557万円】

越谷キャンパスの情報環境を適切に運用し、利用する学生・教職員がシステムやネットワークを十分活用できるように、運用管理を業務委託しました。

越谷キャンパス学生食堂厨房排気ファン交換工事【18万円】

学生食堂1階麺コーナー厨房に設置している排気ファンの排気容量が少なく、厨房内に熱がこもってしまうことから、交換工事を実施しました。

湘南教育研究システム運用事業【1億920万円】

更なるシステムの安定稼働や、利用しやすい環境を確保する必要があり、保守契約及び業務委託契約を締結し、安定運用と利用者サービスの向上を目指しました。

湘南キャンパススタジオ設備更新事業【1,568万円】

スタジオ関係機材のデジタル化とHD化、及び今後のスタジオの利用拡大を目指して、スタジオ設備更新事業を実施しました。

湘南キャンパス夜間開館に伴う図書館閲覧業務委託事業【263万円】

夜間の学生サービス強化のため、16時30分から20時30分までの閲覧カウンターにおけるサービス提供を行いました。

健康栄養学部設置に伴う資料整備事業【359万円】

4年計画の3年目として、栄養学及び心理学関係の電子資料を含む資料の整備を行いました。平成24年度の整備内容は次のとおりです。

- ◆ 栄養及び心理学関係の和雑誌68誌の購読
- ◆ 医学関係の和雑誌電子ジャーナルパッケージ「メディカルオンライン」の導入・提供
- ◆ 欧文電子ジャーナル及びデータベースの導入・提供

湘南キャンパス教室空調機・換気設備工事【375万円】

4101、6101、6401の各大教室で使用している空調機や新鮮空気取入れに使用されている外調機の消耗部品の交換及び改修工事を実施しました。

入試戦略に関する事業等

志願者増加を目指した募集力強化【253万円】

学生募集強化のため、平成24年度も学生募集検討会を継続して次の活動を実施いたしました。

- ◆ 被災地高校訪問【43万円】(経営戦略事業)
平成23年度に引き続き、学生募集検討会メンバー及び事務統括者(9人)により、本学受験者の多い被災地の高校訪問を行いました。24年9月から10月に訪問し、お見舞いと本学の被災者支援策を周知しました。

県名	訪問高校数
岩手県	9校
宮城県	26校
福島県	32校
計	67校

◆ 重点校訪問活動【210万円】(経営戦略事業)

関東地方と新潟県、長野県、静岡県における本学への志望実績が高い高校に職員69人が、訪問活動を行いました。訪問時期は、学力入試に向けた受験校選定時期を狙い、平成24年10月から12月としました。訪問した高校数は次のとおりです。

都・県名	訪問高校数
茨城県	41校
栃木県	33校
群馬県	31校
埼玉県	78校
千葉県	67校
東京都	98校
神奈川県	77校
新潟県	28校
長野県	31校
静岡県	29校
計	513校

併願及び併願割引制度の導入

センター入試のみで実施していた併願制度(1受験で複数募集単位志願可能)を平成25年度入試から、地区入試、A日程入試でも実施しました(併願先に制限あり)。また、地区入試では、併願割引(通常35,000円を2志願目から17,000円に割引する)を導入しました。

入試成績優秀者「特待生」学納金減免事業【1,459万円】

地区入試成績優秀者特待生制度を継続して実施しました。地区入試における各学科成績1位(学校教育課程は2位まで)の学生が、特待生(4年間学費免除)となる資格を得ることができます。平成23年度は8人、24年度は6人、計14人が特待生となりました。

学部・研究科等独自広報(経営戦略経費)

学部・研究科で次のとおり独自広報を実施しました。

- ◆ 教育学研究科・教育専攻科【49万円】
学生確保に向けての広報活動
- ◆ 言語文化研究科【73万円】
ポスター及びパンフレットの作成
月刊誌「日本語学」誌上への広告掲載
- ◆ 外国人留学生別科【59万円】
受験生確保のための広報活動
- ◆ 国際協力学研究科【30万円】
国際開発ジャーナルへの広報
- ◆ 健康栄養学部【59万円】
高校教員向けレジュメ配布
河合塾・学部学科系統絞り込みメールマガジン

その他

米国学生短期研修受入れ【26万円】

平成24年5月10日～5月16日の7日間、湘南キャンパスにおいて国際交流協定校であるアーカンソー州立大学フォートスミス校の学生12人の短期研修を受入れました。茅ヶ崎市内の日本人家庭にホームステイしながら、お茶・着付けといった日本文化の体験、空手道のクラスに参加する等、異文化体験の機会を得るとともに、日本人学生との国際交流を図りました。

ラーニングスクエアの運営及び支援

湘南キャンパスでは、図書館に設置されたラーニングスクエアにおいて学生の多様な学習形態を支援しています。ラーニングスクエアは、個人学習だけでなく複数での学習やゼミやグループでの学習に使用できる新しい図書館の空間です。システムやデータベースの利用、またライティング等について図書館員の支援を受けることができます。

設置後間もない場所ですが、自主的な学習を行える場として学生の間に浸透してきており、積極的な利用が行われました。

**情報学部改組の検討**

発展期に入った情報社会に対応し、また、学生の学習ニーズに即した学びを提供できる教育組織を目指して、情報学部の改組を検討しました。その結果、経営学部の新設、情報学部情報社会学科、メディア表現学科の新設案を策定し、改組手続きに関して文部科学省へ事前相談を行いました。

文教大学附属中学校・高等学校

当該年度の教育活動に関する事業

学習サポート体制の構築【85万円】

平成22年度から導入した「学習コーチ」システムは、東大生による年3回の講演と高校3年生の個別進学指導の実施により、生徒の進路意識の向上に有効に機能しました。24年度はこのシステムから学んだことを、各担任が受持ち、生徒の「学習スケジュール管理」を行い、更に教科間で調整して自学自習に結びつく課題や宿題を課し、自宅学習時間を大幅に伸ばすことができました。

放課後講習及びゴールデン・ウィーク特別講座の実施による学力向上

放課後講習の通年講座のほか、夏季休暇講座（前期・後期）、春季講座を実施しました。授業で学んだ内容を深め、大学入試に向けた準備をスムーズに進めるべく、講座内容の充実を図りました。ゴールデン・ウィーク特別講習は、5月3日英語、4日国語・数学、5日社会・理科の編成で集中講座を実施しました。原則として特進クラス在籍者は全員参加を必須としたので、多くの参加者となりました。授業は、各教科の重点分野の単科講座とし、イベント性の高い内容で、進学に対するモチベーションを上げる工夫をしました。

「学習コーチ」システムの導入による受験への意識付け【115万円】

自ら計画を立てて遂行していく力を身に付けることを目的として、受験勉強の方法を指導する場を設けました。外部業者から派遣された現役東大生の講師により、高校2年生、3年生の希望生徒に対し、1回15分程度の学習コーチを実施しました。また、高校1年生を対象に学習講演会を行い、受験に向けての意識を高めました。

「FINE System（ベネッセコーポレーション 学力テスト成績推移管理システム）」による学力の客観的把握と継続的指導

中学1年生から高校3年生まで、年間複数回実施している学力テスト結果の推移を、「FINE System」を利用することで学力の客観的把握と継続的指導を行いました。高校3年生では「Compass」で大学受験校選びのアドバイスや、センター試験結果に基づく合格判定等、進路指導のツールとして活用しました。

当該年度の研究活動事業

教員の教育力向上を図る【118万円】

教員の教育力向上を図るため、外部業者（代々木ゼミナール教育総合研究所）に依頼して、「生徒による授業評価アンケート」を7月に実施しました。平成24年度は授業評価アンケートに加え、校長による授業観察と合わせ、教職員全体で2回の研修会を実施し、問題点の改善に努めました。また、保護者が学校に何を求めているか等も含め、学校運営の改善に資するよう、「保護者による学校評価アンケート」を実施しました。

デジタル教材の研究と活用【58万円】

デジタル教材の研修会を2回開催しました。さらに、教材開発のためのICTスタッフを配置し、中学生の授業から活用を推進しました。このことは、ICT活用授業者数が増ただけでなく、広報活動（模擬授業）や入試業務等にも活かされるという思わぬ効果を呼びました。生徒は視覚からも効果的な刺激を受け、授業への取り組みがより良くなりました。さらに、中学生の道徳授業では3年生の全ての班がパワーポイントで報告し、生徒の発表形態も変化し、内容の充実も図られることになりました。

外部研修会への参加【12万円】

東京私立中学高等学校協会主催の研究会及び駿台教育研究所の研修会等積極的に参加しました。また、研修に行くことが当たり前の環境が徐々に整いつつあります。

当該年度の学習者支援事業

百科事典データベースの導入【26万円】

学校行事の事前学習や事後の発表会のパワーポイントでの資料作成、さらには総合的な学習の時間やホームルーム活動等に活用されました。

中学生向け進路指導資料の整備【10万円】

平成24年度キャリア教育のため購入した「なるにはBOOKS」は、現在中学2年生のキャリア学習「14才のハローワーク」で使用しています。さらに、キャリア学習の中学1年から中学3年までの統一化を図っている中、各学年が指導案を作成するうえで、生徒に与える教材として大いに役立ちました。そのような中、中学3年生は新たにファイナンスパークでの校外授業を行う等、進路資料の整備は生徒のみならず教員の視野が広がることにもつながりました。

校舎施設整備の改善事業

高等学校教室環境の整備

高校教室の机・椅子の更新を予定しましたが、新校舎建設の検討過程において、使い勝手の良い机・椅子への更新が必要との判断に至り、平成24年度の整備は見送り、更なる検討をすることにしました。

入試制度、募集強化事業

入試広報媒体の体系化【150万円】

専門業者によるDVDの作成は、広報活動の大きな原動力となりました。本校のポイントをよく捉えており、来校される方々にも好評でした。さらに、広報マーケティング室によるマーケティング媒体の拡大と体系化は、新たな広報戦略として大変効果的でした。また、平成24年度は入試広報部を中心に全校をあげて広報活動に取り組み、外部説明会及び学校説明会においても昨年の来校者数を大きく上回りました。キャンパス建替え中、更には私学入学者の低迷というマイナス要因がある状況にも関わらず、受験者数が増加したことは大きな成果と言えます。

文教大学附属小学校

当該年度の教育活動に関する事業

カリキュラムの再編とシラバスの作成

すでに完成していた上学年内容先取りの4教科のシラバスに加えて、学期ごとの全教科指導計画と評価規準表を作成しました。そのことにより、指導すべき内容と育てるべき力を明確にすることができました。さらに、指導計画や評価規準に基づいて全教員（以下講師を含む）が週ごとの指導計画を作成したことで、授業改善が進みました。

複数教員による指導の実践

高学年の算数は、全時間複数体制で指導ができました。単元や内容によって、習熟度別に分けたり、チーム・ティーチングを行ったりして、個に応じてきめ細かに指導しました。その結果、教研式標準学力検査CRTにおいて、算数は、全国比10ポイント以上になりました。

基礎学力を定着するための教育の実践

まず、週ごとの指導計画に基づいて、各教員が教材研究をしっかり行い、1単位時間ごとの充実を図りました。また、毎日朝と昼に10分のモジュールタイムを実施し、漢字や計算の反復を行いました。更に漢字検定を年2回行い、約7割は当該学年より上の級を合格することができました。

広報活動の充実【110万円】（経営戦略経費）

予算を設定した私立小学校情報フェア2回の説明会を行った他、10回の学校説明会等を行い、参加数は延べ329組となりました。幼稚園や幼児教室訪問は25カ所行うとともに、説明会参加者等に時季に応じた内容での送付を5回行いました。ポスターやコンセプトブックは好評でした。また、ネット上の企画サイトでは、アクセス数6,000以上となりました。結果は、出願から受験率が86%と前年を10%上回りました。

当該年度の研究活動事業

校内研修の強化

保護者授業参観や学校説明会授業公開の全6回、各教員が、指導案を作成し校長の指導を受け、授業改善を図りました。また、2学期に校長は、1単位時間の授業観察に基づいて教員一対一の指導を行いました。その結果、教員の指導力が向上し、1単位時間の質は明らかに高くなり、児童の達成感や成就感の様子にその成果が見られました。CRTでは、全学年ほぼ全教科全国平均を大きく上回ることができました。

外部研修会への積極的な参加【33万円】（経営戦略経費）

全教員が、日本私立小学校夏期研修会3日間、東京私立初等学校協会半日研修2回に参加することができました。終了後、参加した教科や内容についてレポートを作成し、冊子としてまとめ、学校全体で学びを共有しました。そのほか、ICT研修3人、人権研修2人、防災研修1人、保健研修1人が、外部研修会に積極的に参加しその成果を還元しています。

当該年度の学習者支援事業

一人一人の児童の希望に応じたよりの確な進路指導のために、模擬テストを6年生は毎月、5年生は3回行いました。補習は週4日、十分習熟を図ったり受験校に合わせた発展的学習に取り組みせたりしました。6年生の受験結果は、全員目標とした希望の中学校に進学することができました。さらに、各種コンクールへの参加は延べ27に上り、18人が上位入賞し、学校表彰も4つ受けることができました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

同窓会等との地域連携強化

月1回の同窓会役員定例会議に、担当教員が出席し情報共有や連携を強めました。特に同窓生による講演会は3回目となり、本年度は大田区役所職員による大田区の歴史や地理、産業等の学習を深めることができました。同窓生による児童募集ポスター掲示等の協力も得ることができました。

校舎施設整備の改善事業

破損ガラス修理や講堂床破損修繕も全て行い、安全を確保しました。また、4月に校舎内大掃除(ほこり落とし)、7月ほうき全て取り替え、8月教室カーテンクリーニング、各教室ワックスがけ等、年間を通して清掃に力を注ぎ清潔な環境づくりをしました。更に観葉植物を踊り場に置いたり、花壇や鉢植えの配置をしたりするとともに、飼育栽培委員会で200本の花の世話をする等、潤いのある環境づくりを行い、保護者からの評価も高得点となりました。

入試制度、募集強化事業

学校説明会は、校内にとどまらず、幼児教室や付属幼稚園でも行い各種合計10回に上りました。説明内容を毎回工夫して変えたり、在籍児童保護者に相談できるようしたりする等、改善充実を図りました。幼稚園や保育園、幼児教室や入学希望者に対して葉書や追加説明会案内等を5回延べ630通送ったことは、効果的だったことが入学保護者からも上がっています。入試問題は、全教員で吟味して完成度を高め、入試実施後に解説を付けてホームページに公開しました。

文教大学付属幼稚園

当該年度の教育活動に関する事業

プレスクールの充実

本年度の参加登録者は、167名で前年度比29%増となりました。5月から2月までの間、土曜日に8回実施しました。また、在園生と交流が持てる行事(運動会、餅つき、文教まつり他)への参加を企画し、幼稚園に馴染み親しむ機会を作りました。

知育、徳育、体育のバランスの良い教育の充実

三育教育のスムーズな導入を意図的、計画的に行うことに力点を置きました。健康なからだ、優しい心、そして考える子どもに保育しました。

入園審査方法や日程の検討

入園願書受付日と同日であった入園審査日を変更し、合格者の入園手続日も変更しました。懸念された受験者離れもなく、また手続も順調に行われました。このことは、本園の力が付いてきたことを意味するものと評価しています。

当該年度の研究活動事業

品川区私立幼稚園協会の研究・研修事業への参加

協会主催の夏期教員研修及び1月の教員研修に全教員が参加しました。協会主催の「特別支援教育を学ぶ研究会」に参加し、指導方法について学習しました。

他園の知育強化カリキュラムを学び、本園導入策の検討

他の園への訪問は出来ませんでしたが、競争力強化ワーキンググループでの学習を通して、学びの機会を得ることができました。このことを通して、本園の保育の魅力を再発見し、その効率の良いカリキュラムの構築を行いました。

当該年度の学習者支援事業

付属小学校進学希望者の対応

付属小学校の出前説明会を6月に実施し、多くの在園児保護者が参加しました。付属小学校発行の「学校だより」を松組全員に配布し、付属小学校の情報を伝え、付属小学校と連携しての進学相談会(玉川高島屋)に参加しました。

他の私立小学校、国立小学校進学希望者の対応

他の私立小学校を受験する保護者と面接し、推薦書の発行等を行い支援しました。

品川区立小学校進学希望者の対応

区内の小学校からの「学校便り」を配布し、情報を伝えました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

父母の会、品川区家庭教育学級事業への取り組み

父母の会幹事会との連携を密にし、文教まつり他諸行事に取り組みました。家庭教育学級への取り組みを行い、予定どおり実施することができました。

品川区私立幼稚園協会への参加

毎月の園長会へ参加し、品川区との情報交換等を密に行いました。協会主催の行事に参加し、補助金の獲得に努力しました。協会主催の「幼児教育懇談会」の取り組みを、当番園として積極的に行い、区選出国會議員や都議、区議との情報交換を行うことができました。

校舎施設整備の改善事業

新園舎建替えにむけて、「建設委員会」を組織し、他園等を見学しながら、設計計画に反映させることができました。

入試制度、募集強化事業

入園説明会を丁寧を実施し、建替え期間中に跨る園児募集でしたが、多くの志願者を確保することができました。園児募集範囲の拡大を考えて、東急沿線を対象とした取り組みを行いました。特に、玉川高島屋で2度行った幼稚園説明会は好評で、成果を得ることができました。また、東急・小田急沿線幼稚園合同説明会を実施し、付属小学校を持つ幼稚園との連帯を深め成果を上げてきました。

八ヶ岳寮

当該年度の事業計画

八ヶ岳寮教員棟暖房機交換工事ほか【531万円】

八ヶ岳寮は、野外活動・体験学習等の教育施設として年間を通して学生及び教職員に利用されています。毎年、計画的な整備改修に取り組み、その機能と外観を維持しています。平成24年度は、教職員宿泊棟の3部屋の暖房器具を最新の機器に更新する工事を実施しました。さらに、管理棟1階ロビーの暖房効率を高めるため、窓ガラスの複層化工事等を行いました。

[1] 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科等	課程等
文教大学	教育学部	学校教育課程	国語専修
			社会専修
			数学専修
			理科専修
			音楽専修
			美術専修
			体育専修
			家庭専修
			特別支援教育専修
			心理教育課程
		幼児心理教育 コース	
		人間科学部	人間科学科
	臨床心理学科		
	心理学科		
	文学部	日本語日本文学科	
		英米語英米文学科	
		中国語中国文学科	
	情報学部	広報学科	
		経営情報学科	
情報システム学科			
国際学部	国際理解学科		
	国際観光学科		
健康栄養学部	管理栄養学科		
(大学院)	教育学研究科	学校教育専攻	修士課程
	人間科学研究科	臨床心理学専攻	修士課程・ 博士(後期)課程
		人間科学専攻	修士課程
	言語文化研究科	言語文化専攻	修士課程・ 博士(後期)課程
	情報学研究科	情報学専攻	修士課程
国際協力学研究科	国際協力学専攻	修士課程	
(専攻科)	教育専攻科	教育学専攻	
(外国人留学生別科)			
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	
文教大学付属中学校			
文教大学付属小学校			
文教大学付属幼稚園			

教員個別の保有学位及び業績の詳細は、文教大学ホームページで公開しています。

<http://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 大学案内 > 大学の取り組み > 研究者情報データベースを参照して下さい。

[2] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

専任教員数			※大学の教員数には学長を含みません。
大学等	学部・研究科等	学科等	教員数*1
文教大学	教育学部	学校教育課程	51
		心理教育課程	12
	人間科学部	人間科学科	16
		臨床心理学科	14
		心理学科	13
	文学部	日本語日本文学科	15
		英米語英米文学科	14
		中国語中国文学科	9
	情報学部	広報学科	14
		経営情報学科	15
		情報システム学科	15
	国際学部	国際理解学科	18
		国際観光学科	17
健康栄養学部	管理栄養学科	17	
	教育学研究科	学校教育専攻	(28)
(大学院)	人間科学研究科	臨床心理学専攻 (修士課程)	(15)
		臨床心理学専攻 (博士(後期)課程)	(4)
		人間科学専攻	(17)
	言語文化研究科	言語文化専攻 (修士課程)	(22)
		言語文化専攻 (博士(後期)課程)	(10)
情報学研究科	情報学専攻	(19)	
国際協力学研究科	国際協力学専攻	(15)	
(専攻科)	教育専攻科	教育学専攻	(16)*2
(外国人留学生別科)			(8)
(教育研究所)			1
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	34
文教大学付属中学校			21
文教大学付属小学校			11
文教大学付属幼稚園			9

*1) ()内数字は大学との兼任教員数 *2) 当初の担当予定数

教員の保有学位

※学長を含みません。

教育学部	博士:22人	医学、学術、工学、農学、学校教育学、心身障害学、心理学、体育科学、理学、文学ほか
	修士:27人	家政学、教育学、芸術学、社会福祉学、体育学、農学、文学、保健学、理学ほか
	学士:14人	音楽、家政、教育、造形、文学、芸術ほか
人間科学部	博士:13人	教育学、人文科学、医学、学術、心理学、Ph.D.
	修士:24人	教育学、経営学、社会学、社会福祉学、カウンセリング、心理学、文学、M.A.ほか
	学士:6人	教育心理学、文学、教育学、家政
文学部	博士:13人	学術、教育学、言語学、人文科学、文学、Ph.D.
	修士:24人	教育学、言語学、文学、人文科学、M.A.ほか
	学士:1人	法学
情報学部	博士:17人	工学、システムズ・マネジメント、学術、経営学、経営工学、工学、情報学、経済学ほか
	修士:23人	映像身体学、教育学、経営学、経済学、芸術学、理学、社会心理学、商学、法学ほか
	学士:4人	造形、教養、商学、文学
国際学部	博士:7人	環境学、社会学、心理学、農学、法学、Ph.D.
	修士:25人	文学、法学、教育学、経営管理学、経済学、国際学、社会学、経営学、M.A.ほか
	学士:3人	法学、文学、B.S.
健康栄養学部	博士:11人	スポーツ健康科学、医学、学術、社会学、食品栄養学、体育科学、保健学、理学ほか
	修士:2人	家政学、教育学
	学士:4人	農学、理学、B.S.
教育研究所	学士:1人	文学

[3] 学生に関する情報

学生・生徒・児童・園児数

大学等	学部・研究科等	平成24年5月1日現在				平成25年5月1日現在	
		入学定員	入学者数	収容定員*1	在学者数	卒業者数	進学者数*2
文教大学	教育学部	335	374	1,340(1,310)	1,527	408	19
	人間科学部	400	466	1,600	1,839	413	41
	文学部	360	427	1,440	1,725	383	32
	情報学部	450	520	1,800	2,050	448	22
	国際学部	245	273	980	1,151	275	11
	健康栄養学部	100	107	400(300)	312	—	—
(大学院)	教育学研究科	10	5	20	12	4	0
	人間科学研究科 (修士課程)	30	25	60	53	27	0
	人間科学研究科 (博士(後期)課程)	2	1	6	4	1*4	0
	言語文化研究科 (修士課程)	10	9	20	22	13	4
	言語文化研究科 (博士(後期)課程)	2	1	6	1	—	0
	情報学研究科	6	3	12	8	3	0
	国際協力学研究科	5	2	10	9	6	0
(専攻科)	教育専攻科	15	0	15	0	0	0
(外国人留学生別科)		40	11	40	14	9	8
文教大学付属高等学校*3		240	243	720	720	238	221
文教大学付属中学校*3		144	115	432	361	126	126
文教大学付属小学校		36	33	216	214	36	36
文教大学付属幼稚園		40	54	120	157	53	53

*1) 収容定員は完成年度の数。()内は平成24年度の収容定員 *2) 進学者数に、専修学校、外国の学校等入学者を含みます。 *3) 付属高等学校及び付属中学校の入学定員及び収容定員は募集定員 *4) 満期退学者

志願者数・受験者数・合格者数 ※付属高校(推薦入試・対象学力入試)、指定校推薦入試含まず。

学部・課程・学科	志願者数	受験者数	合格者数	
教育学部	学校教育課程	6,389	6,217	652
	心理教育課程	1,603	1,527	235
	合計	7,992	7,744	887
人間科学部	人間科学学科	1,132	1,089	326
	臨床心理学科	1,057	1,009	283
	心理学科	1,217	1,177	341
合計	3,406	3,275	950	
文学部	日本語日本文学科	1,050	1,018	257
	英米語英米文学科	1,075	1,046	341
	中国語中国文学科	313	303	155
	合計	2,438	2,367	753
情報学部	広報学科	590	558	367
	経営情報学科	506	484	327
	情報システム学科	513	486	267
	合計	1,609	1,528	961
国際学部	国際理解学科	698	661	371
	国際観光学科	729	692	287
	合計	1,427	1,353	658
健康栄養学部	管理栄養学科	731	681	138
	合計	731	681	138
合計	17,603	16,948	4,347	

入学に関する基本的な方針

文教大学

教育学部

【求める学生像】

教育学部は、次のような学生が入学してくることを期待しています。

- ① 子どもの幸せと健康な成長を望み、それに関わることへの意欲に満ちている人
- ② 教育全般にかかわる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人
- ③ 保育や教育に関心を持ち、それに関わる仕事に就きたいと考えている人
- ④ 幼児・児童・生徒の成長と共に自らも成長していこうとする人
- ⑤ 幼児・児童・生徒と喜びをわかちあえる人
- ⑥ 社会や時代の変化に関心を持ち、柔軟に対応していこうとする人

【学んでほしい内容】

- ① 基本的な学習・生活態度
- ② 積極的に人と交流するためのコミュニケーション能力
- ③ 教育及び支援活動に取り組むための忍耐力と体力

人間科学部

【求める学生像】

人間科学部は、次のような学生の入学を期待しています。

- ① 高校等で継続的に修学の努力を重ね、一定の成績・成果を挙げた人
- ② 人間の多様な営みに関心を持ち、その営みを探求する意

思をもった人

- ③ 学校生活、あるいは学校外の地域活動、文化活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、実際生活を通して人間社会への関心をはぐくんできた人

【学んでほしい内容】

- ① 国語・英語・数学・理科・社会は、学部での学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。
② その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望まれます。

文学部

【求める学生像】

文学部は、その教育目標を達成するために次のような学生の入学を期待しています。

- ① 多様な言語と文化に関心が深く、知的好奇心をそなえた学ぶ意欲あふれる人
② 広い視野を持って国際社会で活躍できる人
③ 人に心を開き、円滑なコミュニケーションを行うことができる人

更に、本学部の三つの学科では、上記に加えそれぞれ次のような意欲・関心を持った人を求めています。

日本語日本文学科：日本語及び日本文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求しようとする姿勢を有する人

英米語英米文学科：英語や英語圏の言葉と文化に興味・関心があり、将来英語力を生かしたい人

中国語中国文学科：古代から現代に至る中国語のエキスパートを目指し、言語、文学、思想、社会、文化に関心を持っている人

【学んでほしい内容】

- ① 日本語の能力。読解力及び表現力において基礎的な言語能力を習得していること。
② 日本語以外の他言語の学習。広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心を持っていること。
③ 歴史、地理などの基礎的知識

情報学部

【求める学生像】

情報学部は、情報化社会に関心があり、その中で主体的に生きようとする学生の入学を期待しています。

【学んでほしい内容】

- ① 基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること。
② 論理的な思考力に資するような科目を習得していること。
③ 現代の社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること。

国際学部

【求める学生像】

国際学部は、国際社会で生じている多様な問題に関心を持ち、これらの問題の解決に自ら積極的に関わり、国際理解や国際観光を通じて社会に貢献したいと考える学生の入学を期待しています。たとえば、次のような人を求めています。

- ① 貧困・環境や人権・平和構築などの国際社会の課題に関心を持ち、語学を通して国際理解を深め社会への貢献をしたいという意欲を持つ人
② 交流文化、ビジネスなどの観光領域に関心を持ち、国際観光を通じて社会への貢献をしたいという意欲を持つ人

【学んでほしい内容】

- ① 国際社会の歴史、文化、言語に関する基礎知識を有していること。
② 国際観光や国際交流の体験やそれらの領域を学んだことから新たな問題意識を有していること。
③ 基礎的なコミュニケーション能力を身につけていること。

健康栄養学部

【求める学生像】

健康栄養学部では、次のような学生の入学を期待しています。

- ① 本学の健康栄養学部の特色である、「予防医学を重視した管理栄養士養成」と「ココロの面からも対応できる管理栄養士の養成」を理解し、将来、食と健康のプロフェッショナルとなることを希望する人
② 探究心旺盛で、食と健康に関する問題に興味を持っている人
③ 強い責任感と使命感を持っている人、学問に対しつねに真摯な態度で取り組む人、協調性に富み、周囲からの信望が厚い人

【学んでほしい内容】

理科(化学と生物)と家庭科を十分に習得していることを望みます。特に化学(有機化学)に関する基礎学力が十分に習得できていることが大切です。(入学後、化学(有機化学)に関する基礎学力を能力別に補う初年次教育を実施しています。)

文教大学大学院

教育学研究科

【求める学生像】

教員養成に関する歴史と実績をもつ本学で、理論と実践に裏打ちされた高度の専門性を培いながら、今日の教育に課せられた課題を積極的に担う教員の育成を目指します。

- ① 学部の4年間で培った教育研究に関する知見を土台としながら、大学院へ進んで、それらをさらに発展させようとする人

- ②教員免許を取得しているが、教職に関してより深く学び、または、免許をさらに高いものへ上進しようとする人
- ③大学院修学休業制度を利用し1年間ないし2年間休職しながら、さらに大学院での研修を希望する人
- ④教職の専門性を高めるために研究科を志望している社会人、科目等履修生として大学院で研修を希望している人、さらには、大学院を修了したものが研究生としてさらに継続して学ぼうとしている人

人間科学研究科

【求める学生像】

- ①臨床心理学専攻あるいは人間科学専攻の専門領域に強い関心を持ち、将来これらの領域において研究・実践を行う明確な意志を持っている人
 - ②一般的な学力と、研究・実践を行う上で必要な専門知識、学際的な知識の修得に必要な英語能力を持っている人
- すぐれた人材を確保するため、社会人にも門戸を開いている。

言語文化研究科

【求める学生像】

本研究科の教育目標である「言葉をめぐる高度な専門的職業人の養成」という課題に応えられる資質をもち、さらに本学の建学の理念としての「人間愛」の精神を併せもつことによって、国際社会における異文化間に架橋できるような広い視野を具えた学生。具体的には、次のとおりである。

- ①本研究科の組織的基盤である本学文学部との連続性を重視する立場から、文学部の卒業生で言語と文化に対してさらに専門的な研究を目指そうとする意欲を持つ学生
- ②グローバル化する世界情勢に対応するため、日本と異なる大学制度下で教育を受けた外国人留学生の中で、とくに本研究科の教育目標に沿った研究を志望する学生
- ③社会人の再教育に対する社会的な要請に応えるため、社会人の中でとくに本研究科の教育目標に沿った研究を志望する人

情報学研究科

【求める学生像】

一定の基礎学力、科学技術の根幹を担う情報科学などの基本的な知識を持ち、自ら学ぶ意欲も高く、論理的で柔軟な思考能力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた資質・素養のある学生。わが国はもとより世界からも迎え入れる。

国際協力学研究科

【求める学生像】

現在人類社会が直面している問題の解決に向けて、国際協力の現場に立ちたいという強い意欲とその目標に向かって努力を続ける高い志を持った人物。

具体的には、

- ①「湘南育ちの国際協力の実践者」の育成をスローガンとしてうたっており、国際社会の問題に積極的にかかわっていく意欲を持った学生
- ②日本について学び、日本による国際社会への貢献を理解し、日本人と共に共通の目的と意志を持って国際社会の問題に取り組む意欲を持った留学生
- ③指導教員がそれぞれの研究領域での第一級の研究者であり国際協力の実践者であることを理解し、自らも高度の実践的な専門家になることを目指す学生
- ④大学院はプロの専門家を養成する場であることを十分理解し、プロ育成に必然的に伴う厳しさを理解して、それに耐える精神力を備えた学生
- ⑤国際協力は、「Think globally, act locally」の言葉に象徴されるように、国際水準の知識と解決力を身近な社会、足元の地域で実践することにやりがい、生きがいを見つけ出せる学生

文教大学附属中学校・高等学校

- ①校訓「人間愛」の意味を理解し、自分と同様に人を大切に思いやり、その思いを社会奉仕などに具現化できる生徒
- ②将来自分の進む進路の実現に向けて、日々の勉学に取り組む強い意志と向上心を持つ生徒
- ③学校行事・クラブ活動などに積極的に参加し、人との交わりの中で協調性・社会性を養うことができる生徒

文教大学附属小学校

【教育目標】

「慈愛の心をもった子ども 自ら学ぶ子ども 情操豊かな子ども 頑張る子ども 明朗な子ども」

特別なことが出来なくても、当たり前前の事が当たり前出来ることも…例えば、大きな声で挨拶（おはよう、さようなら、ありがとう）が出来ようなお子さんをお待ちしています。

文教大学附属幼稚園

満3歳に達し、心身ともに健康な子で、本学園の建学の精神である「人間愛」の教育方針並びに幼稚園の教育目標「素直で明るい元氣な子ども」に、御理解・御賛同いただける御家庭のお子さんをお待ちしています。

就職者数及び卒業後の進路

文教大学

学部・学科		状況別卒業生数 (平成24年度卒業生数)	大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校 外国の学校	一時的な仕事に 就いた者	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
教育学部	学校教育課程	7	0	0	5	0	258	2	16	0	4	1	0	293	
	心理教育課程	3	0	0	1	0	98	1	8	0	1	2	1	115	
計		10	0	0	6	0	356	3	24	0	5	3	1	408	
人間科学部	人間科学科	4	3	0	1	0	111	3	16	0	7	1	1	147	
	臨床心理学科	11	1	0	0	0	83	14	27	0	3	1	0	140	
	心理学科	1	0	0	1	0	99	2	15	0	7	1	0	126	
計		16	4	0	2	0	293	19	58	0	17	3	1	413	
文学部	日本語日文学科	7	2	0	0	0	115	3	11	0	8	2	2	150	
	英米語英米文学科	5	3	0	1	0	92	6	11	0	4	1	2	125	
	中国語中国文学科	2	1	1	0	0	87	1	5	0	9	1	1	108	
計		14	6	1	1	0	294	10	27	0	21	4	5	383	
情報学部	広報学科	0	0	0	0	0	117	4	9	0	15	3	0	148	
	経営情報学科	2	0	0	0	0	99	6	18	1	9	18	0	153	
	情報システム学科	3	1	0	0	0	96	6	15	1	18	7	0	147	
計		5	1	0	0	0	312	16	42	2	42	28	0	448	
国際学部*1	国際コミュニケーション学科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	国際関係学科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	
	国際理解学科	3	1	0	3	0	96	1	6	1	11	9	0	131	
計		1	0	1	0	0	111	1	10	1	8	8	0	141	
計		4	1	1	3	0	208	2	17	2	19	18	0	275	
大学合計		49	12	2	12	0	1,463	50	168	4	104	56	7	1,927	

*1) 平成20年度に、国際学部国際コミュニケーション学科は国際理解学科に、国際関係学科は国際観光学科に、それぞれ名称を変更しました。

主な就職先

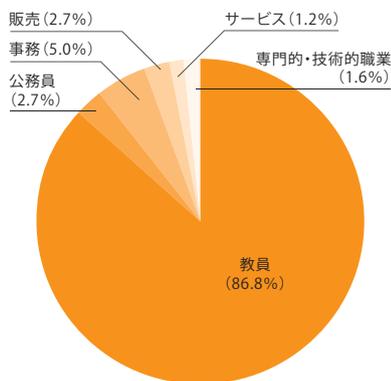
教育学部

(株)ANAエアサービス東京 / (株)エトワール海渡 / (生協)ちばコープ / (社)福島県盲人協会 / (社)東京ABA発達支援協会
 公立小学校教員 / 公立中学校教員 / 公立高等学校教員 / 公立特別支援学校教員 / 公立幼稚園教諭(東京都特別区)
 公立保育士(板橋区、葛飾区、江東区、新宿区、杉並区、墨田区、世田谷区、中央区、文京区、さいたま市、横浜市、宇都宮市、小山市、柏市、
 越谷市、戸田市) / 市川市役所 / 松戸市役所 / 警視庁 / 東京消防庁

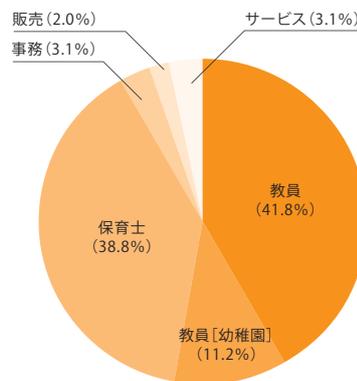
【職業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【学校教育課程】



【心理教育課程】



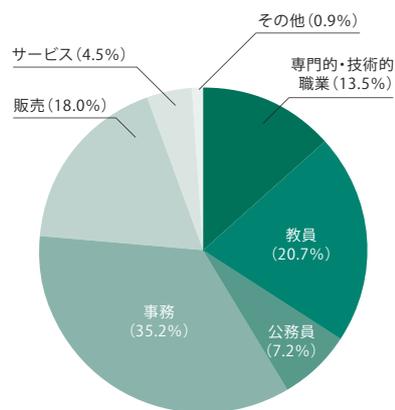
人間科学部

積水ハウス(株)／旭化成ホームズ(株)／(株)エトワール海渡／ヨネックス(株)／トリンプ・スタッフ・サービス(株)
 三井住友海上火災保険(株)／(株)山形銀行／(株)群馬銀行／(株)栃木銀行／(株)常陽銀行／(株)筑波銀行／宇都宮農業(協)
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)／東急リバブル(株)／日本ロジステック(株)／ヤマト運輸(株)／トップツアー(株)／(株)星野リゾート
 (医)IMSグループ(板橋中央総合病院グループ)／(社福)埼玉県社会福祉事業団／(特定)自閉症サポートセンター
 (財)東京社会保険協会／(株)江東微生物研究所／(国)東京医科歯科大学／公立小学校教員／公立中学校教員／埼玉県庁／福島県庁
 東京都特別区／警視庁

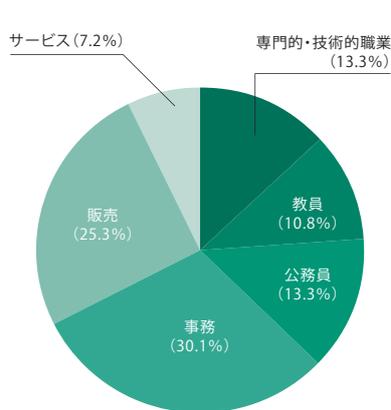
【職業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

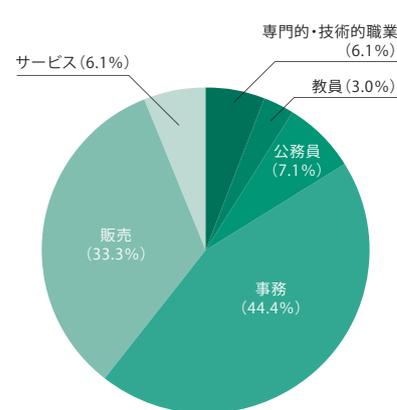
【人間科学科】



【臨床心理学科】



【心理学科】



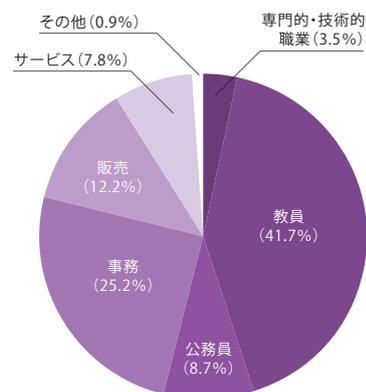
文学部

(株)木下工務店／(株)エトワール海渡／富永貿易(株)／(株)三越伊勢丹／(株)ゆうちょ銀行／(株)三菱東京UFJ銀行／(株)常陽銀行
 (株)足利銀行／(株)きらやか銀行／長野信用金庫／越後ながおか農業(協)／芝浦メカトロニクス(株)／クラランス(株)
 ネグロス電工(株)／フルサト工業(株)／マテックス(株)／村檜石灰工業(株)／東京地下鉄(株)／全農物流(株)／日本郵便(株)
 富士屋ホテル(株)／(株)小田急リゾート／日本私立学校振興・共済事業団／公立小学校教員／公立中学校教員／公立高等学校教員
 群馬県庁／栃木県庁／越谷市役所／相模原市役所

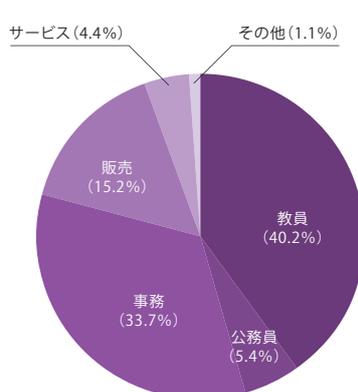
【職業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

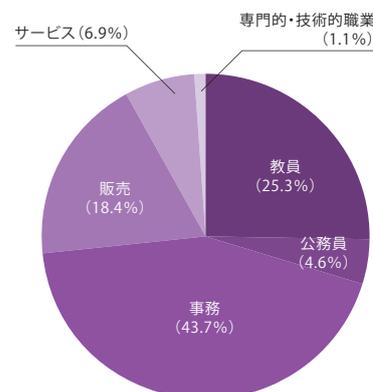
【日本語日本文学科】



【英米語英米文学科】



【中国語中国文学科】



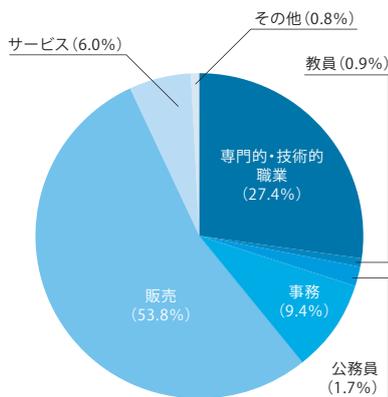
情報学部

新日本印刷(株)／(株)福島民報社／(株)日経ラジオ社／(株)マイナビ／バリューコマース(株)／(株)イマジカデジタルスケープ
 (株)北越銀行／さわやか信用金庫／東海東京証券(株)／富士火災海上保険(株)／さがみ農業(協)／神奈川県民共済(生協)
 神奈川県国民健康保険団体連合会／NTTタウンページ(株)／伊藤忠テクノソリューションズ(株)／ドコモ・データコム(株)／(株)CIJ
 (株)カヤック／キヤノン電子テクノロジー(株)／富士ゼロックス東京(株)／(株)日立ハイシステム21／全日本空輸(株)／(株)星野リゾート
 (株)セブンイレブン・ジャパン／キヤノン化成(株)／東邦シートフレーム(株)／鈴江コーポレーション(株)／(株)江東微生物研究所
 公立中学校教員／警視庁

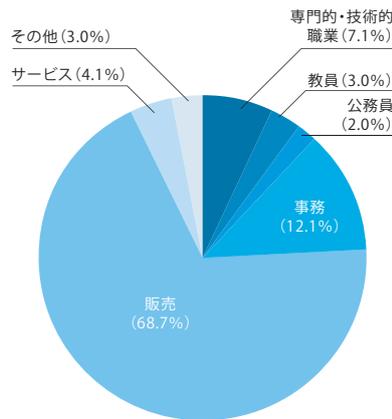
【職業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

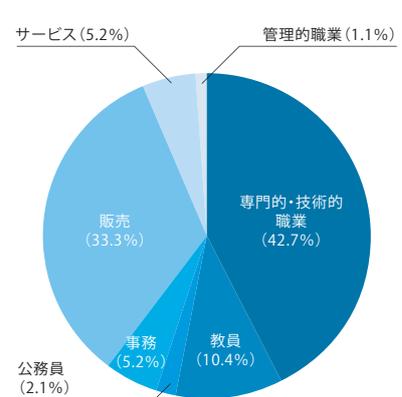
【広報学科】



【経営情報学科】



【情報システム学科】



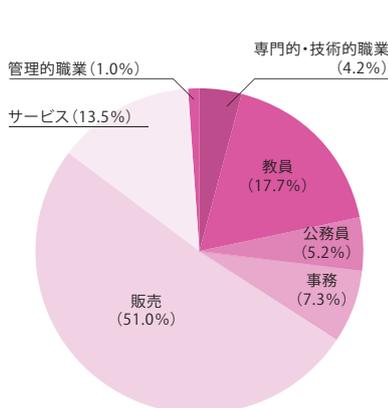
国際学部

東京国際埠頭(株)／佐川グローバルロジスティクス(株)／スカイネットアジア航空(株)／富士屋ホテル(株)／相鉄ホテル(株)
 (株)コープビル ホテルニューオータニ長岡／ケーヨーリゾート開発合同会社／ザ・テラスホテルズ(株)／(株)農協観光
 (株)エイチ・アイ・エス／(株)JALスカイ／(株)JTBサポートインターナショナル／アニヴェルセル(株)／東日本旅客鉄道(株)
 西日本旅客鉄道(株)／吉本興業(株)／鹿島建設(株)／積水ハウス(株)／シャープファイナンス(株)／(株)武蔵野銀行
 (株)山梨中央銀行／湘南信用金庫／日本郵便(株)／(株)パン・アキモト／(株)グリーンハウス／タリーズコーヒー・ジャパン(株)
 地方職員共済組合／公立小学校教員／公立中学校教員／裁判所職員／東京消防庁

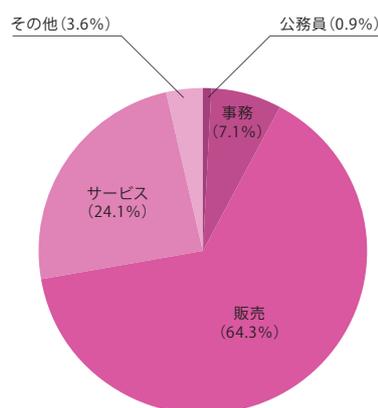
【職業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【国際コミュニケーション学科・国際理解学科】



【国際関係学科・国際観光学科】



就職者数及び卒業後の進路

文教大学大学院・専攻科

状況別卒業生数 (平成24年度修了者数)		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	外国の学校 専修学校	一時的な仕事に 就いた者	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
大学院・専攻科														
教育学研究科	学校教育専攻	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
人間科学研究科	臨床心理学専攻 (博士(後期)課程)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	臨床心理学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	9	0	7	0	0	4	0	20
	人間科学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7
言語文化研究科	言語文化専攻	3	0	0	0	0	7	1	0	0	0	2	0	13
情報学研究科	情報学専攻	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
国際協力学研究科	国際協力学専攻	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	1	0	6
教育専攻科	教育学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

主な就職先

埼玉県教育局／千葉県教育庁／群馬県教育委員会／越谷市教育センター／三郷市教育委員会／川口市教育研究所／
町田市教育センター／さいたま市総合療育センターひまわり学園／(学)昭和女子大学学生相談室／(学)南光学園東北高等学校
(株)上組／(株)エスココミュニケーション／(株)デサン／セントスタッフ(株)／(株)スプリックス／(株)エルチェ／(株)マミーズエンジェル
(社福)コロロ学舎／(社福)網代ホームきずな／鄭州大学西アジア国際学院／大連交通大学／シグマアイティエス(株)

就職者数及び卒業後の進路

外国人留学生別科

状況別卒業生数 (平成24年度修了者数)	就職者	進学者	その他	不詳	計
外国人留学生別科	0	8	1	0	9

[4] 教育課程に関する情報

教育学部 学校教育課程 (平成24年度入学生履修科目)

教養科目 一般・情報 日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽 美術 心理学 言語学 法学 政治学 経済学 社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学 物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ 情報基礎 情報活用 情報A～E	外国語科目 英語Ⅰ～Ⅵ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ コリア語Ⅰ～Ⅳ		学部共通科目 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 国際理解教育 心身障害学入門 生涯学習論(ポランティア論を含む) 人権教育 コミュニティ教育 鑑賞教育	語りの技法 海外教育研修 音楽表現基礎 卒業研究
	体育科目 運動と健康Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ			
教職科目 教職概論 教育原理 教育心理学 道徳教育の研究 生徒指導・教育相談・進路指導 特別活動 学校カウンセリング 教育実地研究 教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 教育と情報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 教職実践演習(教諭)	教育社会学 学校教育と家庭・地域社会 教育制度(比較教育を含む) 教育行財政(教育法規を含む) 教育方法・技術 教育工学(視覚教育を含む) 教育測定及び評価 学級経営 教育史 児童心理学 青年心理学		自由科目 特別支援教育Ⅱ 知的障害児の心理と行動 障害児の心理と発達 精神医学Ⅰ・Ⅱ 発達障害児の心理臨床Ⅰ・Ⅱ 肢体不自由児の病理	[学校経営と学校図書館] [学校図書館メディアの構成] [学習指導と学校図書館] [読書と豊かな人間性] [情報メディアの活用]
	学習心理学 学級集団心理学 特別支援教育Ⅰ 生徒指導の研究 進路指導の研究 国際理解教育の研究 教職特講 教職演習			
※[]内の科目は、学校図書館司書教諭課程登録者のみ履修可能。				
		初等教育科目 国語概説(書写を含む) 社会科概説 数学概説 理科概説 音楽概説 美術概説 体育概説 家庭概説 生活概説		国語科教育Ⅰ・Ⅱ 社会科教育Ⅰ・Ⅱ 算数科教育Ⅰ・Ⅱ 理科教育Ⅰ・Ⅱ 音楽科教育Ⅰ・Ⅱ 図画工作科教育Ⅰ・Ⅱ 体育科教育Ⅰ・Ⅱ 家庭科教育Ⅰ・Ⅱ 生活科教育Ⅰ・Ⅱ

専門教育科目	国語専修 国語概論 日本文学概論 漢文学概論	日本語学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文学演習Ⅰ～Ⅳ 書写Ⅰ・Ⅱ	教科教育法「国語」Ⅰ～Ⅳ 漢文学講読 日本語学講義Ⅰ・Ⅱ	日本文学史Ⅰ・Ⅱ 日本文学講読Ⅰ・Ⅱ 漢文学演習Ⅰ・Ⅱ	書写・書道研究
	社会専修 日本史概説 世界史概説 地理学概説 地誌学 国際関係史	政治学 経済学 倫理学 教科教育法「社会・公民」Ⅰ・Ⅱ 教科教育法「社会・地歴」Ⅰ・Ⅱ	日本経済史 日本法制史 日本政治史 人文地理学 法律学	社会学 哲学 日本史演習Ⅰ・Ⅱ 日本史特別演習 外国史演習Ⅰ・Ⅱ	外国史特別演習 地理学演習Ⅰ・Ⅱ 地理学特別演習
	数学専修 数論 幾何学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 解析学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 数学基礎Ⅰ・Ⅱ	コンピューターⅠ・Ⅱ 教科教育法「数学」Ⅰ・Ⅱ 確率論 数学研究	線形代数学 幾何学演習 代数学 代数学演習	解析学演習 代数学特論 幾何学特論 解析学特論	統計学 数学教育特論
	理科専修 物理学概論Ⅰ・Ⅱ 化学概論Ⅰ・Ⅱ 生物学概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 宇宙地球科学Ⅰ・Ⅱ	教科教育法「理科」Ⅰ～Ⅳ 物理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 生物学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 化学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	地学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 物理学A 化学A 地球科学概論	科学数学 物理学B 化学B 天文学概論	
	音楽専修 ソルフェージュⅠ・Ⅱ・Ⅲ 声楽Ⅰ～Ⅵ ピアノⅠ～Ⅵ アンサンブルスタディⅠ～Ⅵ	音楽理論Ⅰ・Ⅱ 作曲Ⅰ・Ⅱ(編曲法を含む) 西洋音楽史 教科教育法「音楽」Ⅰ～Ⅳ	合唱Ⅰ～Ⅳ 日本伝統音楽演習Ⅰ・Ⅱ 音楽史総合 (日本の伝統・民族音楽を含む)	ピアノ伴奏法 指揮法Ⅰ・Ⅱ 声楽作品研究Ⅰ・Ⅱ ピアノ作品研究Ⅰ・Ⅱ	作曲法研究Ⅰ・Ⅱ
	美術専修 絵画Ⅰ～Ⅵ 彫刻Ⅰ～Ⅵ	デザインⅠ～Ⅵ 工芸Ⅰ～Ⅵ	美術理論Ⅰ・Ⅱ 教科教育法「美術」Ⅰ～Ⅳ	美術史Ⅰ・Ⅱ 総合造形Ⅰ・Ⅱ	造形原理 学外実習
	体育専修 器械体操Ⅰ・Ⅱ 陸上競技Ⅰ・Ⅱ 体育原理 体育運動学	衛生学(公衆衛生学を含む) 水泳 運動生理学Ⅰ・Ⅱ 体育学特論	教科教育法「保健体育」Ⅰ～Ⅳ 学校保健 球技Ⅰ～Ⅳ ダンスⅠ・Ⅱ	体育心理学 野外活動 武道 体育社会学	体育測定評価 体育経営管理学 体育学演習
	家庭専修 家庭経営学 被服学 食物学 住居学 被服構成学実習 調理実習 栄養学	教科教育法「家庭」Ⅰ～Ⅳ 保育学 家庭電気・機械 調理学 食生活論 住生活論 家庭経済学	家族関係学 被服製作実習 食品学 食品学実験 栄養学演習 住居設計・製図 生活環境学	生活福祉論 家庭経営学演習 食品加工学 食品学演習 調理科学 調理科学実習 住居学演習 情報処理 家庭看護学	食育教育演習 食品加工学 食品学演習 調理科学 住居学演習 情報処理 家庭看護学
	特別支援教育専修 障害児教育総論 知的障害児の心理と行動 障害児の心理と発達 病弱児の生理と病理 知的障害児の行動理解	肢体不自由児の病理 発達障害児の心理臨床Ⅰ・Ⅱ 視覚障害児の指導 障害児教育方法 病弱・重複障害児の指導	肢体不自由児の指導 聴覚障害児の指導 障害児教育実地研究 障害児教育実習 精神医学Ⅰ・Ⅱ	障害児支援概論 障害児教育の歴史 小児保健学 行動科学基礎論 障害児教育思想史	障害児福祉学Ⅰ・Ⅱ 心理検査法 障害児教育社会学 障害児教育演習 障害児の個別指導計画

教育学部 心理教育課程 (平成24年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目				外国語科目	体育科目	学部共通科目
	日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽	美術 心理学 言語学 法学 政治学 経済学 社会学 文化人類学	地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学 物理学 化学 生態学	生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ 情報基礎 情報活用 情報A～E			
					英語Ⅰ～Ⅵ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ コリア語Ⅰ～Ⅳ	運動と健康Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	基礎演習Ⅰ・Ⅱ 国際理解教育 心身障害学入門 生涯学習論 (ボランティア論を含む) 人権教育 コミュニティ教育 鑑賞教育 語りの技法 海外教育研修 音楽表現基礎 卒業研究

学科共通専門科目						
専門教育科目	心理学概論	家庭と教育	教育思想史	専門演習	教育メディア論	子ども集団心理学
	教育心理学概論	学習心理学	地域福祉マネジメント	子ども教育連携論	乳児保育Ⅰ・Ⅱ	保育相談支援
	教育原理	教職概論	相談援助	児童文化論	保育内容A～C	保育者論
	生涯学習支援論	児童教育史	社会的養護	職場体験実習	歌唱表現基礎	
	社会福祉概論	子どもの保健Ⅰ・Ⅱ	精神保健	児童・青年心理学	器楽伴奏法Ⅰ・Ⅱ	(幼稚園免許登録者のみ履修可)
	心理統計学	メディア教育論	子どもの保健演習	心理アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ	パフォーマンスA(音楽表現指導法)	教育実地研究
	カウンセリング	保育課程論	家庭支援論	教育心理学研究法	パフォーマンスB(美術表現指導法)	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ
	カウンセリング	教育社会学	国語	教育心理学研究法	パフォーマンスC(身体表現指導法)	
	保育原理Ⅰ・Ⅱ	カウンセリング演習	算数	マルチメディア教材論	保育・教職実践演習(幼小)	(幼児心理教育コースのみ履修可)
	乳幼児心理学Ⅰ・Ⅱ	心理学基礎実験	生活	学習指導論	文献講読A・B	保育実習Ⅰ・Ⅱ 保育所実習
	学校教育論	認知心理学	音楽Ⅰ・Ⅱ	子どもの食と栄養	社会心理学	保育実習Ⅰ・Ⅲ 施設実習
	児童家庭福祉	臨床心理学	図画工作Ⅰ・Ⅱ	社会的養護内容	心理療法	保育実地研究Ⅰ・Ⅱ
	情報処理	教育方法の研究	体育Ⅰ・Ⅱ	障害児保育		
	教育と情報Ⅰ・Ⅱ	教育課程論	器楽表現基礎Ⅰ・Ⅱ			



人間科学部 (平成24年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目			学部教養科目	外国語科目・体育科目	学部共通専門科目
	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽 美術	心理学 言語学 政治学 経済学 宇宙地球科学 生態学 数学	物理学 化学 生物学 日本国憲法 社会学 文化人類学 地理学	教育学 国際学 科学思想史 総合講座Ⅰ～Ⅹ 情報基礎 情報活用 情報A～E	人間科学の基礎 キャリア形成論 社会思想史 基礎統計学 人間関係論 労働と人間 国際社会論	

専門教育科目(学科共通)					
人間科学概説 人間発達論 現代社会論 人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ 情報社会論 ジェンダー論Ⅱ 映像文化論Ⅱ 臨床社会学 現代マスコミ論 現代環境論 スポーツ文化論 教育社会学N	現代社会と社会教育 社会教育計画Ⅰ・Ⅱ 社会教育施設論 国際教育論 遊びと人間 遊びと自然 組織キャンプ論 ボランティア論 コミュニティと社会教育 スポーツカウンセリングN 人間科学体験実習 児童家庭福祉実践論	ケアマネジメント論 障害者福祉実践論 国際社会福祉論 社会保険論Ⅱ 医学知識N 精神医学ⅠN・ⅡN 精神科リハビリテーション学 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 社会心理学N 青年心理学N 教育心理学N	発達臨床心理学N 学校臨床心理学N 心理教育測定評価論N 実存的人間論N 人間科学特講A・B 海外人間科学研修N 経済学Ⅰ・Ⅱ(国際経済学を含む)N 法学Ⅰ・Ⅱ(国際法を含む)N ソーシャルワーク実践理論 コミュニケーション演習 就労支援サービス 更生保護制度 精神保健福祉援助技術総論	精神障害者の生活支援システム 社会教育実習 社会教育演習 社会教育課題研究 高齢者運動実践 ケースワーク演習 ケーススタディ演習 精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助技術各論 精神保健福祉制度論 社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ 行政学N 行次学N 教育行政学N	政治学Ⅰ・Ⅱ(国際政治学を含む)N 学校カウンセリングN 哲学N 倫理学N 社会福祉行政論 社会福祉運営管理論 権利擁護と成年後見制度 グループワーク演習 コミュニティワーク演習 西洋史N 日本史N 地理学N 地誌学N 東洋史N

専門教育科目(コース別)					
現代文化コース	人間教育コース	社会福祉コース			
現代文化論Ⅰ・Ⅱ 社会調査法Ⅰ・Ⅱ 現代家族論 サブカルチャー論 現代の地域と国際社会N ジェンダー論Ⅰ 映像文化論Ⅰ 逸脱行動論N	社会学論N 比較文化論 現代産業論N 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ メディア文化論 市民社会論 日本文化論N	生涯学習の方法 ライフプランニング論 乳幼児発達論 家庭教育論 現代学校教育論 青少年の理解と指導N 基礎生涯学習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ論			

専門教育科目					
臨床心理学文献購読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 心理学実験 臨床心理面接・検査法 社会心理学R 臨床心理学研究法 人格心理学R 認知心理学R 発達心理学R 教育心理学R 学習心理学R 心理調査法R データ解析法R 家族心理学R	人間性心理学 実存的人間論R イメージ心理学 異常心理学 神経心理学 発達臨床心理学R 学校臨床心理学R 青年期の臨床心理 老年期の臨床心理 犯罪被害者の心理 生命倫理 心理教育測定評価論R 臨床心理学特講Ⅰ・Ⅱ	臨床心理査定法 家族療法 精神分析 行動療法 音楽療法 分析心理学 犯罪心理学 グループアプローチR 学校カウンセリングR 医療カウンセリング 産業カウンセリングR 臨床心理実習 臨床心理学総論 芸術療法	現代学校教育論R 臨床教育学 教育社会学R 現代家族論R 現代の地域と国際社会R 分析心理学R 現代産業論R 現代社会論R ボランティア論R ソーシャルワーク論R 経済学Ⅰ・Ⅱ(国際経済学を含む)R 法律学Ⅰ・Ⅱ(国際法を含む)R 青少年の理解と指導R 海外人間科学研修R 教育行政学R	障害児教育 日本文化論R 社会学論R 逸脱行動論R 行政学R 分析学R 政治学Ⅰ・Ⅱ(国際政治学を含む)R 哲学R 倫理学R 西洋史R 地理学R 東洋史R 日本史R 地誌学R	

専門教育科目(学科共通)					
心理学基礎実験 心理学研究法 データ解析法S 発達心理学S 人格心理学S	社会心理学S 学習心理学S 青年心理学S	学校カウンセリングS 福祉カウンセリングS スポーツカウンセリングS 健康医療カウンセリング グループアプローチS	ストレスマネジメント キャリア発達の心理学 医療福祉論S 産業教育 海外人間科学研修S	法学Ⅰ・Ⅱ 経済Ⅰ・Ⅱ 行政 行政と法	政治Ⅰ・Ⅱ 哲学S 倫理 文化社会論 社会学論S

専門教育科目(コース別)					
心理学コース	健康心理学コース	ビジネス心理学コース			
心理学特殊実験 知覚心理学 心理学近現代史 心理学実験法 心理調査法S 実験心理学 認知心理学S	生理心理学 教育心理学S 心理検査演習 心理測定論 家族心理学S 心理学特講A・B	健康心理アセスメント 福祉心理学 健康教育指導法 健康心理カウンセリング 心理調査法S 心理学応用実験 スポーツ心理学			

文学部 (平成24年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目				情報処理科目	外国語科目・体育科目
	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽 美術	心理学 言語学 法学 政治学 経済学 日本国憲法 社会学 文化人類学	地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学 物理学 化学 宇宙地球科学	生態学 生物学 生理学 総合講座 I～X		
					情報基礎 情報活用 情報A～E	英語 I～VI フランス語 I～VI ドイツ語 I～VI 中国語 I～VI ロシア語 I～VI 運動と健康 I・II スポーツと人間 I・II スポーツレクリエーション I・II

	1年次	2年次	3年次	4年次
地域文化		アジア文化研究 I～IV	アジア文化研究 V ヨーロッパ文化研究 I・II	国際関係論 I・II 国際教育論
言語	言語学概説 アジアの言語 I・II	ヨーロッパの言語 I・II	言語と文化 I・II	言語と社会 I・II 対照言語学
文学	文学概論 I・II 映画論	児童文学 I・II 文学と宗教	演劇論 I・II 比較文学 I・II	社会と文学 I・II ヨーロッパの文学 I・II
多文化理解	多文化理解概論 多文化理解演習 I・II	多文化理解論 比較文化論 アジア事情 I ヨーロッパ事情 I 英米事情 I	外国語実地演習 I～V	アジア事情 II ヨーロッパ事情 II 英米事情 II
日本語教育	日本語教育学 I～IV	日本語教育概論 I・II 日本文化基礎 I・II	日本語教育法 I・II 日本語教育事情	日本語教育学 V 日本語教育実践 I・II
キャリア形成と技能		キャリアデザイン論 キャリアアテラシー I・II	日本語の技能総合演習 I・II 情報処理と言語・文化	音声教育法 文章教育法 日本語教育法 III

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修	研究基礎演習 I・II 日本語学基礎演習 I・II 日本古典文学基礎講読 I・II	日本近代文学演習 I・II 日本文化研究	日本語学概論 I・II 日本近代文学批評と理論 日本語学概論	卒業研究 I-(1),(2)
選択必修		日本語学演習 I-(1),(2) 日本語学講義 I-(1),(2) 日本文学講読 I～IV-(1),(2)	日本文学講読と創作 I・II 日本文学史 I・II-(1),(2) 漢文学講読 I・II 国語科教育研究 I・II	卒業研究 II-(1),(2)
選択	書道実技 I・II	書道 I-(1),(2) 書写・書道教育研究 I・II	書道 II-(1),(2) 書道史 I・II 書論・鑑賞	書道 III-(1),(2)

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修	英語研究基礎演習 I・II Communicative English I・II	英語演習 I・II 英語文法演習	英語ライティング演習 英語語彙演習	英語演習 III・IV 卒業研究 I-(1),(2)
選択必修		I 英米文化 I・II 英米文化演習 I・II	英米文化特講 I・II 異文化交流論 映像文化論	
		II 英米文学 I・II 英米文学講読 I・II	英米文学特講 I～VI 英米文学特殊研究 I・II	
		III 英語学 I・II 英語学演習 I・II	英文法論 I・II 英語学特講 I・II	意味論 英語音韻論
		IV 英語教育学 I・II 英語教育学学習者論	英語教育学特講 I～III 英語教育学評価論	
		V 英米文化・英米文学特論 英語学・英語教育学特論	英米語実地研修 I～IV	

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修	中国語文法・講読 I・II 中国語会話・作文 I・II 研究基礎演習	中国研究基礎演習 中国地理・歴史概説 中国学概説	中国語文法・講読 III・IV 中国語会話・作文 III・IV	卒業研究 I-(1),(2) 中国語文演習
選択必修		A 中国語学概説 中国語学講義 I	中国語学演習 I・II 応用中国語演習 I・II	中国語学講義 II 中国語学演習 III～V
		B 中国古典学概説 中国古典学講義 I	中国古典学演習 I・II 文言文演習 I・II	中国古典学講義 II 中国古典学演習 III～V
		C 中国現代社会論概説 中国現代文化論概説 中国現代社会論講義 I	中国現代文化論講義 I 中国現代社会論演習 I・II 中国現代文化論演習 I・II	中国現代社会論講義 II 中国現代文化論講義 II
		共通 中国語コミュニケーション I 中国語演習 I～III 中国語実地研修 I～II	中国現代文化論演習 III～V 中国現代文化論演習 III～V	中国現代文化論演習 III～V 中国現代文化論演習 III～V
			中国語コミュニケーション II 中国語実地研修 III・IV	中国現代文化論演習 III～V 中国現代文化論演習 III～V

情報学部 (平成24年度入学生履修科目)

	I	II	III	IV	外国語科目	学部共通専門科目	
共通教育科目	キャリア形成基礎	日本語表現基礎 数学基礎 自然科学基礎 近現代史基礎 地理学基礎	哲学 倫理学 文化人類学 日本国憲法 論理学 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 政治学入門 宗教学入門 情報社会論 情報倫理とモラル メディア論	数理思考の活かし方 技術と人間 生態系と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論 現代社会のジェンダー論 現代社会の栄養論	英語ⅠA・ⅠB 英語ⅡA・ⅡB 情報英語A～D 専門英語A～D ドイツ語Ⅰ～Ⅲ フランス語Ⅰ～Ⅲ スペイン語Ⅰ～Ⅲ 中国語Ⅰ～Ⅲ 韓国語Ⅰ～Ⅲ 日本語A～E	メディア・リテラシー ICTと教育 メディア表現論 現代社会と著作権 ビジネスと法 企業会計 マーケティング 経営戦略入門 情報学序論 情報とシステム 情報技術史 情報と産業

	必修	選択		
広報学科	文章演習A・B 基礎演習A・B 社会学概論Ⅰ・Ⅱ 社会心理学概論Ⅰ・Ⅱ 記号論 マスコミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ ゼミナールⅠ	ジャーナリズム論 海外研修 文庫演習C～F 非言語コミュニケーション 出版論Ⅰ・Ⅱ 放送論Ⅰ・Ⅱ 広告論 CG&ゲーム PV制作 社会調査Ⅰ～Ⅲ 調査集計法Ⅰ・Ⅱ 基礎文献研究 ハードウェア キャリア研究A 映画論 言語コミュニケーション論	新聞論 コマーシャルフィルム制作 映像表現論 マーケティング・コミュニケーション論 広報論 サウンドデザイン モバイルコンテンツ制作 ポスター制作 マンガ表現 専門職論 インターンシップ 情報化社会 説得コミュニケーション コミュニケーション倫理・法制A・B シナリオ研究 広告メディア論	ブランド・コミュニケーション論 社会観の流れ 社会調査の統計学 国際情報論 メディア効果論 情報学特講義A・B コピーライティング演習A・B ジャーナリズム史 ニュース論 ドキュメンタリー論 広告ビジネス論 情報行動論 メディア効果演習 制作管理手法 ゼミナールⅡ* 卒業研究*

*「ゼミナールⅡ」または「卒業研究」はどちらかの科目を修得しなければなりません

	必修	選択必修Ⅰ	選択必修Ⅱ	選択必修Ⅲ	選択
経営情報学科	基礎簿記演習 情報技術演習	コンピュータ基礎演習 データ処理Ⅱ 経営基礎数学 統計の分析と利用 データ分析 情報法 情報科学概論 情報システムとネットワーク インターネット We bプログラミングⅠ データベース作成 テクニカルライティング 統計の見方	海外研修 インターンシップ キャリア研究B 専門職論 職業指導 原価情報Ⅰ・Ⅱ 財務会計情報 応用簿記 財務諸表分析演習 We bプログラミングⅠ プロジェクトマネジメントA・B アルゴリズムとデータ構造 ハードウェア 産業社会学 情報化社会 情報システムと専門性 情報サービス産業 経営情報特論A・B	問題解決技法 ネットワークモデル分析 シミュレーションモデル分析 システム分析 最適化モデル分析 システム開発の経済性 管理科学 意思決定科学 ロジステクス マイクロ経済学 情報化戦略 経営管理 経営組織入門 マーケティング戦略 組織デザイン論 マーケティング・リサーチ 経営データ分析Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ	組織行動論 マーケティング・リサーチ演習 e-ビジネス

	必修	ISコース必修	ESコース必修	選択		
情報システム学科	基礎演習A・B プログラミングⅠA・ⅠB・Ⅱ インターネット デジタルクリエイション データベース ビジュアル数学Ⅰ 情報処理概論 プロジェクト演習Ⅰ～V プロジェクトマネジメントA システム分析 卒業研究A・B	アルゴリズムとデータ構造 情報システムと経営活動 システム設計 情報システムと専門性 システム開発技法	コンピュータ・グラフィックス演習Ⅰ デジタルデザイン We bデザイン We bプログラミングⅠ ゲームクリエイション	情報化社会 作曲法 ゲーム企画論 テクニカルライティング 基礎統計 記号論 情報理論 海外研修 画像処理Ⅰ・Ⅱ コンピュータ・グラフィックス概論 認知科学 確率統計 問題発見技法 コンテンツプランニング 情報システム特論A・B 情報法 DTP演習 サウンドデザイン ハードウェア 応用代数～記号論理～ ネットワークプログラミング	インターンシップ オープンソースソフトウェア キャリア研究C コンピュータ・グラフィックス演習Ⅱ・Ⅲ パターン認識 プロジェクトマネジメントB ユーザインタフェース 音声情報処理 確率論 空間デザイン 社会と教育 知識システム 多変数解析学 情報システム特論C・D デジタル映像表現 We bプログラミングⅡA・ⅡB プログラミング応用 映像コンテンツ制作 システムプログラミング システム開発の経済性	ソフトコンピューティング ネットワーク運用管理 仮想現実 幾何学B システム開発事例研究 数値計算 解析学概論 問題解決技法 管理科学 経営とシステム システムセキュリティ 知能システム 自然言語処理

国際学部 (平成24年度入学生履修科目)

科目一覧	共通教育科目			基礎スキル科目		学部共通科目	
	I	III	IV	言語科目		I	II
	キャリア形成基礎 II 日本語表現基礎 数学基礎 自然科学基礎 近現代史基礎 地理学基礎	哲学 倫理学 文化人類学 日本国憲法 論理学 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習 総合科目A・B	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 政治学入門 宗教学入門 情報社会論 情報倫理とモラル メディア論	教理思考の活かし方 技術と人間 生態系と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論 現代社会のジェンダー論 現代社会の栄養論	CALL *1 EIC *2 ESP *3 日本語表現法Ⅰ・Ⅱ 日本語表記の常識 日本事情 コンピュータ科目 コンピュータ基礎演習	ドイツ語Ⅰ～Ⅲ スペイン語Ⅰ～Ⅲ フランス語Ⅰ～Ⅲ 中国語Ⅰ～Ⅲ コリア語Ⅰ～Ⅲ 世界の言語 日本語A～E	国際学入門 地域研究A(ヨーロッパ) 地域研究B(中南米) 地域研究C(東アジア) 地域研究D(アフリカ) 地域研究E(アメリカ) 地域研究F(南アジア) 地域研究G(東南アジア) 地域研究H(オセアニア) 海外研修A(アジア研修) 海外研修B(RM研修) 海外研修C(HM研修) ボランティア実地演習

*1) CALL:コンピュータ等の機器を使用した英語科目 *2) EIC:会話を重視するが、作文・読解も含む英語科目 *3) ESP:専門科目に関連する英文の読解や、資格試験、ビジネス英語など、実用英語を中心とした授業

国際理解学科	学科専門共通科目				
	必修	I			II
	国際理解論 新入生ゼミナール 基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ～Ⅳ	国際理解とコミュニケーション (国際コミュニケーション論) 国際理解と政治 (現代国際政治論)	国際理解と文化 (異文化理解論) 国際理解と法 (現代国際法)	国際理解と経済 (現代世界経済論) 国際理解と環境 (地球環境論)
国際コミュニケーション領域		国際協力領域			
ジェンダーと国際社会 英語コミュニケーション論 異文化理解演習 イスラム入門 キリスト教入門 キリスト教文化と社会 仏教・ヒンドゥ教入門 英語表現A・B 英語学概論 英語とメディア 環境コミュニケーション論	通訳入門 翻訳入門 英語音声学 英文学A・B 西洋思想と国際社会 東洋思想と国際社会 社会言語学 比較文学 現代思想 国際化・情報化時代の社会学	交流文化論A・B 文化政策論 英語オーラル・コミュニケーション論 英語教育研究 日本ポップカルチャー論 インタープリテーション論Ⅰ(理論) インタープリテーション論Ⅱ(応用演習) 美術史 特殊講義A～C	日本経済論 国際機構論 NPO・ボランティアの理論 法と行政A(法治国の理念と仕組み) 開発教育論 外国史A・B 地理学 日本史 法と行政B(外国人と行政) ソーシャルビジネス論 金融論 国際人権法 比較政治学	アジア太平洋経済論 国際金融論 市民の環境貢献 安全保障論 国際協力論 開発と国際協力 紛争と国際協力 憲法 資源と国際協力 環境と国際協力 観光と国際協力 平和学 開発経済学	国際化・情報化時代の社会学 環境経済学 国際環境法 農村社会開発論 現代中国論 統計調査の基礎 国際協力実地演習 特殊講義D～F

国際観光学科	学科専門共通科目				
	必修	I			II
	国際観光論 新入生ゼミナール 基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ～Ⅳ	国際観光とビジネス (ビジネス・マネジメント論) 国際観光とマーケティング (マーケティング論)	国際観光とホスピタリティー (ホスピタリティー・マネジメント論) 国際環境と起業(起業論)	国際観光とデザイン (観光デザイン論) 国際観光と会計(財務・会計論)
観光ビジネス領域		観光デザイン領域			
観光ビジネス論 観光サービス 観光マーケティング論 流通論 英語表現C プロジェクトマネジメント 金融論 消費社会論 観光心理学 ビジネス倫理 トラベルビジネス論 旅行法規 トラベル実務	広告論 産業組織論 ホスピタリティー人材開発 エアラインビジネス論 国際金融論 エアラインサービス論 統計調査の基礎 交通事業論 ホテル事業論 ホテルサービス論 ホテルレストラン会計 テーマパーク事業論 スポーツビジネス論	ブライダルマネジメント 観光ビジネスの経済 観光企業の競争戦略 観光ビジネスプロジェクト演習Ⅰ(理論) 観光ビジネスプロジェクト演習Ⅱ(応用演習) 専門インターンシップ事前研修 専門インターンシップⅠ～Ⅳ 特殊講義G～I	NPO・ボランティアの理論 景観と風景のまちづくり 統計調査の基礎 英語表現C 地域開発とミュージアム 地域調査演習 観光と食文化 観光資源論 エコトウリズム論 観光社会学 地域のサステナブル・デザイン論 インタープリテーション論Ⅰ(理論) インタープリテーション論Ⅱ(応用演習)	飲食店企画論 現代都市論 観光と国際協力 地域プロジェクト演習Ⅰ(理論) 地域プロジェクト演習Ⅱ(応用演習) 生涯学習論 博物館展示論 博物館教育論 博物館情報・メディア論 博物館資料保存論 文化交流論A・B 文化政策論	アート・マネジメント論 美術史 博物館実習 専門インターンシップ事前研修 専門インターンシップⅠ～Ⅳ 特殊講義J～L

健康栄養学部 (平成24年度入学生履修科目)

学部 教育 科目	基礎科目		外国語科目		体育・情報処理科目
	音楽 文学 個人と社会 生活と広告 法学概論 経営学 消費者行動論 ヒトと動植物	生命倫理 日本国憲法 食生活論 基礎生物化学 生活と化学 栄養情報Ⅰ・Ⅱ 統計学概論	英会話Ⅰ・Ⅱ 上級英会話 英語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	スポーツA・B 情報処理A～C

専門 教育 科目	栄養教諭コース科目		健康栄養コース科目			臨床栄養コース科目	
	学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ 教育課程論 生徒指導・教育相談 教職実践演習(栄養教諭) 教育方法の理論と実践 学校教育相談(カウンセリング含む) 栄養教育実習 栄養教育演習	マーケティングリサーチ論 メニュー開発論 食産業経営論 フードサービス実習 特定保健指導計画 メタボリックシンドローム対策支援プログラム 健康づくりと運動プログラム 運動指導の心理学的基礎 スポーツ栄養管理 エアロビック運動の理論と実際 体力測定と評価 競技別栄養管理	食の安全性 食品機能論 食品開発論 バイオテクノロジー 食品の官能評価 食品の流通と消費 フードコーディネーター論 フーズベチャリスト論 健康栄養演習	免疫学 栄養法別対応論 栄養ケアプラン 臨床栄養指導 臨床栄養学実習Ⅲ 福祉システム論 小児栄養 食品アレルギーへの対応 高齢者栄養 介護学概論 栄養ケア・マネジメント論 栄養ケア計画・評価論 福祉栄養学実習 臨床栄養演習	カラダを育む科目		
社会・環境と健康	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	食べ物と健康	基礎栄養学	応用栄養学	栄養教育論		
健康管理概論 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ	生化学Ⅰ・Ⅱ 生化学実験Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学実験Ⅰ・Ⅱ 運動生理学 病理学 微生物学	食品学総論 食品学各論 食品学総論実験 食品学各論実験 食品衛生学 食品衛生学実験 調理学 調理学実習Ⅰ・Ⅱ 調理科学実験	栄養学総論 基礎栄養学実験	栄養学各論Ⅰ・Ⅱ 栄養アセスメント論 栄養学各論実習	栄養教育総論 栄養教育各論Ⅰ・Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ		
臨床栄養学	公衆栄養学	給食経営管理論	総合演習	臨地実習			
医療概論 臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ	公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学実習	給食マネジメント論Ⅰ・Ⅱ 給食マネジメント実習	総合演習Ⅰ～Ⅲ	臨地実習Ⅰ～Ⅳ 卒業研究			
ココロを育む科目			キャリアアップ科目				
心理学概論 臨床心理学概論 人間関係概論 健康心理学 発達心理学 コミュニケーション論 心理アセスメント 代替医療論 サプリメントと健康 笑顔コミュニケーション論 アロマテラピーと健康 アロマテラピーコーディネーター	キャリアプランA・B 特別演習A～D 教職概論 教育原理 教育心理学 道徳教育・特別活動の研究						

授業科目のシラバスは、文教大学ホームページで公開しています。

<http://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 大学案内 > シラバス(講義概要)を参照して下さい。

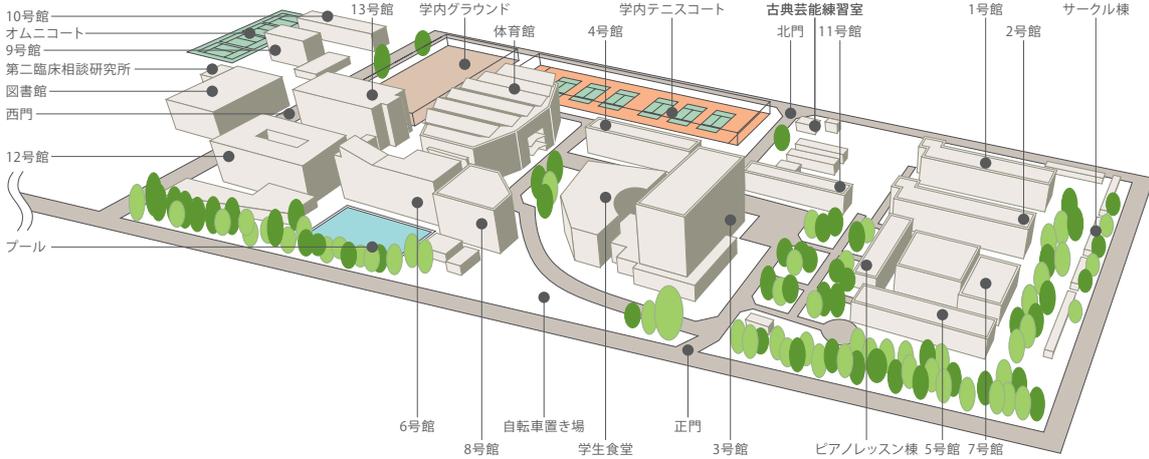
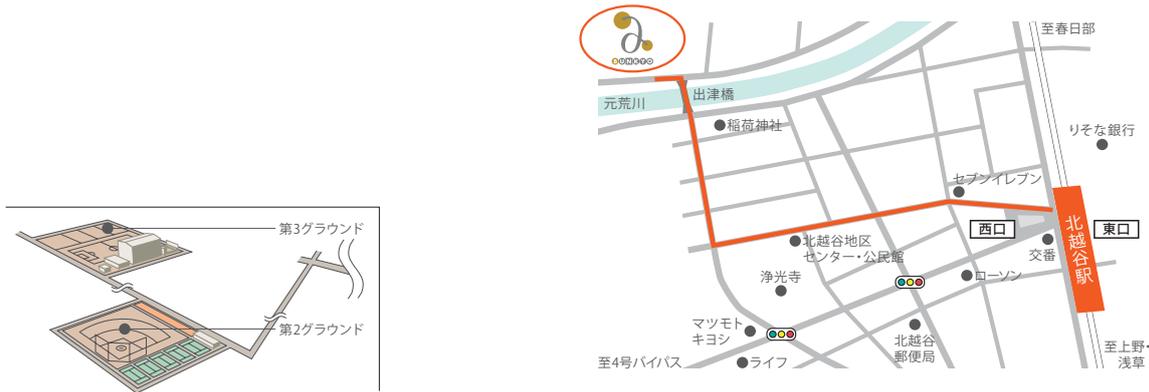
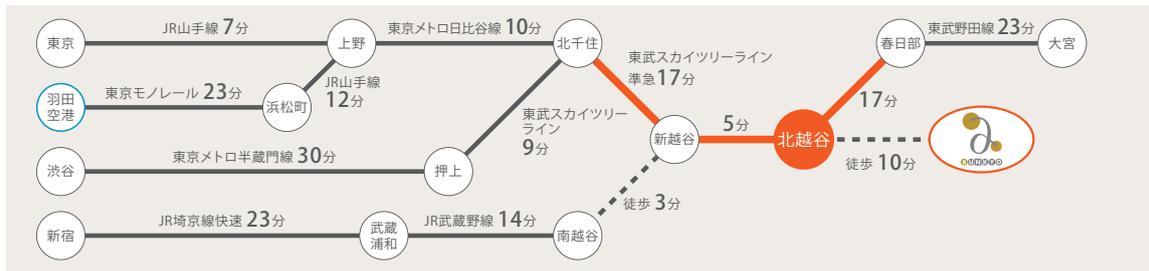
[5] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等		修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
					必修	選択	
文教大学	教育学部	学校教育課程	4年	130単位	98単位	32単位	学士 (教育学)
					104単位	26単位	
		心理教育課程			46単位	84単位	
					96単位	34単位	
	人間科学部	人間科学科	4年	124単位	32単位	92単位	学士 (人間科学)
		臨床心理学科			28単位	96単位	
		心理学科			36単位	88単位	
	文学部	日本語日本文学科	4年	128単位	42単位	86単位	学士 (文学)
		英米語英米文学科			42単位	86単位	
		中国語中国文学科			40単位	88単位	
情報学部	広報学科	4年	124単位	26単位	98単位	学士 (情報学)	
	経営情報学科			10単位	114単位		
	情報システム学科			46単位	78単位		
国際学部	国際理解学科	4年	124単位	40単位	84単位	学士 (国際学)	
	※外国人留学生・帰国生			44単位	80単位		
	国際観光学科			40単位	84単位		
	※外国人留学生・留学生			44単位	80単位		
健康栄養学部	管理栄養学科	4年	124単位	87単位	37単位	学士(栄養学)	
(大学院)	教育学研究科	学校教育専攻修士課程	2年	30単位	14単位	16単位	修士(学校教育)
	人間科学研究科	臨床心理学専攻修士課程	2年	30単位	16単位	14単位	修士(心理学)
		臨床心理学専攻博士(後期)課程	3年	16単位	12単位	4単位	博士(心理学)
		人間科学専攻修士課程	2年	30単位	4単位	26単位	修士(人間科学)
	言語文化研究科	言語文化専攻修士課程	2年	30単位	0単位	30単位	修士(文学)
		言語文化専攻博士(後期)課程	3年	16単位	0単位	16単位	博士(文学)
	情報学研究科	情報学専攻修士課程	2年	30単位	0単位	30単位	修士(情報学)
	国際協力学研究科	国際協力学専攻修士課程	2年	30単位	0単位	30単位	修士(国際協力学)
(専攻科)	教育専攻科	1年	30単位	0単位	30単位	—	
(外国人留学生別科)		1年	38単位	32単位	6単位	—	

[6] 学習環境に関する情報

越谷 キャンパス	所在地	埼玉県越谷市南荻島3337
	主な交通手段	東武スカイツリーライン「北越谷」駅下車
	設置学校等	○大学(教育学部/人間科学部/文学部) ○大学院研究科(教育学研究科/人間科学研究科/言語文化研究科) ○専攻科(教育専攻科) ○外国人留学生別科

キャンパスの概要



運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶体育館(メインアリーナ1,160㎡/サブアリーナ442㎡/トレーニングルーム172㎡) ▶学内テニスコート(全天候型10面3,383㎡) ▶学内グラウンド(クレー3,304㎡) ▶第2グラウンド(テニスコート5面3,792㎡/野球場2面9,826㎡) ▶第3グラウンド(第2体育館384㎡/弓道場37㎡/人工芝グラウンド18,402㎡)
---------	--

課外活動の状況

文化会団体

団体名	活動場所	活動日	紹介
文化会本部	文化会本部室 他	月～金	
ピアノアンサンブル愛好会	ピアノレッスン棟	火・木	連弾、コンサート開催
吹奏楽部	716R、食堂2階	火・水・土	コンクール出場、演奏会
室内合奏団	721R、722R	月・水・金	弦楽器のみでの合奏
モダンフォークソングクラブ	725R	月・木	
音楽友の会	431、第3グラウンド	いつでも、木(ミーティング)	
作詞作曲研究会	第3グラウンド、636R	月(ミーティング)	
管弦楽団	716R	月・水・金・日(9～12月)	
JAZZ研究会	715R	月・木	
箏曲部	古典芸能練習室	月～木のうち週2回	箏
アンサンブルsogno	643R、711R 他	月・木	歌(合唱・ミュージカル・オペラ等)
子どもとっしょ Wonder Kids	おはなし:431R 人形げき:131R 子ども会:133R	おはなし:火・金 人形げき:木・金 子ども会:月・金・土	
文藝會	132R	火・金	部誌発行(年4回)
競技麻雀研究会	部室	月～金(部員が集まった時)	
美術部	424R、部室	火・金	
書道部	422R	火・木	
写真部	部室	第1月 昼休み(ミーティング)	
映画研究部	部室	月・金	
劇団NoN-Spoil	235R	月・水・金	
ボランティア部 C・フラフープ	426R、学外施設	水・木・金・土のうち週1、2回	
学習ボランティアサークル なずなの会	愛泉寮、ゆつく武里、こぼと館	土	
漫画研究会	部室、412R、413R	月～金	
国際交流ボランティアサークル わっち	1035R(1013Rに変更あり)	火(ミーティング)・木	
寺子屋	1024R	金	中学社会教員採用試験勉強
華道部	10号館	金	
SF愛好会	部室	月～金	
合唱団コールリンデ	643R、712R	火・土	

その他

団体名	活動場所	活動日	紹介
学生会総務部	部室	月～金	
監警察実行本部	416R、その他	月・金	学園祭
留学生会	1011R	月・水	
東日本復興支援学生本部(BRO)	635R	火・木	

体育会団体

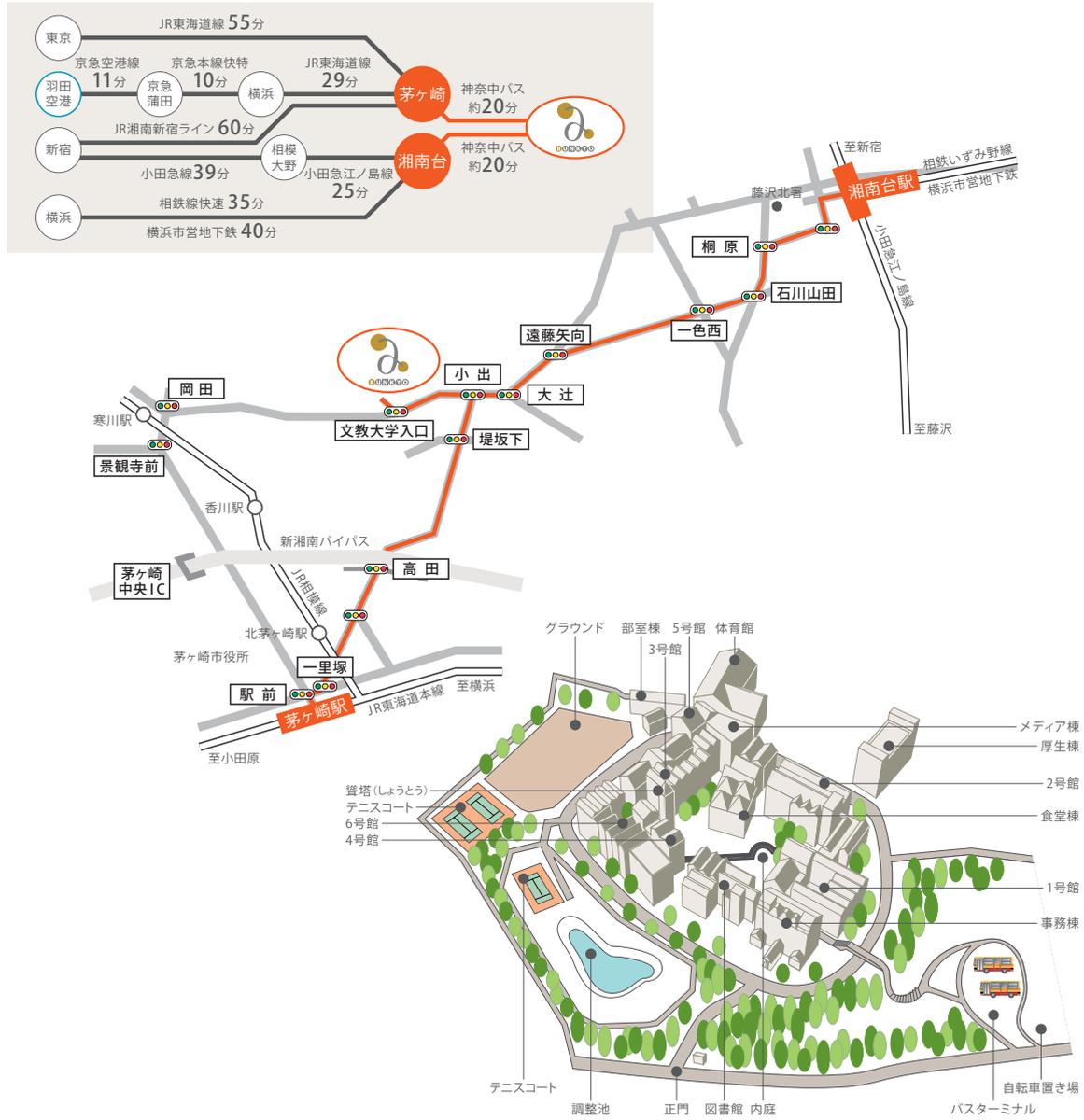
団体名	活動場所	活動日	紹介
体育会本部	構内	不定期	
女子バレーボール部	メインアリーナ、第2体育館	月・水・土(週による)	関東大学バレーボール連盟 3部
女子バドミントン部	メインアリーナ、第2体育館	火・金・土	関東学生バドミントン連盟 3部
女子バスケットボール部	メインアリーナ	月・水・金	関東大学バスケットボール連盟 3部
女子ソフトテニス部	学内オムニコート	火・水・金・土・日	関東学生ソフトテニス連盟 3部
女子硬式庭球部	学内テニスコート	月・水・土	関東学生テニス連盟 5部
女子ソフトボール部	第2グラウンド	火・木・土	関東学生ソフトボール連盟 2部
女子ハンドボール部	メインアリーナ、学内グラウンド	火・水・金	関東学生ハンドボール連盟 2部
女子サッカー部	学内グラウンド	火・木・金	関東大学女子サッカー連盟 3部
男子バレーボール部	メインアリーナ、第2体育館	月・木・土	関東大学バレーボール連盟 4部
男子バドミントン部	メインアリーナ、第2体育館	火・木・土	関東学生バドミントン連盟 6部
男子バスケットボール部	メインアリーナ	月・木・金	関東大学バスケットボール連盟 5部
男子ソフトテニス部	学内オムニコート	火・水・金・土・日	関東学生ソフトボール連盟 2部
男子硬式庭球部	学内テニスコート	火・木・金	関東学生テニス連盟 7部
男子ソフトボール部	第2グラウンド	月・水・土	関東学生ソフトボール連盟 2部
男子ハンドボール部	メインアリーナ	火・水・土	関東学生ハンドボール連盟 4部
野球部	第2グラウンド	月・水・木・土・日	関東学生軟式野球連盟 1部
サッカー部	第3グラウンド	火・水・金・土・日	埼玉大学サッカー連盟 1部
アメリカンフットボール部	第3グラウンド	火・水・金・土・日	関東学生アメリカンフットボール連盟 3部
ラグビー部	第3グラウンド	火・木・土	関東大学ラグビー連盟 5部
卓球部	サブアリーナ	月・木・土	関東学生卓球連盟(男子4部)(女子2部)
ラクロス部	第3グラウンド	火・水・金・土	日本学生ラクロス連盟 3部
陸上競技部	第3グラウンド、しらこぼと陸上競技場、健康福祉村	月・火・水・金・土	関東学生陸上競技連盟
水泳部	夏:学内プール 冬:プレオン北越谷	夏:月～金 冬:火～土	日本水泳連盟 4部
創作ダンス部	サブアリーナ、メインアリーナ舞台、谷中コミュニティセンター	火・木・金	関東学生舞踊連盟
競技ダンス部	学生食堂	水・土	東部日本学生競技ダンス連盟 2部
トランポリン部	メインアリーナ	火・金・土	日本学生トランポリン競技連盟 3位
体操部	サブアリーナ	月・木・土・日	
剣道部	サブアリーナ	火・木・土・日(週による)	関東学生剣道連盟
弓道部	弓道場	火・木・土	関東学生弓道連盟(男子2部)(女子1部)
空手道部	サブアリーナ	水・金	越谷市空手道連盟
スキー部	学内グラウンド	月・金(秋:水)	全日本スキー連盟 4部

届出団体

▶ACT スポーツクラブ(テニス)▶F.C.NUTS(サッカー)▶バドワイザーテニスクラブ(テニス)▶文教AIRS(アルティメット)▶ROYAL HUNT(ピリヤード)
▶RED CROSS(野球・ソフトボール)▶F.C.Liberty(フットサル)▶ヘルベチカ(バスケットボール)▶アーリータイムズ-時期尚早-(野球)
▶サイクリストツウリングクラブ-B.C.T.C.(サイクリング)▶総合武道会(総合格闘技)▶@darts(ダーツ)▶ハモハモ(アカペラ)▶造形クラブ Do(陶芸・立体造形)
▶カオルヘム(ボランティア)▶わこごど(教育現場視察)▶いけつち(サッカー)▶Gz(バスケットボール)▶B-KIDS(バスケットボール)▶文教パイレーツ(野球)
▶R.D(ソフトテニス)▶FLIP(フットサル)▶BICO(国際協力)▶LEGENDS(野球)▶ローターアクトクラブ(ボランティア)▶野外教育研究会あべこべ(野外活動)
▶SPREADS(ダンス)▶和太鼓集団打組『出津龍』(和太鼓)▶Maggie(大道芸)▶デジヴ(写真撮影・展示)▶さちこの会(地域イベント研究・企画)▶ぐるけん(料理)
▶WINDS(テニス)▶Jet's ハイボール同好会(バレーボール)▶プランタンテニスクラブ(テニス)▶LARKS(野球・ソフトボール)▶SHUTTLES(バドミントン)
▶Rookies(野球)▶Leggings(フットサル)▶すぶりんぐ(バドミントン)▶野外活動研究会 SEASON(野外活動)▶バトン・チア(バトン)▶ABOUTY(料理)
▶ひろよ(バレーボール)▶文教ツーリストクラブ(旅行・日本文化研究)▶教師の卵サークルWE(教採対策)▶茶道倶楽部(茶道)▶Rire(テニス)
▶柔友会きのきの(柔道)▶Ermitage(剣道)▶ゴルフサークルALBA(ゴルフ)▶チーム石川(イベント企画)▶に～はお八板!中国語勉強会(中国語学習)
▶ねこ缶(猫研究)▶Pictt(アニメ・ゲーム・漫画制作)▶武道護身空手サークル“雄飛”(空手)▶軽小説校友会(読書)▶よろこび い～(卓球)

湘南 キャンパス	所在地	神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
	主な交通手段	小田急江ノ島線「湘南台」駅下車 西口より神奈中バス「文教大学」下車 JR 東海道線「茅ヶ崎」駅下車 北口より神奈中バス「文教大学」下車
	設置学校等	○大学(情報学部/国際学部/健康栄養学部) ○大学院研究科(情報学研究科/国際協力学研究科)

キャンパスの概要



運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶体育館(大アリーナ952㎡/小アリーナ272㎡)▶部室棟(トレーニングルーム43㎡) ▶学内テニスコート(全天候型3面)▶学内グラウンド(クレー8,032㎡) ▶厚生棟屋上(弓道場435㎡)
---------	--

課外活動の状況

文化会団体

団体名	活動場所	活動日	紹介
文化会本部	文化会室	隔週(ミーティング)、 放課後	
映画製作研究部	6106	月・木	
S F 愛好会	4401、4402	月・金	
演劇部	3114	火・金	
音楽友の会	4201、Bスタジオ、 学食	毎日、 木(ミーティング)	
作詞作曲研究会	Cスタジオ	火(ミーティング)	
茶道部	茶道部室	水	
吹奏楽部	Aスタジオ、1号館	月・水・金	
放送部	放送室、4201	月～木 昼休み、金	
アカベラサークル CyAN	6号館	月・木	
写真部	写真部屋	不定期	
Media Studies Cafe	4203	火	

その他

団体名	活動場所	活動日	紹介
学生会総務部	学生会室	不定期	
聳塔祭実行委員会	学祭室	火(ミーティング)	

体育会団体

団体名	活動場所	活動日	紹介
体育会本部	体育会室	月～金 昼休み	
合気道部	小アリーナ	火・木・土	
楓	6号館	月～金	和太鼓
弓道同好会	弓道場	火・木・土	
ソフトテニス部	テニスコート	火・水・金	
男子ソフトボール部	グラウンド	月・金	
ダンス部 BUZZ	小アリーナ	月・金	
軟式野球部	グラウンド	水・木・土	
バドミントン部	体育館	火・金	
バレーボール部	体育館	月・木・土	
陸上競技部	グラウンド、里山公園 陸上競技場	月・水・金・土	
男子硬式庭球部	テニスコート	火・水・木・土	
サッカー部	グラウンド	火・金・土	
剣道同好会	小アリーナ	月・金・土	
スキー部	グラウンド	月・水・金	
ライフセービング部	6106	火	
女子ソフトボール同好会	グラウンド	月・金	

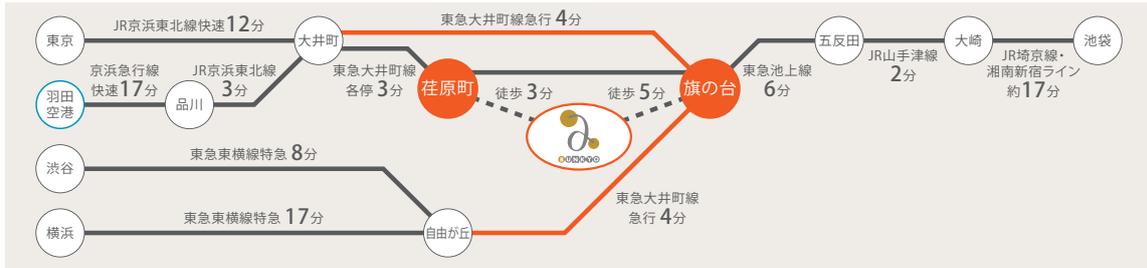
届出団体

▶ACT スポーツクラブ ▶飯(料理) ▶Rachien☆Family ▶BIT(バスケ) ▶CaSP(プログラミング) ▶COCOS(テニス) ▶ELF(イベント) ▶FOG PARTY(広告研究)
 ▶Full House(イベント) ▶S☆G☆A(テニス) ▶seeds(フットサル) ▶SH 同好会(音楽関連) ▶会計研究会(会計専門職研究)
 ▶グローバルサークルTeam One(ボランティア) ▶文科大学観光研究会(観光研究) ▶HAZE ▶チエルシー(食べ歩き) ▶茅ヶ崎地区BBS会(青年ボランティア)
 ▶チャレンジサークルB定食(イベント) ▶現代遊戯研究会 ▶湘南プランタン(テニス) ▶創作部 ▶浪花×MINT(イベント) ▶Full Throttle(テニス)
 ▶Mew(イベント) ▶HOP(ボランティア) ▶Rip's(イベント) ▶文科大学 森プロジェクト ▶ちゃみする(韓国研究) ▶女子サッカー部
 ▶教職サークルAim「さわやか教師塾」(教職研究) ▶ROUTE134(スポーツ) ▶Diammond(ダンス) ▶クリ坊(プログラミング) ▶ポケモンサークル(ゲーム研究)
 ▶TTアクアリウム(卓球) ▶留学生会(留学生交流) ▶Plumeria(ダンス) ▶Beat Generation(サッカー) ▶読書サークルSEA(読書)
 ▶さくらなでこ(日本文化研究) ▶コミュニケーションゼミナール(コミュニケーション向上) ▶CTS(ソフトテニス) ▶文科大学鉄道研究会(鉄道)
 ▶読みんちゅ〜文教図書係〜(読書)



旗の台 キャンパス	所在地	東京都品川区旗の台3-2-17
	主な交通手段	東急大井町線・池上線「旗の台」駅下車
	設置学校等	○文教大学付属高等学校 ○文教大学付属中学校 ○文教大学付属幼稚園

キャンパスの概要



運動施設の概要 ※平成24年5月1日現在	<ul style="list-style-type: none"> ▶体育館(アリーナ1,030㎡/温水プール617㎡/トレーニングルーム98㎡) ▶屋内運動場(講堂753㎡/柔道場135㎡) ▶中高外庭運動場(人工芝グラウンド他1,477㎡)▶中高内庭運動場(全天候型1,600㎡) ▶幼稚園運動場(全天候型445㎡)
-------------------------	---

課外活動の状況

文教大学付属高等学校・ 文教大学付属中学校	白蓉会(生徒会)活動として、体育16・学術4・芸術5・芸能5・同好会3の5ブロック33クラブに分かれて活動しているほか、多摩川河川敷ゴミ拾い・絵本読み聞かせ等のボランティア活動にも力を入れています。本校体育館(アリーナ・屋内プール等)・内外庭の他、多摩川河川敷や駒沢オリンピック公園総合運動場など郊外の施設も利用して活動しています。
文教大学付属幼稚園	文教大学付属幼稚園での課外活動は、任意参加で、①スポーツクラブ(年中、年長対象)②モダンバレー(全園児対象)③水泳クラブ(年中、年長対象)を行っています。

石川台 キャンパス

所在地	東京都大田区東雪谷2-3-12
主な交通手段	東急池上線「石川台」駅下車
設置学校等	○文教大学付属小学校

キャンパスの概要



運動施設の概要

※平成24年5月1日現在

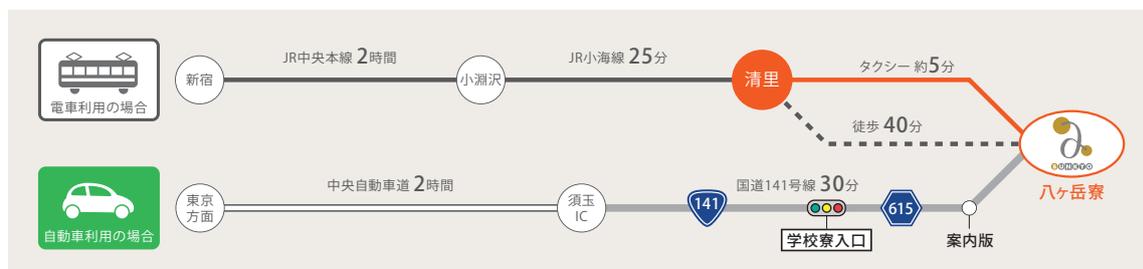
▶屋内運動場(講堂193㎡)▶運動場(クレー719㎡)▶サブグラウンド(クレー350㎡)

課外活動の状況

5月…北アルプス自然学校(5年)／八ヶ岳自然教室(3・4年の縦割り集団で実施)
9月…富士山麓と館山で交互に実施する富士・館山自然学校(全校縦割り集団で実施)
2月…スキー教室(5・6年)

八ヶ岳寮	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545
	主な交通手段	JR 小海線「清里」駅下車

八ヶ岳寮の概要



施設の概要	▶研修室(20名用3室 合計111㎡) ▶宿泊室(10畳10室 合計302㎡) ▶宿泊室(8畳3室 合計72㎡) ▶食堂(収容数100名159㎡) ▶建物面積1,728㎡ ▶敷地面積26,464㎡
-------	--

[7] 学生等納付金に関する情報

文教大学

平成24年度学納金一覧

学部・学科・課程		入 学 金	授 業 料	納入時期 (2・4年次生)	教育充実費	納入時期 (2・4年次生)	実験実習費	納入時期 (2・4年次生)	
教育学部	学校教育課程	1年次	280,000円	825,000円	4月30日	270,000円	4月30日	-	-
		2年次	-	835,000円					
		3年次	-	845,000円					
		4年次	-	855,000円					
	心理教育課程	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
人間科学部	人間科学科	1年次	280,000円	730,000円	4月30日	270,000円	4月30日	-	-
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
	臨床心理学科	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
	心理学科	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
文学部	日本語 日本文学科	1年次	280,000円	710,000円	4月30日	270,000円	4月30日	-	-
		2年次	-						
		3年次	-						
		4年次	-						
	英米語 英米文学科	1年次	280,000円						
		2年次	-						
		3年次	-						
		4年次	-						
	中国語 中国文学科	1年次	280,000円						
		2年次	-						
		3年次	-						
		4年次	-						
情報学部	広報学科	1年次	280,000円	730,000円	4月30日	270,000円	4月30日	-	-
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
	経営情報学科	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
	情報システム 学科	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
国際学部	国際理解学科	1年次	280,000円	730,000円	4月30日	270,000円	4月30日	-	-
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
	国際観光学科	1年次	280,000円	730,000円					
		2年次	-	740,000円					
		3年次	-	750,000円					
		4年次	-	760,000円					
健康栄養 学部	管理栄養学科	1年次	280,000円	800,000円	4月30日	270,000円	4月30日	130,000円	4月30日
		2年次	-	810,000円					
		3年次	-	820,000円					

※1年生の学納金の納入時期は、入試区分ごとに異なります。※授業料は分納を認めており、分納する場合には後期分を平成24年9月30日までに納入。※別科生及び別科修了生は、入学金180,000円。※付属高校生(推薦・対象学力入試)は、入学金半額免除。 ※編入生及び再入学生の学納金は、以下のとおりとする。●入学金は、再入学を許可された年度と同額とする。●授業料、教育充実費及び実験実習費は、入学を許可された学年と同額とする。

その他の費用徴収（免許状等の取得に必要な費用）

※各費用（課程履修費、教育実習費等）の納入時期は、当該費用が必要となる年次に納入

教育学部

学校教育課程

卒業要件で取得することができる教育職員免許状（正免）のほかに、必要な単位の修得によって取得することができる教育職員免許状（副免〔タテ副免・ヨコ副免〕）があります。

〈正免〉

所属専修(国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭)

◇小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状の取得

所属専修(特別支援教育)

◇小学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状〔知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域〕の取得

〈副免〉

タテ副免

正免に加えて、所属専修教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

ヨコ副免

正免及びタテ副免に加えて、所属専修教科以外の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

※ヨコ副免は、所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。

正免及び副免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【正免】	課程履修費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
小学校一種 中学校二種*1 (所属専修教科) 特別支援学校一種*2	—*3	—	15,000円*4	12月10日 ～ 12月12日

*1) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修及び家庭専修の学生が取得できる免許です。*2) 特別支援学校一種免許状(知的・肢体不自由・病弱)は、特別支援教育専修の学生が取得できる免許です。*3) 正免に係る課程履修費は、必要ありません。*4) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修及び家庭専修の学生が必要となる費用です。特別支援教育専修の学生は、必要ありません。

免許種類【副免】	課程履修費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
タテ副免	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	—	—
ヨコ副免	20,000円			
タテ副免及びヨコ副免	40,000円			

※介護等体験費用は、正免取得のために納入するので必要ありません。

心理教育課程

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費、教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈児童心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
幼稚園一種	20,000円	12月10日 ～	30,000円	4月20日 ～	—	—
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	12月12日	30,000円*1	4月26日	15,000円*2	12月10日 ～ 12月12日

*1) 幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、どちらか1校で教育実習を行います。教育実習1校種につき、30,000円です。*2) 小学校一種免許取得者のみ納入が必要となる費用です。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期
幼稚園一種	20,000円	12月10日 ～	30,000円	4月19日 ～
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	12月12日	60,000円*1	4月25日

*1) 幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、幼稚園及び小学校の2校で教育実習を行います。教育実習費は、1校種につき、30,000円です。

保育士資格取得に必要な科目の課程履修費・保育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費	納入時期	保育実習Ⅰ施設実習	納入時期	保育実習Ⅰ・Ⅱ保育所実習	納入時期
保育士資格	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	20,000円	4月19日 ～ 4月25日	30,000円	4月19日 ～ 4月25日

人間科学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

人間科学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 (社会)	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
高等学校一種 (公民)					—	—
中学校一種 (社会)					—	—
高等学校一種 (公民・福祉)	110,000円	12月10日 ～ 12月12日	30,000円	4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
小学校一種	60,000円	—	50,000円	—	—	—
中学校一種 (社会)	—	—	—	—	—	—
高等学校一種 (公民)	—	—	—	—	—	—
特別支援学校一種	—	—	—	—	—	—

※高等学校(福祉)及び特別支援学校一種の免許取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

臨床心理学科/心理学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 (社会)	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
高等学校一種 (公民)					—	—
中学校一種 (社会)					—	—
高等学校一種 (公民・福祉)	110,000円	—	30,000円	—	15,000円	12月10日 ～ 12月12日

※高等学校(福祉)の免許取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

文学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

日本語日本文学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 高等学校一種 (国語)	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
—*1					—	
中学校一種 (国語) 高等学校一種 (国語) 高等学校一種 (書道)	40,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
中学校一種 (国語) 高等学校一種 (国語) 中学校二種 (英語)					—	—
小学校一種	110,000円		30,000円			

*1) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

英語英米文学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 高等学校一種 (英語)	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
小学校一種	110,000円		30,000円			

中国語中国文学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 高等学校一種 (中国語)	20,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
中学校一種 高等学校一種 (国語) 高等学校一種 (書道)					—*1	—
中学校一種 (中国語) 高等学校一種 (中国語) 中学校二種 (国語)	40,000円	12月10日 ～ 12月12日	25,000円	4月19日 ～ 4月25日	15,000円	12月10日 ～ 12月12日
中学校一種 (中国語) 高等学校一種 (中国語) 中学校二種 (英語)					—	—
小学校一種	110,000円		30,000円			

*1) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

日本語教員養成コースを履修する場合の諸費用は、次のとおりです。

資格名	登録費	納入時期	日本語教育実習費	納入時期
日本語教員養成コース「1級」又は「2級」	10,000円	12月10日 ～ 12月12日	20,000円	5月10日 ～ 5月25日

情報学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

広報学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
高等学校一種 (情報)	20,000円	6月4日 ～ 6月7日	20,000円	5月14日 ～ 5月17日	—*3	—

経営情報学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
高等学校一種 (情報)	20,000円	6月4日 ～ 6月7日	20,000円	5月14日 ～ 5月17日	—*3	—
高等学校一種 (商業)*1						
高等学校一種 (情報)(商業)						

情報システム学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
高等学校一種 (情報)	20,000円	6月4日 ～ 6月7日	20,000円	5月14日 ～ 5月17日	—*3	11月27日 ～ 11月29日
中学校一種 (数学)			25,000円		15,000円	
高等学校一種 (数学)*2						
高等学校一種 (情報)						
中学校一種 (数学)						
高等学校一種 (数学)						

*1) 広報学科及び情報システム学科の学生が高等学校一種(商業)の免許状を追加取得する場合は、他学科受講として別途に当該課程履修費が必要となります。*2) 広報学科、経営情報学科の学生が中学校・高等学校一種(数学)の免許状を追加取得する場合は、他学科受講として別途に当該課程履修費が必要となります。また、中学校の教員免許の取得のため、実習期間が長くなることにより、教育実習費は25,000円となります。*3) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

国際学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

国際理解学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
中学校一種 (英語) 高等学校一種 (英語)	20,000円	6月4日 ～ 6月7日	25,000円	5月14日 ～ 5月17日	15,000円	11月27日 ～ 11月29日
中学校一種 (社会) 高等学校一種 (公民)						

健康栄養学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

管理栄養学科

免許種類	課程履修費	納入時期	教育実習費	納入時期	介護等体験費用	納入時期
栄養教諭一種	6,000円	1月24日 ～ 1月25日	15,000円	—*1	—	—

*1) 教育実習は当該年度卒業の見込みがあることを条件としているため、平成24年度は実施しておらず、費用を徴収していません。

その他

教員免許状授与の一括申請について

一括申請とは、大学が免許状取得有資格者を取りまとめて、大学が所在する都道府県の教育委員会へ免許状の授与申請をすることです。一括申請諸費用は、一免許状につき次のとおりです。

対象学生	申請先	一括申請諸費用	納入時期
越谷キャンパスの学生	埼玉県教育委員会	3,500円	11月8日～11月14日
湘南キャンパスの学生	神奈川県教育委員会		1月16日～1月18日

※栄養教諭一種の免許状は、大学による一括申請を実施していません。

学校図書館司書教諭課程

教育学部、人間科学部及び文学部の学生が学校図書館司書教諭課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費	納入時期
学校図書館司書教諭	10,000円	4月12日～4月18日

図書館司書課程

文学部及び人間科学部の学生が図書館司書課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費	納入時期
図書館司書	28,000円	12月10日～12月12日

文教大学大学院・専攻科

平成24年度学納金一覧

研究科等	入学金	授業料	納入時期 (在学生)	教育充実費	納入時期 (在学生)			
人間科学研究科	入学生	280,000円	4月30日	100,000円	4月30日			
	在学生	—						
言語文化研究科	入学生	280,000円						
	在学生	—						
情報学研究科	入学生	280,000円						
	在学生	—						
国際協力学研究科	入学生	280,000円						
	在学生	—						
教育学研究科	入学生	280,000円						
	在学生	—						
専攻科 教育専攻科	—	250,000円				610,000円		

※入学生の学納金の納入時期は、入試区分ごとに異なります。(専攻科については、平成24年度入学者なし) ※授業料は分納を認めており、分納する場合には後期分を平成24年9月30日までに納入。 ※文教大学卒業生の入学金は、大学院では全額免除、専攻科では全額免除。

その他の費用徴収 (博士論文審査料)

博士論文の提出時には、以下のとおり論文審査料を納めなければなりません。

種別	授業料	論文審査料	納入時期
課程博士	本大学院博士後期課程在学生 (在学中に論文を提出した場合)	免除	論文提出時
	博士後期課程満期退学者(退学後5年以内)	100,000円	
論文博士	本大学院に在籍したことがない者及び 本大学院博士(後期)課程を修了していない者	200,000円	
	博士後期課程満期退学者(退学後5年超過)	100,000円	

減免制度

文教大学・文教大学大学院私費外国人留学生の学納金減免制度

対 象	減免申請の対象者は、以下の全てに該当する学生 ①在留資格「留学」を有する正規の課程に在籍する外国人留学生 ②授業の出席状況が良好な者 ③毎月の在籍確認サインを行っている者 ④成績が良好である者 ⑤学内の行事に積極的に参加する者 ただし、次に該当する者は減免対象から外すことがあります。 ◇留年した者(ただし、病気等やむを得ない事情の場合は除く。) ◇国、地方自治体、その他団体から授業料が支給されている者 ◇本学が減免対象としてふさわしくないと判断した者(素行不良者等)
採用人数	大学:89人 大学院:16人 (平成24年度実績)
減免額	授業料年額の30% ※入学金及び教育充実費は減免の対象にはなりません。
申込手続等	【必要書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類 【出願時期】 4月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課国際交流係 湘南キャンパス:教育支援課

東日本大震災の被災学生に対する学費減免措置

対 象	平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した学生で、以下に該当する方 ①災害救助法適用地域に学費支弁者が居住する学生で、今回の震災により学費支弁者が死亡又は行方不明、家屋が全半壊・全半焼又は流失の被災に遭われた方 ②福島原発事故により警戒地域(原発から20km以内)・計画的避難区域に指定された地域に学費支弁者が居住する方
採用人数	計39人(区分A:0人/区分B:39人/区分C:0人)
減免区分	【区分A】 次の①と②の両方に該当する方は、学費*1を全額免除 ①学費支弁者を亡くされた方又は行方不明の方 ②学費支弁者の居住する家屋が全壊、全焼又は流失した方 【区分B】 次の①～③のいずれかに該当する方は、授業料を全額免除 ①学費支弁者を亡くされた方又は行方不明の方 ②学費支弁者の居住する家屋が全壊、全焼又は流失した方 ③福島原発事故により警戒地域(原発から20km以内)・計画的避難区域に指定された地域に学費支弁者の住居がある方 【区分C】 学費支弁者の居住する家屋が半壊、半焼した方は、授業料の1/2を免除

*1)学費とは、授業料、教育充実費及び実験・実習費

付属学校

学納金一覧

	授業料		入学金		その他の費用徴収	
	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
付属高等学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月12日	100,000円	5月28日
		8月28日 11月28日		～ 3月12日		
【その他の費用の内訳】維持費(100,000円)						
付属中学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月1日	100,000円	5月28日
		8月28日 11月28日		～ 2月5日		
【その他の費用の内訳】維持費(100,000円)						
付属小学校	408,000円	毎月納入 34,000円	200,000円	11月29日	80,000円	4月23日
		【その他の費用の内訳】維持費(80,000円)				
付属幼稚園 (3年保育)	312,000円	毎月納入 26,000円	150,000円	11月1日	56,500円	4月9日
		【その他の費用の内訳】維持費(30,000円)、教材費(20,000円)、冷暖房費(6,500円)				

[8] 学生等支援と奨学金に関する情報

学生等支援組織

文教大学

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援課	キャリア支援課は、就職や進学に関する個別の相談や質問に親身に応じる学生個々の支援を重視するとともに、学生が描く目標を実現するための具体的なプログラムを作り、スケジュールに沿った着実な就職活動をサポートしています。丁寧なアドバイスや情報提供などを通じて、社会で実力を発揮するためのバックアップをしています。
進学支援		
履修支援	教育支援課 学生支援室	教育支援課は、授業や試験、証明書の発行、各種実習、学籍、勉強に関することと、課外活動、奨学金、拾得物、アルバイト、学生生活全般に関することについて支援しています。
生活支援(住居、アルバイト等)		
経済支援		
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健センター(医務室・相談室)	保健センターには、本学学生・教職員を対象とした医務室と相談室があります。医務室では、病気やけがの応急処置、日常の健康管理についての相談に常時応じ、相談室では、専門のカウンセラーが、悩みや不安などの相談に応じています。

文教大学附属高等学校

	組織名	機能
進学支援	学習・進路指導部	進路指導、進学情報提供
履修支援	学習・進路指導部	シラバス作成、講習会
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学附属中学校

	組織名	機能
履修支援	学習・進路指導部	シラバス作成、講習会
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学附属小学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導委員会(高学年部会)	個別の面談による聞き取りと、それをもとにした委員会の話し合いと調整
保健・衛生・メンタルヘルス等	養護教諭を中心に全教員で連携	「からだから」の月一回の発行、学期ごとの発育測定等

文教大学附属幼稚園

	機能
進学支援	国立・私立小学校受験については、担任及び園長が保護者の要望に応じてアドバイスをしています。
保健・衛生・メンタルヘルス等	特別支援を必要とする園児には、園と保護者と品川区障害者福祉課で連携しながら適切に対応しています。

奨学金

文教大学

文教大学奨学金

第1種奨学金	
対 象	学業成績が特に優秀な学生(2~4年生)
出願資格	以下の全てを満たしていること。 ① クラス・ゼミナール等の担当教員の推薦がある者 ② 勉学の意欲を持ち、成績が採用基準を満たしている者
採用人数	55人(平成24年度実績)
金 額	一律100,000円
申込手続等	【必要書類】 ① 文教大学奨学金願書 ② 成績関係書類(2年生以上は全員提出) ③ 出願ラベル(湘南キャンパスのみ) 【出願時期】 4月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課第2窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口
第2種奨学金	
対 象	勉学の意欲を持ちながら、経済的な理由で修学に支障をきたしている学生(1~4年生)
出願資格	以下の全てを満たしていること。 ① クラス・ゼミナール等の担当教員の推薦がある者 ② 勉学の意欲を持ち、成績が採用基準を満たしている者 ③ 学費の支払いが困難な者
採用人数	171人〔越谷:86人/湘南:85人〕(平成24年度実績)
金 額	授業料の全額又は一部(半額・1/3・1/4のいずれか)
申込手続等	【必要書類】 ① 文教大学奨学金願書 ② 所得関係書類 ③ 成績関係書類(2年生以上) ④ 出身高校発行調査書(1年生のみ) ⑤ 出願ラベル(湘南キャンパスのみ) 【出願時期】 4月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課第2窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口

文教大学私費外国人留学生に対する奨学金

対 象	文教大学私費外国人留学生(1~4年生) ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に、他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀、かつ、修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事(ボランティア等)に参加すること。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	37人〔越谷:9人/湘南:28人〕(平成24年度実績)
金 額	月額30,000円
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書(奨学金希望の理由、将来の希望等を記入します。) ② その他必要な書類 【出願時期】 9月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課 国際交流係 湘南キャンパス:教育支援課窓口 【その他】 出願後、選考面接が行われます。

文教大学外国人留学生別科奨学金

対 象	文教大学外国人留学生別科生
出願資格	以下の条件を全て満たした者で、クラス担任が推薦する者 ① 修了が見込まれ、本学の学部、大学院のいずれかに進学する者 ② 学習態度が良く、学業優秀な者 ③ 学校行事参加等での積極性が認められる者
採用人数	2人(平成24年度実績)
金 額	授業料の全額又は一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 奨学金申請書 【出願時期】 2月 【出願場所】 越谷キャンパス:外国人留学生別科事務室 【その他】 出願後、選考面接が行われます。

文教大学私費外国人留学生特待生制度

対 象	外国人留学生入学試験合格者の中から選考 ※ただし、留学生指定校推薦入学試験・留学生編入学試験・留学生別科推薦入学試験の合格者を除く。
対象学部	文学部・情報学部・国際学部
採用人数	1人(平成24年度実績)
金 額	入学金免除と月額30,000円(入学年度1年間限り) ※留学生特待生に採用された場合、当該年度は本学奨学金には出願できません。

文教大学大学院

文教大学大学院奨学金

対象	大学院全研究科学生 春募集:2年生以上のみ 秋募集:1年生のみ
出願資格	大学院全研究科在学生のうち、人物、学力ともに優秀で、健康であり、学資の支弁が困難であると認められる者 ※ただし当該年度に他の給付される奨学金を受給している者又は受ける予定の者は、原則として除く。
採用人数	28人(平成24年度実績) 春募集17人(越谷:11人/湘南:6人) 秋募集11人(越谷:8人/湘南:3人)
金額	授業料の全額又は一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 ① 奨学金願書 ② 本人及び配偶者の収入を証明する書類 ③ 成績を証明する書類 ④ その他、募集説明会において指示された書類 【出願時期】 春募集:4月 秋募集:10月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課第2窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口

文教大学大学院私費外国人留学生奨学金

対象	文教大学大学院私費外国人留学生 ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀、かつ、修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事(ボランティア等)に参加することが義務付けられています。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	8人(越谷:5人/湘南:3人)(平成24年度実績)
金額	授業料の一部
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書 ② その他、必要とされる書類 【出願時期】 1,2年次 9月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課 国際交流係 湘南キャンパス:教育支援課窓口 【その他】 書類提出後、選考面接が行われます。

その他の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて施行されている奨学金のほか、地方公共団体(都道府県市区町村)・民間育英団体その他の奨学金があります。募集時期、奨学金の月額、給付・貸与種別は、多岐にわたります。

チャレンジ育英制度

企画奨励	
出願資格	下記の「Ⅰ」及び「Ⅱ」の事項に該当する企画を対象とする。(但し、クラブ・サークルの活動は除く) Ⅰ. 下記のすべての事項にあてはまること。 ① 本学等(文教大学(専攻科含む)・文教大学大学院)の学生又は本学の学生で構成する団体が実施する活動。 ② 育英金を援助することにより、更に高いレベルの結果が期待できる活動。 ③ 学生又は団体が自ら発案した、自主的な活動であること。 ④ 4年生の出願については、卒業論文等と関連のないもの。 ⑤ 大学が実施する他の支援制度等に採用されていないこと。 ⑥ 原則として下記「活動時期」の期間内に完結し、結果を報告できる活動であること。 Ⅱ. 上記Ⅰの条件を満たし、かつ以下のいずれかにあてはまること。 ① 独創性溢れる、ユニークな企画であること。 ② 活動の結果が地域並びに社会への還元を期待できること。 ③ 文教大学の名を世に広めることができる。文教大学のブランド向上に寄与できること。 ④ その他、選考委員会が承認した活動。 《注意》 ●過去に採用された企画と類似する企画の場合、企画の“発展性”が必要です。また、出願者が違う場合であっても、同一グループとみなすことがあります。 ●1人が複数の企画に出願することができません。ただし、共同実施者として参加することは可能です。 ●活動に関する事前打ち合わせ等での飲食費は活動予算及び収支報告の対象外となります。(実際の活動に伴う食材費は除く) ●当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。
給付件数	10件以内(平成24年度実績:7件)
給付額	個人、団体を問わず1件あたり20万円以内
活動時期及び活動報告	出願できる活動は、下記の期間に実施される活動とする。 【1~3年生の出願】 活動期間は出願年度の4月1日~3月31日とし、翌年4月に報告書を提出しなければならない。 【4年生の出願】 活動期間は出願年度の4月1日~1月31日とし、活動終了後、速やかに報告書を提出しなければならない。
申込手続等	【必要書類】 ① チャレンジ育英制度応募用紙 ② 企画書(任意の書式) ③ 共同実施者名簿(該当者のみ提出) ④ 活動予算計画書 ⑤ 誓約書 ⑥ その他添付書類 【出願時期】 5月 【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課第2窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口 【活動終了後に提出するもの】 ① 活動結果報告書 ② 収支報告書 ③ 計画を遂行したことが分かる資料等

論文奨励	
出願資格	<p>本学等(文教大学(専攻科含む)・文教大学大学院)の学生であること。 ※ただし、当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。</p>
給付件数	<p>14件(平成24年度実績) ① 優秀賞:5万円(1件) ② 佳作:2万円(4件) ③ 努力賞:5千円以内(9件)</p>
課題テーマ	<p>〈越谷キャンパスの学生〉 下記①・②の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述して下さい。 ①『文教大学への提言』 ②『「秋入学」について』 ※①②両方に出願することはできません。</p> <p>〈湘南キャンパスの学生〉 下記①・②・③の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述して下さい。 ①『湘南キャンパスの学習、生活環境をより良くしていくための提案』 ②『日本の大学教育に関する全体の議論、争点等についてどのように考えるか、あるいはどのように改革すべきかについての論考』 ③『東日本大震災からの復興をどのように進めていくかについての考察と提言』 ※①②③の3つに出願することはできません。</p> <p>【両キャンパス学生に共通する事項】 ※未発表の論文に限ります。 ※卒業年次生については、研究論文(卒業論文)と類似のものは認めません。</p>
申込手続等	<p>【出願書類】 ① チャレンジ育英制度応募用紙 ② 論文(印刷されたもの) ③ 論文(USB等に記録したもの) ④ 誓約書</p> <p>【出願時期】 9月</p> <p>【出願場所】 越谷キャンパス:教育支援課第2窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口</p>

〔1〕学園

ガバナンス

平成24年度の学園の役員は、理事15名（うち非常勤理事4名）、監事2名（いずれも非常勤）で構成しています。理事会は毎月1回定例のほか臨時でも年に数回開催しますが、平成24年度に開催した理事会（全13回）のうち、欠席は病気療養によるもの以外はありませんでした。これが学園の理事会運営の大きな特徴の一つです。

やむを得ない理由で委任状による出席の扱いとなった理事もいましたが、委任状提出者はごく少数です。議題と資料は、全ての理事・監事にあらかじめ配布しており、委任する際の委任状は、議題ごとに賛否を表明できるものとなっています。万一、委任する際にも、できる限り全ての理事の意思が議案に反映できるように配慮した運営を行っているのが、特徴の二つ目です。

また、授業期間外の夏季休業中等には理事合宿等を開催し、学園経営戦略の課題や解決策について議論を深め、外部の講師を招いての意見交換等を行い、役員の研鑽や交流を深めている点が三つ目の特徴です。

そのほか、冒頭の「主な事業の目的・計画」で述べた「学園経営戦略」の課題の一つとして「ガバナンス体制の検討」を掲げ、理事会の中にワーキンググループを設置して、現状のガバナンス体制の課題と論点を整理し、「意思決定の迅速化」、「理事会の機能・権限・責任の明確化」を中心にガバナンス体制を他大学の事例検証と併せて検討しています。

自己点検・評価

（外部の格付会社による学校法人の取得格付の公表）

学園は、平成25年1月に「(株)格付投資情報センター」から、学校法人の組織運営や財務状況等について格付（「A」、格付の方向性：安定的）を取得しました。学園は、23年に格付を取得して以来、「A」、「格付の方向性：安定的」を維持しています。取得した格付については、理事会で審議のうえ、学園のホームページで一般・教職員向けに、「(株)格付投資情報センター」のホームページで一般・会員向けに、更に金融情報電子媒体（日経クイック等）でも公開しています。

学園経営の現状について外部評価を受けることは、学園の自己点検・評価につながるものです。その前段階として、学園各部署が現状と課題を明らかにして今後の目標を設定し、外部機関に対しての提出資料やヒアリングによって自らの活動を点検し、評価することが必要になります。この意味でも、外部機関の格付取得は有効に作用しています。

さらに、格付結果を公表することは、学園内はもとより、一般の方々にも広く学園の活動を理解していただくという趣旨があります。次の情報公開の項目でも述べていますが、学園の保有する情報のみでなく、学園経営そのものの評価を公表することで、より一層、教育研究機関としての活動内容を社会に分かりやすく伝えていこうという意思の表れでもあります。

学園は、今後も毎年継続して「(株)格付投資情報センター」の格付を取得し、自己点検・評価及び財務情報公開の一環としていきたいと考えています。

情報公開

学園は、平成23年4月1日から「学校法人文教大学学園情報公開規程」を制定・施行しました。これは、学園が公教育の担い手として、学校法人の運営や教育研究の諸事業等の社会的説明責任を果たす必要があることに鑑み、体制を整えて事業を展開していくために、学園が保有する情報の公開等について必要な手続を定めたものです。

同日に改正施行された学校教育法施行規則は、「大学が公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、公表すべき情報を法令上明確にし、教育情報の一層の公表を促進すること」を改正の趣旨に掲げています。大学の教育研究活動の内容を公表することで、これまで以上に大学が公教育の担い手として社会的責任を果たす必要があることを自覚するとともに、学園としても教育研究機関としての活動内容を社会に分かりやすく公表していく責務を負うものと考えています。

これらのことを踏まえ、22年度から事業計画書、事業報告書共に形式を刷新しました。事業計画書は、当該年度における学園の事業や大学・各付属学校の教育目標、教育研究活動計画を中心とする内容とし、大学のホームページ等で公表しています。数年をかけて記載内容、形式の充実を図り、年度末の事業報告書との連動を確保していくことで、説明責任履行の主軸としていきます。学園は、主に学園・大学のホームページ、事業計画書及び事業報告書を通じて、教育研究活動に関する情報や財務情報をこれからも積極的に公表して参ります。

施設設備整備

第一次中期経営計画(2009-2012年)では、附属小学校耐震改築等整備工事、及び旗の台キャンパス耐震改築等整備工事の計画を策定しています。築年数が50年を超える建物を持つ両キャンパスの建物を、園児・児童・生徒・教職員の安全・安心が確保できる耐震性の高い校舎を目指して建替え工事計画を進めています。附属小学校は、平成26年3月の竣工を目指し、耐震性に優れた校舎への耐震改築等整備工事を進めています。24年5月には実施設計がほぼ完成し、6月より耐震改築等整備工事が着工しました。25年3月末には、新築建物の3階までコンクリート打設が進んでいます。新築建物は、8月に一部引渡しを受け利用開始される見込みです。一方、既存校舎の解体及び人工芝校庭整備や外溝を含む整備工事全体の竣工は、26年3月末を予定しています。附属小学校隣接地のビルについては、24年12月まで解体工事を行い、1月からはその跡地に敷地面積912.81㎡、運動場面積862.18㎡、ゴムチップウレタン舗装、1周72mトラックを備えたグラウンド整備を行い、25年4月からは附属小学校「第二運動場」として児童の運動能力の向上のための利用が始まります。一方、附属中学校・高等学校・幼稚園を設置している旗の台キャンパスでは、28年6月の竣工を目指して、耐震改築等整備工事（Ⅰ期～Ⅲ期）を24年9月から着工しました。本工事計画では、Ⅰ期工事として、26年2月末までに、本館及び新館を解体し、新たに西棟（旧本館跡地）及び東棟Ⅰ期（旧内庭中央付近）を新築します。さらに28年6月末までに、現在の体育館と1号館を除く全ての建物（2号館、3号館、4号館）を解体撤去し、新たな校舎に

建替える予定です。

[2]大学

ガバナンス

大学の意思決定に係る審議機構として、学長、副学長、学部長、学部選出委員、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学審議会を設置しています。大学審議会は、大学の教育研究の基本方針に関する事項のほか、学則、大学組織、教員人事に関わる重要事項等を審議し、大学の意思を決定します。平成24年度は、11回の審議会を開催しました。

大学院に関わる事項については、学長、副学長、研究科長、学部長、専攻長、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学院委員会を同様に設置しています。大学院委員会は、平成24年度に5回開催しました。

学部横断的な事項に取り組むための教学運営上の組織として、次のとおり委員会を設置しています。国際交流委員会は全学委員会として、それ以外の委員会はキャンパスごとに設置しています。

〈学生委員会〉

学生の厚生補導、学外活動の指導援助、学生の福利厚生に関すること。

〈教務委員会〉

各学部に通ずる教育課程の重要事項に関すること。

〈就職委員会〉

学生の就職及び進路指導に関すること。

〈ハラスメント防止委員会〉

ハラスメント防止及び解決に関すること。

〈国際交流委員会〉

国際交流に関すること。

これらの委員会の委員長（ハラスメント防止委員長を除く）と、学長、副学長、図書館長、大学事務局長及びキャンパス事務局長により、学長室会議を設置しており、学長の補佐機関として教学に関する連絡調整等を行っています。学長室会議は、平成24年度に11回開催しましたが、うち1回（5月）は、入学センター長・副センター長、教育研究推進センター長・次長、情報センター長、保健センター長、生涯学習センター長を加えた拡大学長室会議として開催しました。

自己点検・評価

学長直轄の委員会として点検・評価委員会を設置しており、担当の学長補佐を委員長に各学部からの選出委員、キャンパス事務局及び法人事務局から選出した委員で構成しています。職員人事や財務事項に対応するために法人事務局から委員を選出していることが、本学の点検・評価委員会の特徴です。

平成20年度に受審した認証評価の助言事項に対する改善報告書及び教育学研究科の完成報告書（受審時、完成年度を迎えていない研究科であったため）を作成し、大学基準協会に提出しました。3月に基準協会から受領と「再度報告を求める事項はない」旨の回答を得、20年度の認証評価プロセスが終了しました。

本学規程により自己点検評価は5年に1回実施することになっています。前回点検評価から5年が経過し、24年度が対象年になっていることから、点検評価委員会を中心に自己点検・評価報告書を作成しました。報告書はホームページに公開しています。

情報公開

平成23年4月の学校教育法施行規則改正を受け、23年度に引き続き、大学ホームページで受験生を始めとした学外の方々が教育情報を簡単に調べ、理解を得られるよう大学ホームページに、最新の情報を掲載しました。

施設設備整備

学園の第一次中期経営計画（2009-2012年）の一環として「競争力を持った教育環境の整備」を進めています。施設設備の整備においては、学生の安全・安心を第一義とした各キャンパスの安全性を高める環境整備と教育効果を高める環境整備を二本の柱とし、事業を推進しています。平成24年度の具体的な整備事業については、大学の項目に記載しています。

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究を遂行することにあります。教育活動は人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内に留めることなく、社会に還元することを目的とします。学校法人は、このような特性を踏まえ、永続的に教育研究活動を行えるよう必要な校地、校舎等の基本財産の維持や長期にわたって収入と支出の均衡の状況について確認できるよう、学校法人会計基準に基づき、次の3つの財務諸表を主体として会計処理を行っています。

学校法人会計と
企業会計の違いについて

企業会計が営利目的の事業活動とその成果（財政状態）について、収益力を高めること及び利害関係者に開示することを目的としているのに対し、学校法人会計は一般企業よりも高い公共性から、学校経営における教育研究活動の健全性や永続性を開示することを目的としています。

財務諸表	説明
資金収支計算書	当該会計年度に行った教育研究等の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容と、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。 （勘定科目の説明：【資金収入の部】及び【資金支出の部】）
消費収支計算書	当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態が保たれているかどうかを示すもので、学校法人の負債とならない収入と、借入金返済、施設・設備購入等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上します。これによって、経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。 （勘定科目の説明：【消費収入の部】及び【消費支出の部】）
貸借対照表	一定時点（3月末現在）における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び残高を示し、学校法人としての財政状況（ストック）を明らかにするものです。

資金収支計算書

資金収入の部

科目	説明
学生生徒等納付金収入	授業料、入学金、教育充実費（維持管理費）等、学生生徒等が納入する学費
手数料収入	主に入学検定料等の受験料
寄付金収入	個人や企業からの金銭による寄付金
補助金収入	教育や研究に対しての国や地方公共団体からの助成金
資産運用収入	主に預金、債券等を運用して得た利息又は配当金
資産売却収入	主に保有する有価証券の満期償還や資産を売却したことで得る収入
事業収入	公開講座の受講料や外部機関からの受託研究資金
雑収入	退職金財団等からの交付金や上記に属さない収入
借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団又は銀行等からの借入金
その他の収入	当年度に入金される「前期末未収入金収入」等

資金支出の部

科目	説明
人件費支出	教職員の給与及び退職金並びに日本私立学校振興・共済事業団、退職金財団等の掛金
教育研究経費支出	教育研究、奨学金及び学生生活を支援するために要する費用
管理経費支出	学生の募集活動（広報費）や事務管理費等の教育に直接関係のない費用
借入金等利息支出	借入金に伴う利息
借入金等返済支出	借入金元本部分の返済
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産取得のための支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための支出
資産運用支出	将来の固定資産を取得するための準備金や特定事業目的のための基金等への繰入支出
その他の支出	主に当年度に支払われる「前期末未払金支払支出」等

消費収支計算書

※消費収支計算書特有の科目を掲載

消費収入の部

科目	説明
寄付金	資金収支計算書の寄付金に加え、現物寄付を計上
資産売却差額	保有していた資産の額（取得価格）以上で売却した時の差額分
帰属収入	負債とならない収入で、学校法人の事業活動によって得られた当該年度分の収入や現物寄付等が計上され、他人資金である借入金等は除外されます。
基本金組入額	学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために帰属収入から組入れるもので、土地や建物等の施設関係資産の取得額（第1号基本金）、奨学金基金への繰入額（第3号基本金）、1か月分の運転資金相当額（第4号基本金）等で構成されます。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で賄った相当額となります。
消費収入	帰属収入から基本金組入額を控除した後の額

消費支出の部

科目	説明
人件費（退職給与引当金繰入額）	資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていますが、消費収支計算書では教職員人件費のほかに退職給与引当金繰入額という科目があります。これは当該年度末に在職する教職員全員の退職金から、一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額（不足額）を追加的に繰り入れるものです。
教育研究経費（減価償却額）	資金収支計算書に掲載されている科目以外に、減価償却額が計上されています。減価償却とは、時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産（校舎・機器備品）について、資産としての価値を減少させるための手続きをいいます。実際に資金を伴う支出がある訳ではありませんが、取得した建物等の資産を活用して教育・研究を行っている実態から、使用期間に応じて取得価格を合理的に配分して毎年費用化します。
管理経費（減価償却額）	同上
資産処分差額	保有していた資産の額（取得価格）を下回って売却した時の差額分
当年度帰属収支差額	帰属収入と消費支出の差額で、学校法人の経営状態を見る重要な指標
当年度消費収支差額	帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入と消費支出の差額。収入超過であれば、資本的支出（基本金組入額）と経費支出の全てが帰属収入で賄われたこととなります。この消費収支の差額の累計が翌年度繰越消費収支差額です。

[1] 財産目録

(単位:千円)

区 分	平成24年度 (平成25年3月31日現在)		平成23年度 (平成24年3月31日現在)	
一 資産				
(一) 基本財産	23,425,316		23,020,692	
1 土地	233,317.24㎡	6,944,598	233,317.24㎡	6,944,598
①校舎敷地	158,883.83㎡	5,129,788	158,883.83㎡	5,129,788
②図書館敷地	3,146.61㎡	75,245	3,146.61㎡	75,245
③体育館敷地	4,279.73㎡	99,143	4,279.73㎡	99,143
④運動場敷地	66,120.90㎡	1,152,778	66,120.90㎡	1,152,778
⑤その他敷地	886.17㎡	487,644	886.17㎡	487,644
2 建物	103,334.56㎡	10,701,650	106,768.72㎡	11,111,796
①校舎	84,375.09㎡	7,808,771	87,731.19㎡	8,110,738
②図書館	8,185.47㎡	882,110	8,185.47㎡	912,425
③講堂・体育館	8,666.68㎡	1,751,448	8,666.68㎡	1,804,992
④寄宿舎	1,695.10㎡	212,095	1,695.10㎡	222,428
⑤その他	412.22㎡	47,226	490.28㎡	61,212
⑥建設仮勘定		906,725		109,157
3 図書	583,891冊	2,656,983	574,571冊	2,628,393
4 教具・校具・備品	19,063点	1,069,434	18,680点	1,085,450
5 その他		1,145,926		1,141,298
(二) 運用財産	19,211,611		18,793,335	
1 預金・現金	10,350,363		9,631,917	
2 積立金	5,016,077		5,023,269	
3 有価証券	3,036,001		3,641,402	
4 差入保証金	50,682		50,616	
5 長期貸付金	0		516	
6 短期貸付金	16		596	
7 未収入金	724,397		409,734	
8 前払金	34,055		35,265	
9 その他	20		20	
資産総額	42,636,928		41,814,027	
二 負債				
1 固定負債	4,086,158		4,406,052	
①長期借入金	378,820		589,240	
日本私立学校振興・共済事業団	(378,820)		(589,040)	
②長期未払金	322,424		281,707	
③退職給与引当金	3,384,915		3,535,105	
2 流動負債	4,461,219		4,459,839	
①短期借入金	210,420		210,220	
日本私立学校振興・共済事業団	(210,220)		(210,220)	
②前受金	2,725,996		2,792,251	
③未払金	1,351,144		1,294,247	
④預り金	173,659		163,122	
負債総額	8,547,377		8,865,891	
三 基本財産+運用財産	42,636,928		41,814,027	
四 純資産(三-二)	34,089,550		32,948,136	
総負債(二) - 前受金 総資産(三) × 100	13.7%		14.5%	

〔2〕収支計算書

資金収支計算書

収入の部

学生生徒等納付金収入は、前年度比68百万円増加し、10,416百万円(予算比98百万円の増加)となりました。手数料収入は、大学において受験機会を増やす入試制度改革を実施した結果、特に地区入試及び大学入試センター試験利用入試で受験者数が増加し、前年度比20百万円増加しました。寄付金収入は、平成29年に向け創立90周年記念事業募金を開始したことで、前年度から倍増の40百万円となり、補助金収入では、附属学校の改新築工事に伴う安全対策費用に対する補助金(東京都)の増加により、補助金収入総額では前年度比126百万円増加しました。雑収入は、退職者が増加したこと等による退職金財団等交付金の増加により前年度比135百万円増加しました。入学時納付金である前受金収入は、前年度比65百万円減少し、2,726百万円(予算比30百万円の増加)となりました。これらにより、当年度収入合計は前年度から微増し、13,165百万円となりました。

支出の部

人件費支出では、平成23年度に引き続き、団塊世代の定年退職者が増加したことによる退職金支出の増加等から、前年度比151百万円増加しました。教育研究経費は、22年度及び23年度に引き続き、一部校舎の改修計画変更等から未執行経費が発生し、予算比、前年度比ともに減少しました。管理経費については、業務の効率化と合理化を徹底した結果、予算比126百万円減少しました。施設関係支出については、旗の台キャンパス耐震改築等整備工事及び石川台キャンパス附属小学校耐震改築等整備工事の計画変更により、一部工事延期等により、予算比では大きく減少していません。設備関係支出については、23年度に大規模なリース物件を資産計上したことで金額が増加しましたので、前年度比では303百万円減少しました。資産運用支出は、24年度より有価証券等の運用方針を一部変更した結果、前年度比657百万円減少しました。当年度収支差額は、718百万円の収入超過となり、また、次年度繰越支払資金については、前年度比718百万円増加し、10,350百万円(予算比1,280百万円の増加)となりました。

収入の部

科目	平成24年度予算	平成24年度決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,317,693	10,416,098	△ 98,405
手数料収入	505,431	548,706	△ 43,275
寄付金収入	26,659	40,564	△ 13,905
補助金収入 (国庫補助金収入) (地方公共団体補助金収入)	1,020,884 (516,003) (504,881)	1,184,439 (527,741) (656,698)	163,555 (△ 11,738) (△ 151,817)
資産運用収入	71,094	75,699	△ 4,605
資産売却収入	618,000	619,500	△ 1,500
事業収入	67,388	73,141	△ 5,753
雑収入	516,297	576,898	△ 60,601
借入金等収入	200	0	200
前受金収入	2,695,000	2,725,895	△ 30,895
その他の収入	302,179	421,532	△ 119,353
資金収入調整勘定	△ 3,088,349	△ 3,516,547	428,198
当年度収入合計	13,052,476	13,165,925	△ 113,449
前年度繰越支払資金	9,631,917	9,631,917	—
収入の部合計	22,684,393	22,797,842	△ 113,449

前年度比

(単位:千円)

平成23年度決算	増減
10,348,131	67,967
529,143	19,563
20,245	20,319
1,057,953 (551,262) (506,691)	126,485 (△ 23,521) (150,006)
76,015	△ 316
618,469	1,031
73,824	△ 683
441,479	135,419
0	0
2,791,147	△ 65,252
311,704	109,829
△ 3,103,530	△ 413,017
13,164,580	1,345
8,793,762	838,155
21,958,342	839,500

支出の部

科目	平成24年度予算	平成24年度決算	差異
人件費支出	7,777,414	7,743,284	34,130
教育研究経費支出	2,671,459	2,298,457	373,002
管理経費支出	998,672	872,705	125,967
借入金等利息支出	11,322	11,322	0
借入金等返済支出	210,220	210,220	0
施設関係支出	1,673,732	1,005,243	668,489
設備関係支出	395,404	385,397	10,007
資産運用支出	18,423	19,675	△ 1,252
その他の支出	1,301,587	1,327,882	△ 26,295
予備費	50,000	—	50,000
資金支出調整勘定	△ 1,494,600	△ 1,426,706	△ 67,894
当年度支出合計	13,613,633	12,447,479	1,166,154
次年度繰越支払資金	9,070,760	10,350,363	△ 1,279,603
支出の部合計	22,684,393	22,797,842	△ 113,449
当年度収支差額	△ 561,157	718,446	△ 1,279,603

前年度比

(単位:千円)

平成23年度決算	増減
7,592,285	150,999
2,301,888	△ 3,431
852,979	19,726
14,959	△ 3,637
210,220	0
429,419	575,824
688,769	303,372
677,147	△ 657,472
1,099,707	228,175
—	0
△ 1,540,947	114,241
12,326,425	121,054
9,631,917	718,446
21,958,342	839,500
838,155	△ 119,709

消費収支計算書

消費収入の部

帰属収入(学校の負債とならない収入)は、前年度比391百万円増加し、12,942百万円(予算比 420百万円の増加)となりました。平成24年度より旗の台キャンパス耐震改築等整備工事及び石川台キャンパス付属小学校耐震改築等整備工事が本格的に開始したことから、基本金組入額は、前年度比363百万円増加しました。一方で一部工事の延期等があったことから、予算比では1,207百万円減少しました。消費収入全体では、収入控除科目である基本金組入額の影響から予算比1,628百万円の増加となっています。

消費支出の部

人件費は、退職給与引当金繰入額の増加から、前年度比266百万円増加の7,616百万円となりました。教育研究経費及び管理経費については、資金支出の金額のほかに施設設備の減価償却額(学校法人の基本財産である固定資産の取り換え更新に備える費用)がそれぞれに計上されています。消費支出特有の科目である資産処分差額は、図書処分差額が減少したことで、予算比26百万円減少しました。消費支出全体では、前年度比346百万円増加(予算比384百万円減少)し、11,800百万円となりました。以上の結果、当年度消費収支は169百万円の収入超過(黒字)となり、その分累積支出超過額(赤字)は減少し、1,147百万円となりました。

消費収入の部

科目	平成24年度予算	平成24年度決算	差異
学生生徒等納付金	10,317,693	10,416,098	△ 98,405
手数料	505,431	548,706	△ 43,275
寄付金	26,659	43,305	△ 16,646
補助金 (国庫補助金) (地方公共団体補助金)	1,020,884 (516,003) (504,881)	1,184,439 (527,741) (656,698)	△ 163,555 (△ 11,738) (△ 151,817)
資産運用収入	65,694	70,299	△ 4,605
資産売却差額	1,440	274	1,166
事業収入	67,388	73,141	△ 5,753
雑収入	516,297	605,537	△ 89,240
帰属収入合計	12,521,486	12,941,799	△ 420,313
基本金組入額合計	△ 2,180,139	△ 972,629	△ 1,207,510
消費収入の部合計	10,341,347	11,969,170	△ 1,627,823

前年度比

(単位:千円)

平成23年度決算	増減
10,348,131	67,967
529,143	19,563
24,900	18,406
1,057,953 (551,262) (506,691)	126,485 (△ 23,521) (150,006)
70,436	△ 137
795	△ 521
73,824	△ 683
445,434	160,103
12,550,617	391,182
△ 609,841	△ 362,788
11,940,776	28,394

消費支出の部

科目	平成24年度予算	平成24年度決算	差異
人件費	7,617,504	7,615,988	1,516
教育研究経費 (減価償却額)	3,347,459 (676,000)	3,155,316 (856,222)	192,143 (△ 180,222)
管理経費支出 (減価償却額)	1,073,672 (75,000)	959,738 (87,033)	113,934 (△ 12,033)
借入金等利息	11,322	11,322	0
資産処分差額	83,540	58,020	25,520
徴収不能額	500	0	500
予備費	50,000	—	50,000
消費支出の部合計	12,183,997	11,800,384	383,613
当年度消費収入超過額	0	168,786	—
当年度消費支出超過額	1,842,650	0	—
前年度繰越消費支出超過額	1,315,319	1,315,319	—
基本金取崩額	—	—	—
翌年度繰越消費支出超過額	3,157,969	1,146,533	—

前年度比

(単位:千円)

平成23年度決算	増減
7,349,882	266,106
3,102,160 (799,928)	53,157 (56,294)
932,496 (79,517)	27,242 (7,516)
14,959	△ 3,637
54,674	3,346
0	0
—	—
11,454,170	346,214
486,606	△ 317,820
0	0
1,809,775	△ 494,456
7,850	△ 7,850
1,315,319	△ 168,786

貸借対照表

当年度の資産規模は42,637百万円となり、前年度より823百万円増加しました。資産の部では、有形固定資産が旗の台キャンパス耐震改築等整備工事及び石川台キャンパス附属小学校耐震改築等整備工事により建設仮勘定が増加し、その他の固定資産では、資産運用方針の一部変更により有価証券が減少しました。流動資産については、資産運用方針の一部変更及び旗の台・石川台キャンパスの耐震改築等整備工事の一部延期による支払の減少等から、現金預金が増加し、全体としては1,031百万円の増加となりました。

負債・基本金及び消費収支差額の部では、退職者増加による要引当金額の減少から退職給与引当金が減少し、また、旗の台・石川台キャンパスの耐震改築等整備工事等による施設・設備関係支出の増加や未払金の返済等により第1号基本金が増加しました。これらの結果、資産から負債を差し引いた正味財産は、34,090百万円となり、前年度比 1,141百万円の増加となりました。

(単位:千円)

科目	平成24年度	平成23年度	増 減
資産の部			
固定資産	31,528,095	31,736,513	△ 208,418
有形固定資産	23,008,948	22,685,923	323,025
土地	6,944,598	6,944,598	0
建物	10,701,650	11,111,796	△ 410,146
構築物	728,885	805,637	△ 76,752
教育研究用機器備品	961,413	959,561	1,852
その他の機器備品	108,021	125,889	△ 17,868
図書	2,656,983	2,628,393	28,590
建設仮勘定	906,725	109,157	797,568
その他	673	892	△ 219
その他の固定資産	8,519,146	9,050,590	△ 531,444
ソフトウェア	246,741	243,942	2,799
有価証券	3,036,001	3,641,402	△ 605,401
引当特定資産	5,016,077	5,023,269	△ 7,192
その他	220,326	141,977	78,349
流動資産	11,108,833	10,077,514	1,031,319
現金預金	10,350,363	9,631,917	718,446
その他	758,470	445,597	312,873
資産の部合計(A)	42,636,928	41,814,027	822,901

(単位:千円)

科目	平成24年度	平成23年度	増 減
負債の部			
固定負債	4,086,158	4,406,052	△ 319,894
長期借入金	378,820	589,240	△ 210,420
長期未払金	322,424	281,707	40,717
退職給与引当金	3,384,915	3,535,105	△ 150,190
流動負債	4,461,219	4,459,839	1,380
短期借入金	210,420	210,220	200
未払金	1,351,144	1,294,247	56,897
前受金	2,725,996	2,792,251	△ 66,255
預り金	173,659	163,122	10,537
負債の部合計(B)	8,547,377	8,865,891	△ 318,514
基本金の部			
第1号基本金	34,310,084	33,337,455	972,629
第3号基本金	125,000	125,000	0
第4号基本金	801,000	801,000	0
基本金の部合計	35,236,084	34,263,455	972,629
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,146,533	△ 1,315,319	168,786
消費収支差額の部合計	△ 1,146,533	△ 1,315,319	168,786
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	42,636,928	41,814,027	822,901
(A) - (B)	34,089,550	32,948,136	1,141,414

[1] 収支計算書の推移

当該年度を含む過去5年間の財政の推移を掲載しています。

資金収支計算書

収入の部

(単位:百万円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生生徒等納付金収入	10,129	10,279	10,485	10,348	10,416
手数料収入	464	530	539	529	549
寄付金収入	23	19	14	20	41
補助金収入	1,146	1,218	1,092	1,058	1,184
資産運用収入	105	111	93	76	76
資産売却収入	372	609	611	618	620
事業収入	51	59	66	74	73
雑収入	380	293	336	441	577
借入金等収入	0	580	0	0	0
前受金収入	2,835	2,881	2,695	2,791	2,726
その他の収入	400	327	227	312	422
資金収入調整勘定	△ 3,151	△ 3,041	△ 3,177	△ 3,104	△ 3,517
前年度繰越支払資金	11,326	8,575	9,241	8,794	9,632
収入の部合計	24,081	22,439	22,223	21,958	22,798

支出の部

(単位:百万円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人件費支出	7,236	7,062	7,414	7,592	7,743
教育研究経費支出	2,533	2,517	2,366	2,302	2,298
管理経費支出	797	925	869	853	873
借入金等利息支出	26	22	19	15	11
借入金等返済支出	94	94	94	210	210
施設関係支出	988	886	399	429	1,005
設備関係支出	287	394	256	689	385
資産運用支出	2,573	1,316	2,225	677	20
その他の支出	1,758	896	900	1,100	1,328
資金支出調整勘定	△ 786	△ 915	△ 1,111	△ 1,541	△ 1,427
次年度繰越支払資金	8,575	9,241	8,794	9,632	10,350
支出の部合計	24,081	22,439	22,223	21,958	22,798

消費収支計算書

消費収入の部

(単位:百万円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生生徒等納付金	10,129	10,279	10,484	10,348	10,416
手数料	464	530	538	529	549
寄付金	25	28	25	25	43
補助金	1,145	1,218	1,092	1,058	1,184
資産運用収入	105	111	89	70	70
資産売却差額	5	0	0	0	0
事業収入	51	58	66	74	73
雑収入	305	224	336	445	606
帰属収入合計	12,233	12,451	12,635	12,551	12,942
基本金組入額(+△)	△ 1,732	△ 798	△ 627	△ 610	△ 973
消費収入の部合計	10,501	11,652	12,008	11,941	11,969

消費支出の部

(単位:百万円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人件費	7,185	7,042	9,215	7,350	7,616
教育研究経費	3,187	3,231	3,064	3,102	3,155
管理経費	860	991	944	932	960
借入金等利息	25	22	18	15	11
資産処分差額	306	34	154	55	58
徴収不能額	0	0	0	0	0
消費支出の部合計	11,557	11,323	13,397	11,454	11,800
当年度消費収支超過額	△ 1,066	329	△ 1,390	487	169
前年度繰越消費収支超過額	17	△ 816	△ 429	△ 1,810	△ 1,315
翌年度繰越消費収支超過額	△ 816	△ 429	△ 1,810	△ 1,315	△ 1,147

その他の数値

(単位:百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
帰属収入－消費支出	667	1,127	△ 763	1,096	1,141
学生生徒数(単位:人)	10,027	10,131	10,274	10,174	10,166

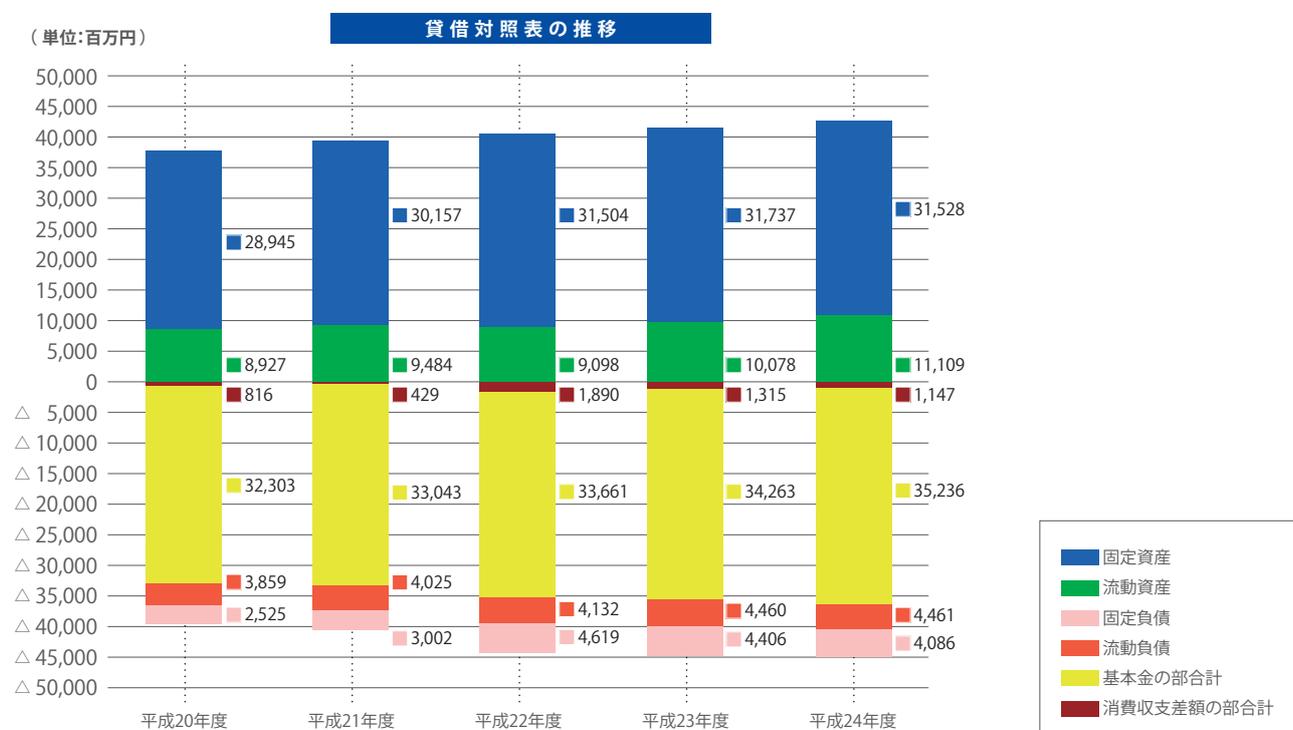


※平成22年度の(帰属収入－消費支出)がマイナスとなっているのは、退職給与引当金の繰入率を50%から100%に引き上げたことによるものです。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
固定資産	28,945	30,157	31,504	31,737	31,528
(有形固定資産)	(22,583)	(22,971)	(22,666)	(22,686)	(23,009)
(その他の固定資産)	(6,362)	(7,187)	(8,839)	(9,051)	(8,519)
流動資産	8,927	9,484	9,098	10,078	11,109
資産の部合計	37,871	39,641	40,602	41,814	42,637
固定負債	2,525	3,002	4,619	4,406	4,086
流動負債	3,859	4,025	4,132	4,460	4,461
負債の部合計	6,385	7,027	8,750	8,866	8,547
第1号基本金	31,377	32,117	32,735	33,337	34,310
第3号基本金	125	125	125	125	125
第4号基本金	801	801	801	801	801
基本金の部合計	32,303	33,043	33,661	34,263	35,236
消費収支差額の部合計	△ 816	△ 429	△ 1,890	△ 1,315	△ 1,147
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	37,871	39,641	40,602	41,814	42,637



※【グラフの表示について】「(2)消費収支の推移」の(消費収入の部:基本金組入額、消費支出の部:各支出科目)、「(3)貸借対照表の推移」の(負債の部、基本金組入の部)について、グラフの表示上マイナスの数値として表示しています。

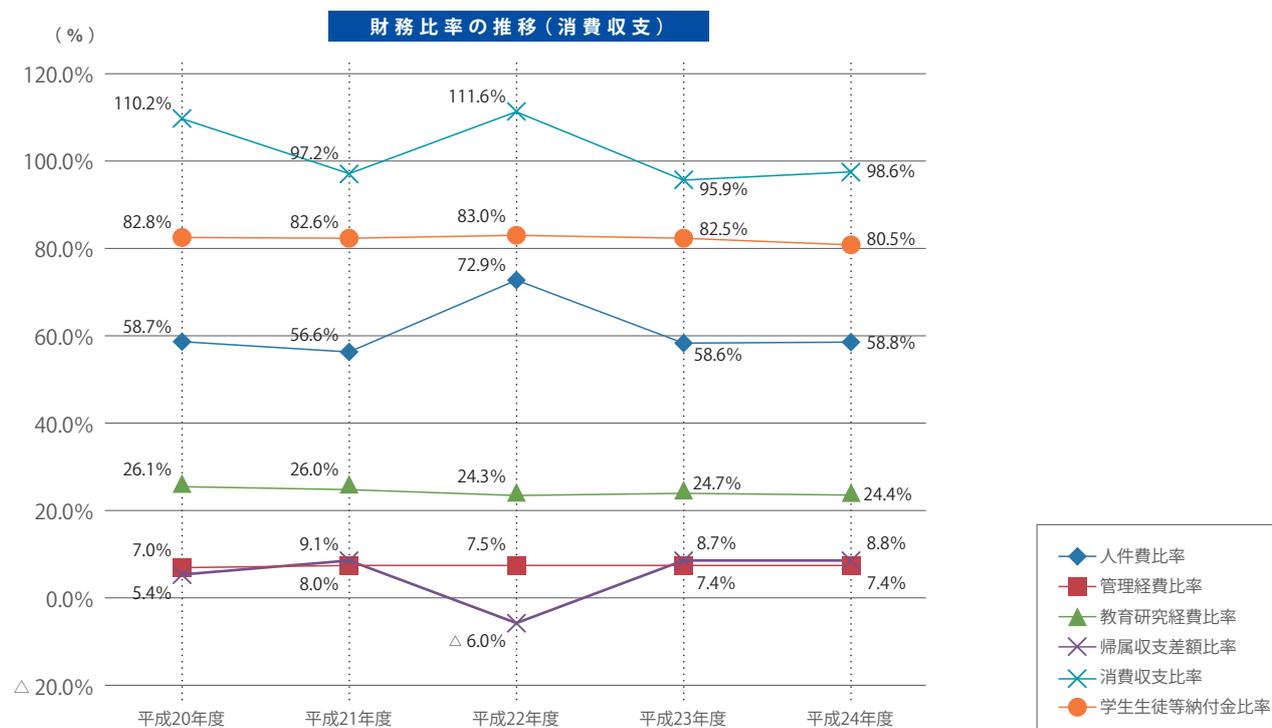
[2] 財務比率の推移

当該年度を含む過去5年間の主な財務比率を掲載しています。

消費収支計算書の比率

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	評価指標*1	大学平均*2
人件費比率	人件費 帰属収入	58.7%	56.6%	72.9%	58.6%	58.8%	▼	54.0%
教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	26.1%	26.0%	24.3%	24.7%	24.4%	△	30.9%
管理経費比率	管理経費 帰属収入	7.0%	8.0%	7.5%	7.4%	7.4%	▼	8.7%
帰属収支差額比率	帰属収入-消費支出 帰属収入	5.4%	9.1%	△ 6.0%	8.7%	8.8%	△	3.4%
消費収支比率	消費支出 消費収入	110.2%	97.2%	111.6%	95.9%	98.6%	▼	109.2%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	82.8%	82.6%	83.0%	82.5%	80.5%	～	72.7%

*1) 評価指標: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (目安) △…高い値が良い ▼…低い方が良い ～…どちらともいえない
 *2) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 医歯系法人を除く大学法人の平成23年度の数値を表示



※ 平成22年度の人件費比率、帰属収支差額比率等が大きく変化しているのは、退職給与引当金の繰入率を50%から100%に引き上げたことによるものです。

貸借対照表の比率

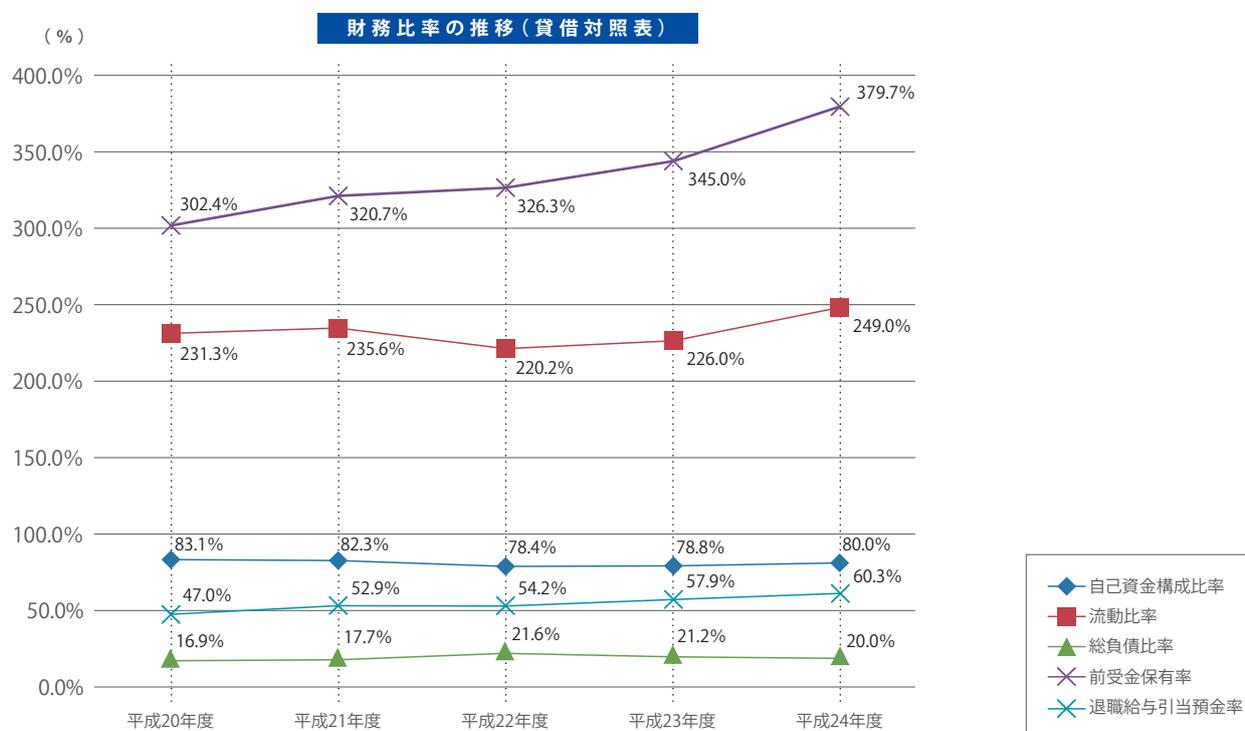
区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	評価指標*3	大学平均*4
自己資金構成比率	自己資金*1	83.1%	82.3%	78.4%	78.8%	80.0%	△	86.9%
	総資金							
流動比率	流動資産	231.3%	235.6%	220.2%	226.0%	249.0%	△	230.3%
	流動負債							
総負債比率	総負債 総資産	16.9%	17.7%	21.6%	21.2%	20.0%	▼	13.1%
負債比率	総負債 自己資金*1	20.3%	21.5%	27.5%	26.9%	25.1%	▼	15.1%
前受金保有率	現預金 前受金	302.4%	320.7%	326.3%	345.0%	379.7%	△	311.7%
退職給与引当預金率	退職給与特定預金 退職給与引当金	47.0%	52.9%	54.2%	57.9%	60.3%	△	66.1%
基本金比率*2	基本金	98.8%	98.9%	99.0%	98.2%	98.3%	△	97.1%
	基本金要入額							

*1) 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

*2) 基本金比率について、本学では基本金対象資産の組入れ額を正確に把握する目的で、第1号基本金のみの比率を採用しています。

*3) 評価指標: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (目安) △…高い値が良い ▼…低い方が良い ~…どちらともいえない

*4) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 医歯系法人を除く大学法人の平成23年度の数値を表示



監査報告書

平成25年5月28日

学校法人 文教大学学園
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 文教大学学園
監事 寺田 祥三
監事 佐藤 善吉

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人文教大学学園寄附行為第27条の規定に基づき、学校法人文教大学学園の平成24年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の、業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会その他必要と思われる会議に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、監査室から業務監査の報告を受けるとともに、独立監査人である有限責任 あずさ監査法人与連携し、計算書類について検討を行うなど、必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、私たちは学校法人文教大学学園の業務に関する決定及び執行は適正であり、業務及び財産に関し不正の行為又は法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

また、計算書類、すなわち資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表並びに財産目録は会計帳簿と合致し、学校法人文教大学学園の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

以 上

平成24年度（2012年度）
文教大学学園事業報告書

平成25年6月28日 発行

編集人 事業計画書・事業報告書策定プロジェクトチーム2012-2013
〔法人事務局〕 末岡知里（総務課総務人事担当）
猪飼茂弘（総務課経理担当） 草薙宗徳（管財課）
酒主浩聡（広報マーケティング室）
〔経営企画局〕 小島 誠・吉野正治（経営企画課）
〔大学事務局〕 本田明子（学長事務室）
〔中学高等学校〕 小林 仁（中学高等学校事務室）

発行人 学校法人 文教大学学園
発行所 東京都品川区旗の台 3-2-17 TEL:03-3783-5511（代）
制作/印刷 株式会社 クリエイティブ・マインド/株式会社 精美堂

